



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PIXIS JOY



このたびは、トヨタ車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

本書は、ピクシス ジョイの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。

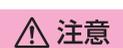
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

 警告	お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
 注意	お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
 知識	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。
 オプション/グレード別装備	オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。

ご愛車のために

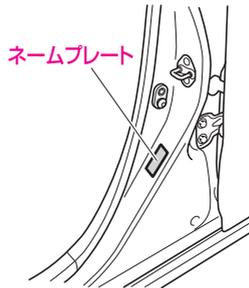
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとお便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
 - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のトヨタ販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	オートマチックトランスミッション

ネームプレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



目次

絵目次	2
こんなときは	10

必読！ ドライバーのみなさまへ

走行する前に	14
エンジンをかけるときは	17
走行しているときは	18
駐停車するときは	21
お子さまを乗せるときは	23
こんなときは	25
お車を長持ちさせるには	28
知っておいていただきたいこと	30

安全なドライブのために

正しい運転姿勢	34
正しい運転姿勢	34
シートベルト	35
正しいシートベルトの着用	35
シートベルトの使いかた	35
お子さま専用シート	40
チャイルドシート	40
チャイルドシートの選びかた	42
チャイルドシートの 固定のしかた	48
SRS エアバッグ	55
SRS エアバッグ	55
SRS エアバッグ コンピューター	65
セキュリティ機能	67
イモビライザー機能	67
セキュリティアラーム	68

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉	74
キー	74
キーフリーシステム	78
ドア	88
バックドア	95
パワーウインド	99
給油のしかた	104
車体各部の調整	107
フロントシート	107
リヤシート	109
ヘッドレスト	112
シートアレンジ	114
ルームミラー	115
ドアミラー	116
チルトステアリング	119

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯	122
警告灯	122
表示灯	134
メーターのはたらき	142
メーター	142
スイッチの使いかた	154
ライトスイッチ	154
ヘッドランプマニュアル レベリングスイッチ	162
フォグランプスイッチ	163
ワイパー・ウォッシャー スイッチ	163
ホーンスイッチ	166
方向指示スイッチ	166
非常点滅灯スイッチ	167

車を運転するにあたって

運転するとき	170
運転をする前に	170
運転のしかた	172
運転するときの注意事項	175
運転装置の使いかた	179
エンジンスイッチ	179
駐車ブレーキ	184
シフトレバー	185
D assist 切替ステアリング スイッチ	191
ABS	193
ABS (EBD 機能付)	193
VSC & TRC	195
VSC	195
TRC	196
メーター表示	198
VSC & TRC OFF スイッチ	200
DAC	201
DAC	201
メーター表示	204
ヒルホールドシステム	205
ヒルホールドシステム	205
スマートアシストⅢ	207
スマートアシストⅢ	207
ステレオカメラ	210
ソナー	213
衝突警報機能 (対車両・対歩行者)、 衝突回避支援ブレーキ機能 (対車両・対歩行者)	214
誤発進抑制制御機能 (前方・後方)	225
車線逸脱警報機能	234
先行車発進お知らせ機能	238
メーター表示	241
スマートアシスト OFF スイッチ	249
エマージェンシーストップ シグナル	250
エマージェンシーストップ シグナル	250

アイドリングストップ	
システム	251
eco IDLE (エコアイドル)	251
エコ発電制御	264
エコ発電制御	264

装備品の使いかた

空調	266
オートエアコン	266
リヤウインドデフォッガー	
スイッチ	276
ウインドシールドディアイサー	
スイッチ	277
オーディオ	278
ルーフアンテナ	278
オーディオ操作	
ステアリングスイッチ	279
バックカメラ	280
室内装備品	284
室内照明	284
アクセサリソケット	287
アームレスト	288
シートヒーター	
(運転席 / 助手席)	289
サンバイザー	290
格納式アシストグリップ	291
コートフック	292
収納装備	293
ドリンクホルダー	299
買い物フック	302

車のお手入れ

日常のお手入れ	304
ボデー、塗装面のお手入れ	304
室内のお手入れ	306
簡単な点検・部品の交換	308
エンジンルーム内の点検	308
消耗品の補給、交換	312
タイヤの点検	315
ワイパーの交換	322

エアコンガス、	
フィルターの交換	326
ヒューズの交換	327
電球 (バルブ) 交換	330
キーの電池交換	343

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い	348
冬に向かってのお手入れ	348
走行前点検と準備	349
積雪、寒冷時の走行	350
走行中の点検と注意	352
走行後の取り扱い	353

いざというときに

工具類	356
格納場所	356
ジャッキの使いかた	358
タイヤパンク応急修理セット	362
いざというときの処置	371
エンジンがかからないとき	371
スタック (立ち往生)	
したとき	371
故障したとき	372
けん引される時	374
パンクしたとき	377
バッテリーあがりの処置	377
オーバーヒートの処置	381
電子カードキーが	
使用できないとき	383
キーを閉じ込めたとき	386
車両を緊急停止するには	387
事故が起きたとき	388

サービスデータ

サービスデータ	390
---------------	-----

さくいん

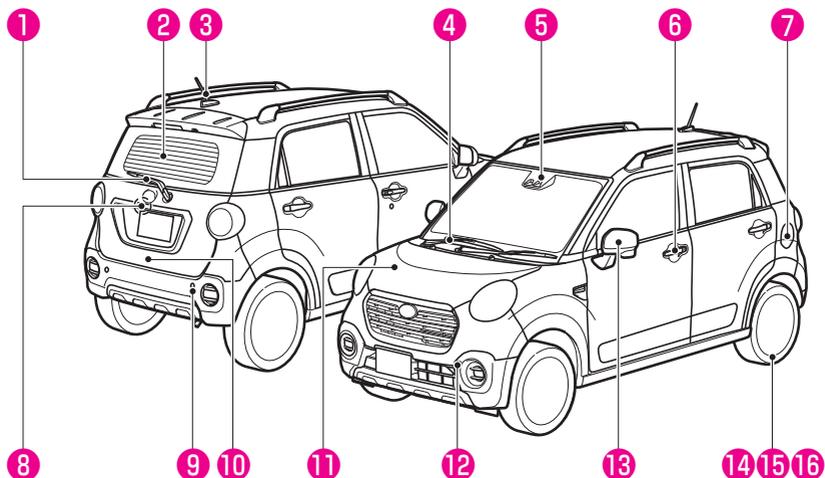
さくいん	396
------------	-----

絵目次

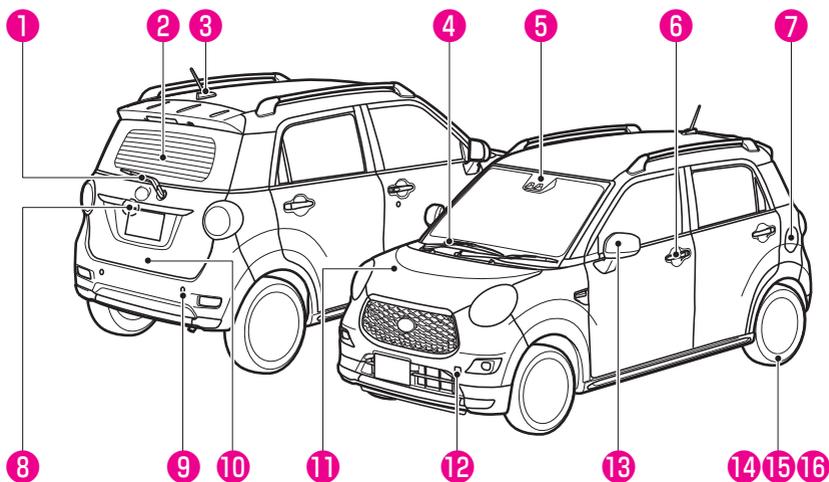
■ 外観

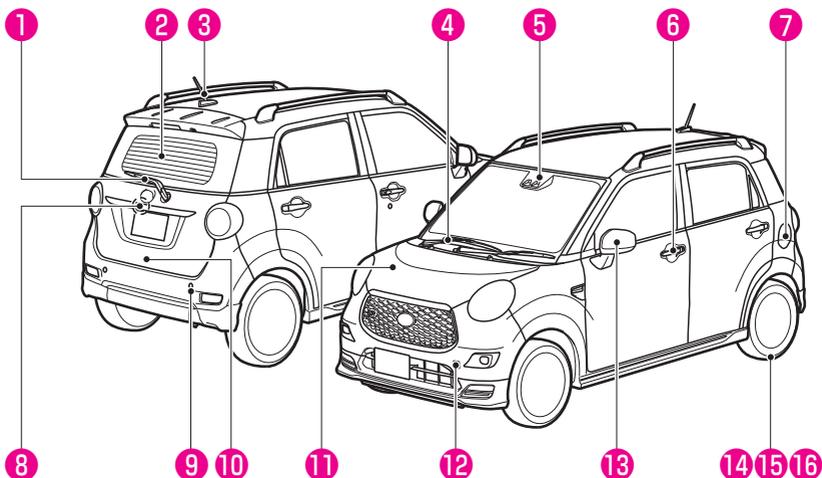
グレードの違い、注装備も記載しています。

ジョイC



ジョイF

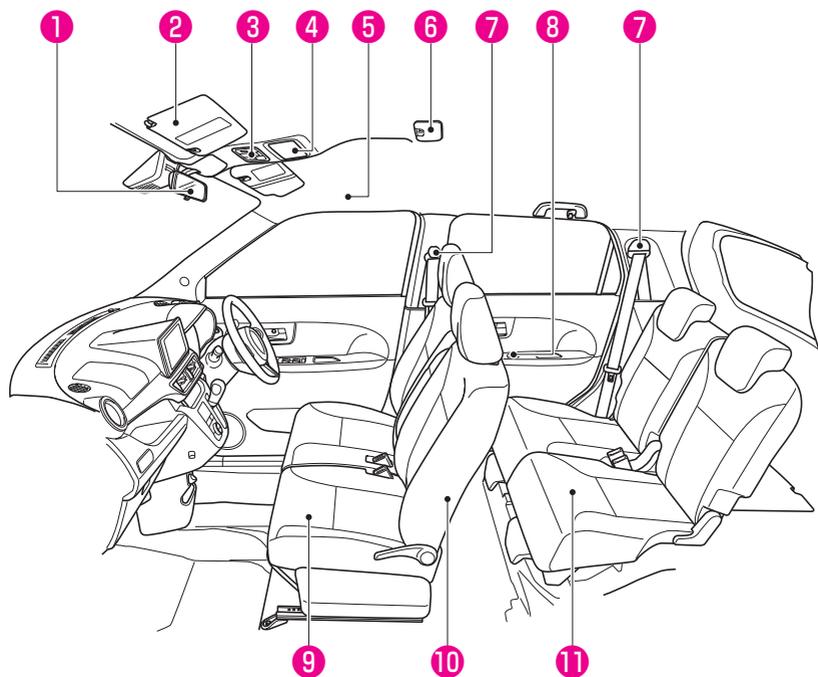




① リヤワイパー	165	⑩ バックドア	95
② リヤウインドデフォグガー	276	⑪ ボンネット	309
③ ルーフアンテナ	278	⑫ けん引フック	376
④ フロントワイパー	164	⑬ 電動格納式ドアミラー	116
⑤ ステレオカメラ	210	⑭ タイヤの交換	317
⑥ ドアの開閉	88	⑮ タイヤローテーション	316
⑦ フューエルリッド	104	⑯ タイヤパンク 応急修理セット	362
⑧ バックカメラ	280		
⑨ ソナー	213		

内装 (1)

グレードの違い、注装備も記載しています。



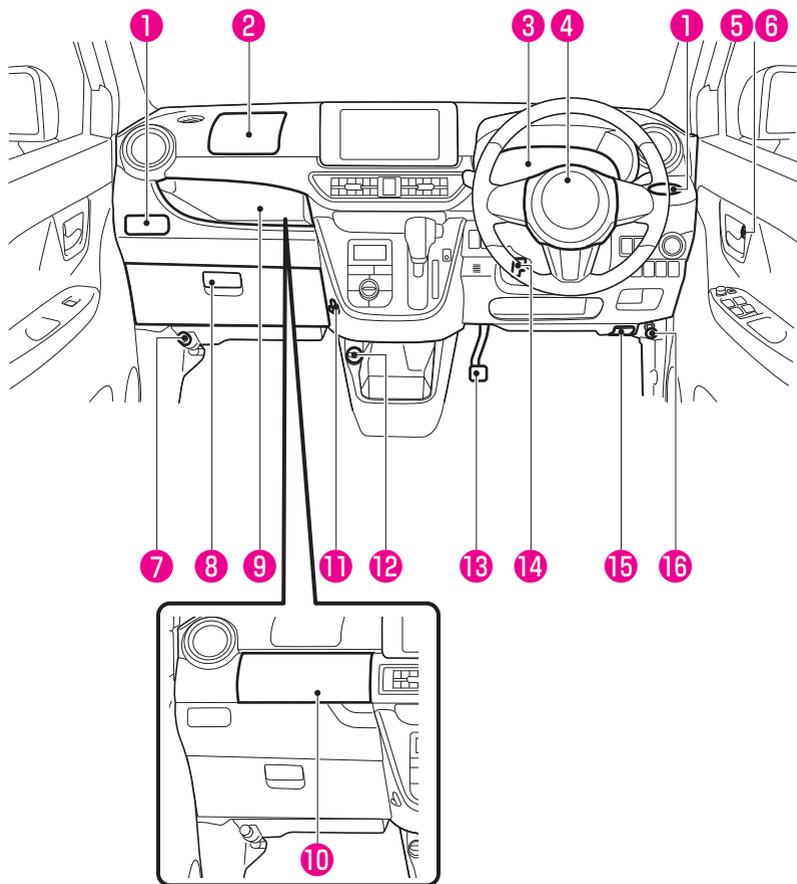
助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。
衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(チャイルドシートの固定のしかた→ 48 ページ)

① ルームミラー	115
② サンバイザー	290
③ フロントパーソナルランプ	284
④ オーバーヘッドコンソール	295
⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ	55
⑥ ルームランプ	285
⑦ シートベルト	35
⑧ パワーウインドスイッチ	99
⑨ フロントシート	107
⑩ SRS サイドエアバッグ	55
⑪ リヤシート	109

内装 (2)

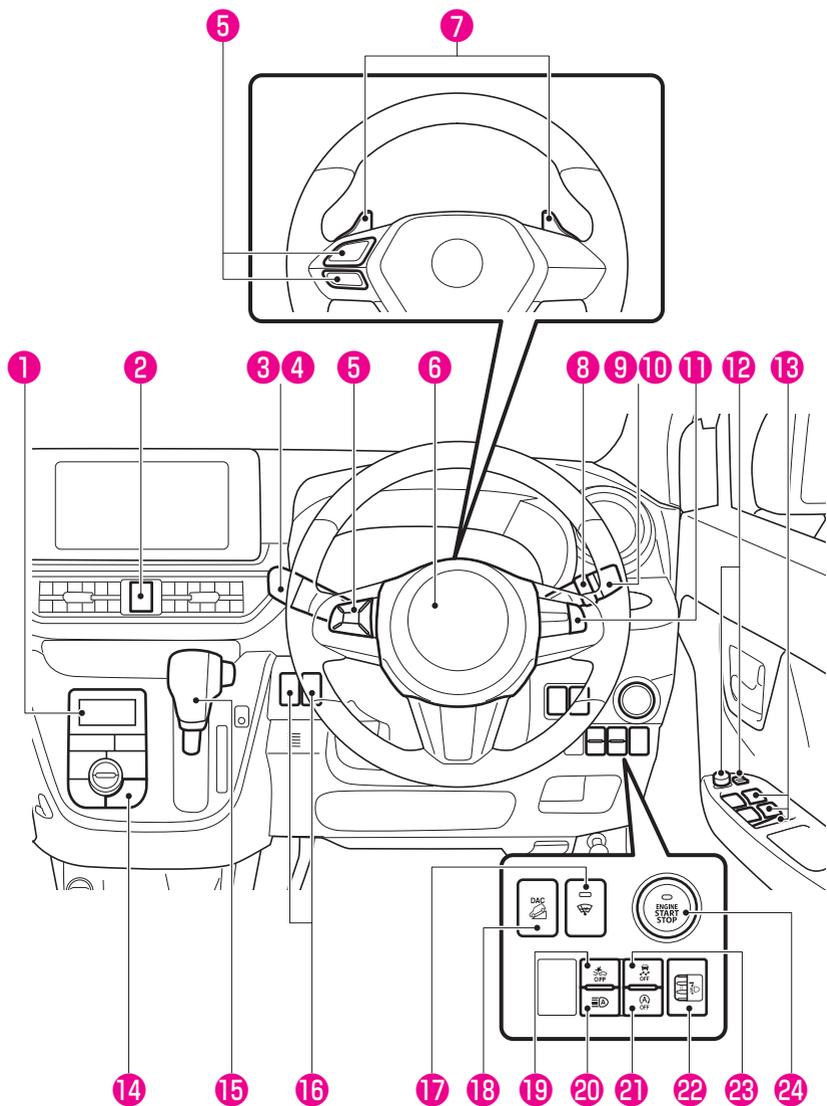
グレードの違い、注文装備も記載しています。



①	ドリンクホルダー	299
②	助手席 SRS エアバッグ	55
③	メーター	142
④	運転席 SRS エアバッグ	55
⑤	車内からの施錠・解錠	91
⑥	パワードアロック	91
⑦	発炎筒	373
⑧	グローブボックス	294
⑨	インパネトレイ (助手席)	294
⑩	インパネアッパーボックス (助手席)	295
⑪	買い物フック	302
⑫	アクセサリソケット	287
⑬	駐車ブレーキ	184
⑭	チルトステアリングレバー	119
⑮	フューエルリッドオープナー	104
⑯	ボンネットオープナー	309

運転席まわり

グレードの違い、注文装備も記載しています。



① オートエアコン	266
② 非常点滅灯スイッチ	167
③ フロントワイパー・ウォッシャースイッチ	164
④ リヤワイパー・ウォッシャースイッチ	165
⑤ オーディオ操作用ステアリングスイッチ	279
⑥ ホーンスイッチ	166
⑦ パドルシフト	188
⑧ フォグランプスイッチ	163
⑨ ライトスイッチ	154
⑩ 方向指示スイッチ	166
⑪ D assist 切替ステアリングスイッチ	191
⑫ ドアミラースイッチ	116
⑬ パワーウインドスイッチ	99
⑭ リヤウインドデフォグガースイッチ	276
⑮ シフトレバー	185
⑯ シートヒータースイッチ	289
⑰ ウインドシールドディアイサースイッチ	277
⑱ DAC スイッチ	202
⑲ スマートアシスト OFF スイッチ	249
⑳ オートハイビームスイッチ	157
㉑ eco IDLE OFF スイッチ	261
㉒ ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ	162
㉓ VSC & TRC OFF スイッチ	200
㉔ エンジンスイッチ	179

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

- 電子カードキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？
症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。
→ 343 ページ（キーの電池交換）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
→ 80 ページ（作動範囲）

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏めていますか？
- シフトレバーは  レンジになっていますか？
「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。
→ 179 ページ（エンジンのかけかた）
- ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを軽く左右に回しながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。
- 電子カードキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？
電子カードキーの電池が切れているときは、一時的な対処として、キーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です。
→ 385 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－エンジンのかけかた）
→ 386 ページ
（電子カードキーが使用できないとき－ハンドルロックを解除するには）

eco IDLE によるアイドリングストップをしない eco IDLE によるアイドリングストップ中にエンジンが再始動した

- eco IDLE には作動する条件、また再始動する条件があります。

以下のページを参照してください。

→ 254 ページ（システムの作動条件について）

警告灯が表示された

- 以下のページを参照してください。

→ 122 ページ（警告灯）

安全のためにぜひ守りましょう



必読！

ドライバーのみなさまへ

ご使用前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。



警告に値する項目です



注意に値する項目です

走行する前に	14
エンジンをかけるときは	17
走行しているときは	18
駐停車するときには	21
お子さまを乗せるときは	23
こんなときは	25
お車を長持ちさせるには	28
知っておいていただきたいこと	30

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをおこなわず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

(車体各部の調整→107ページ)

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

(正しいシートベルトの着用→35ページ)

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実にできる履き物を着用してください。ペダル操作が確実にできないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

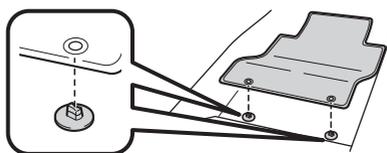
- 助手席や後席に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットはこの車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください

- 運転席にフロアマットを敷くときは、下記のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- この車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。固定フックの形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。



- クリップの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。
- 運転する前に、下記のことを確認してください。
 - フロアマットがすべての固定クリップで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
 - エンジンを停止状態にして、シフトレバーが P レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

(タイヤ空気圧の点検→ 315 ページ)

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。

「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

(給油のしかた→ 104 ページ)

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意くださいことがあります。

「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

(SRS エアバッグ→ 55 ページ)

オートマチック車について

オートマチック車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。

「運転するときは」をよくお読みください。

(運転するときは→ 170 ページ)

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

- 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、次のことをお守りください。お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。
 - 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。
 - 換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
 - 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に停車し、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
 - 排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
 - 走行中はバックドアを閉じてください。バックドアを閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

オートマチック車で注意していただきたいこと

駐車ブレーキをかけた状態でシフトレバーを必ず **P** レンジにして、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンを始動してください。

（エンジンスイッチ→179 ページ）

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作動しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

(車両を緊急停止するには→ 387 ページ)

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

ジョイC、ジョイF

- シフトレバーを **⑤** レンジに入れる
また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は **⑥** レンジに入れる

ジョイS

- シフトレバーを **⑤** レンジに入れる、またはマニュアルモードにして1速ずつ落とす

その際には、急激なエンジンブレーキ(シフトレバー操作)を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。

また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

- ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 371 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

正しいシート位置で走行してください

シートを倒した状態で人を乗せたまま走行しないでください。

また、リヤシートの背もたれを前倒した状態で荷室に人を乗せての走行もしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

人を乗せて走行するときは必ず通常のシート位置で走行してください。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラーやドアミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを P レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。

また、お子さまのみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

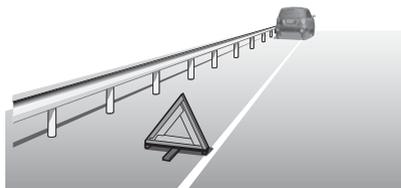
エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、風通しの良くない所や風向きによっては、排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。

万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



ターボ車は走行後にアイドリングを行ってください

高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、停車後、1分程度アイドリング運転でエンジンを冷やしてからエンジンを止めてください。（ただし、eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です）

高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

ドアやウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウインドの開閉、シート、アームレストの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウインドの開閉、シート、アームレストの調整などは大人が操作してください。また、安全のためにチャイルドセーフティを使用してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

(パワーウインド OFF スイッチ→102 ページ)

お子さまは大人と一緒に後部座席にお座りください

助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、万一のとき、お子さまがインストルメントパネルに頭をぶつけたり、放り出されるおそれがあります。

お子さまを荷室に乗せたり、遊ばせないでください

荷室は、シートの状態にかかわらず人が乗る構造になっていないため、絶対にお子さまを乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。



お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
- ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

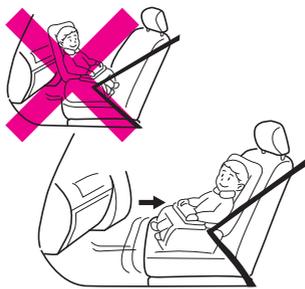
(チャイルドシート→ 40 ページ)

チャイルドシートは正しく取り付けてください

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。

なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。

絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害を受けるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

(警告灯→122 ページ)

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときボンネットから蒸気が出ている場合は、絶対にボンネットを開けないでください。また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

(オーバーヒートの処置→381 ページ)

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。

ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

(タイヤパンク応急修理セット→362 ページ)

(タイヤの交換→317 ページ)

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。

ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
 - ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。
 - ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
 - シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
 - エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
- また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

- インstrumentパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- Instrumentパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。電話をかけるときや電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
ハンズフリー以外の携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ルーフレールには直接、荷物などを乗せないでください。ルーフレールが損傷したり、荷くずれを起したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整および収納状態から元に戻したときは必ずロックがかかったことを確認してください。ロックがかかっていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。

車止めなどに注意をしてください

下記のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車、路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

お車を長持ちさせるには

点検整備を行きましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、トヨタが推奨するものに基づいています。詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。

腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態では、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。

指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けしないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機やトヨタ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にトヨタ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お客様自身でのハンドルを取り外しはしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

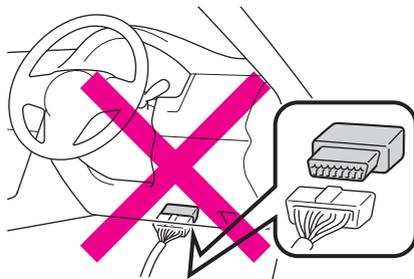
純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「トヨタ純正部品」のご使用をおすすめします。

知っておいていただきたいこと

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

データの取り扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意

EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（バンパーやバックドアなど）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

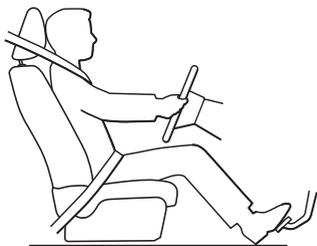
安全なドライブのために

正しい運転姿勢	
正しい運転姿勢 ……………	34
シートベルト	
正しいシートベルトの着用 ……	35
シートベルトの使いかた ……	35
お子さま専用シート	
チャイルドシート ……………	40
チャイルドシートの 選びかた ……………	42
チャイルドシートの 固定のしかた ……………	48
SRS エアバッグ	
SRS エアバッグ ……………	55
SRS エアバッグ コンピューター ……………	65
セキュリティ機能	
イモビライザー機能 ……………	67
セキュリティアラーム ……………	68

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
(フロントシート→107ページ)
- シートベルトが正しく着用できること
(シートベルト→35ページ)
- ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になること
(ヘッドレスト→112ページ)

警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを必要以上に倒して走行しないでください。シートベルトの性能が発揮されません。正しい運転姿勢を取りましょう。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れしないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(シートベルト→35ページ)

シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者は車を運転する前に、下記のことには注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱い方を身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさげ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

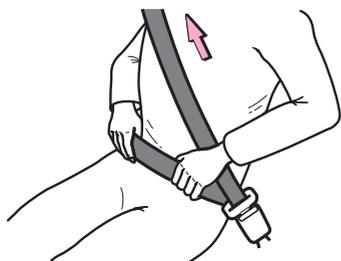
シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

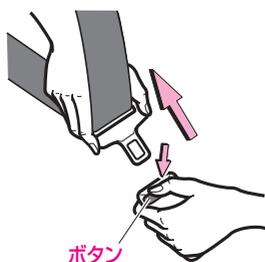


- 1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



- 2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

▼ 外すとき



バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

⚠ 注意

プレートを差し込むときは

- プレートでバックルを無理にこじらないでください。

📖 知識

ベルトがロックし引き出せないときは

- ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルト締め忘れ警告灯について

- 運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約 20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）→ 127 ページ）

プリテンショナー & フォースリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトや SRS エアバッグの効果をいっそう高めます。

フォースリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

⚠ 警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 車両前部を修理するとき
 - 廃車にするとき
- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

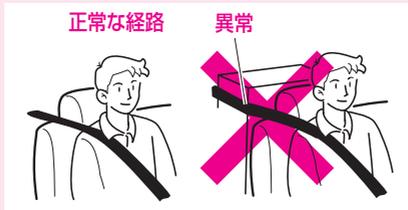
📖 知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いとお手入れ

⚠ 警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



警告

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- 1人で座ることのできない乳幼児の場合はベビーシート（別売）を使用してください。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシートやジュニアシート（別売）を使用してください。
(チャイルドシート→ 40 ページ)
(チャイルドシートの固定のしかた→ 48 ページ)
- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。



- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
 - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
 - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。



警告

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、トヨタ販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、トヨタ販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。



お子さま専用シート

チャイルドシート

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

- お子さまの安全のため、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
- 車両に固定するチャイルドシートには、シートベルトで固定するタイプと ISO* FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーで固定するタイプがあります。

(チャイルドシートの固定のしかた→ 48 ページ)

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルドシートが不必要なお子さまは、シートベルトを着用させてください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

(チャイルドシートの種類→ 41 ページ)

チャイルドシートの質量グループについて

UN (ECE) R44* の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループI	9~18kg
グループII	15~25kg
グループIII	22~36kg

チャイルドシートの種類

ベビーシート

質量グループ0、0+に相当します。



チャイルドシート

質量グループ0+, IIに相当します。



ジュニアシート

質量グループII、IIIに相当します。



チャイルドシートの選びかた

次の適合性一覧表から、各シート位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

知識

- お子さまに適切なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	座席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0(10kgまで)	×	U※1
0+(13kgまで)	×	U※1
I(9～18kg)	UF※2	U※1※2
II(15～25kg)	UF※2	U※1※2
III(22～36kg)	UF※2	U※1※2

●記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのチャイルドシートが取り付け可能です。

UF : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーの前向きチャイルドシートが取り付け可能です。

× : チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

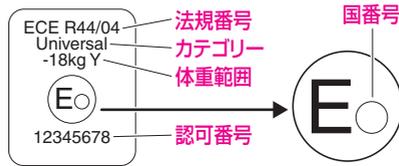
※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

チャイルドシートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

知識

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- UN (ECE) R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
- カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。



ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0(10kgまで)	E	ISO/R1	IL ^{※1※2}
0+(13kgまで)	E	ISO/R1	IL ^{※1※2}
	D	ISO/R2	IL ^{※1※2}
	C	ISO/R3	IL ^{※1※2}
I(9~18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ^{※1※2} 、IL ^{※1※2}
	B1	ISO/F2X	IUF ^{※1※2} 、IL ^{※1※2}
	A	ISO/F3	IUF ^{※1※2} 、IL ^{※1※2}
II(15~25kg)		—	×
III(22~36kg)		—	×

●記号の説明

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルドシートのみ取り付け可能です。

IL： この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×： ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 リヤシートの背もたれを直立状態にしてください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉して、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外してください。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

チャイルドシートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

●ISO FIXチャイルドシートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	チャイルドシート	カテゴリー
0(10kgまで)	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+(13kgまで)	E	ISO/R1		
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I(9~18kg)	B	ISO/F2		
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

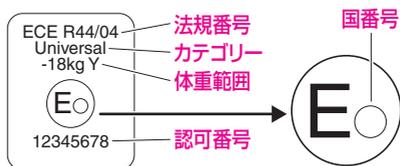
知識

- この車の ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーは、2006年10月1日施行の新保安基準に適合しています。
これには、UN (ECE) R44 に適合している ISO FIX 対応チャイルドシートしか取り付けることができません。
- UN (ECE) R44 に適合している ISO FIX 対応チャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。(表示されているマークや文字は、製品により異なります)
- ISO FIX 対応チャイルドシートであることを示す表示です。
文字はサイズ等級を表します。



A — サイズ等級

- UN (ECE) R44 の認可マークです。
汎用 (ユニバーサル) カテゴリーのチャイルドシートは、カテゴリーに「UNIVERSAL」と表示されています。



- ISO FIX 対応トップテザーアンカーの位置を示すマークです。
トップテザーアンカーの位置により、意匠は異なります。



知識

- トヨタ純正の汎用（ユニバーサル）、および準汎用カテゴリーのチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- チャイルドシートを購入するときは、ISO FIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

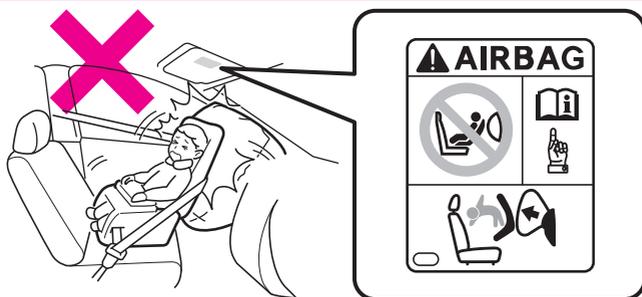
サイズ等級	固定具	仕様
A	ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2と別形状のもの)
C	ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E	ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート(キャリコット)
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート(キャリコット)

- キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくはチャイルドシートの製造業者、または販売業者にご相談ください。

チャイルドシートの固定のしかた

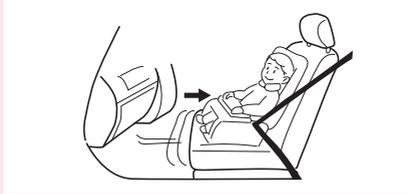
警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルドシートを使用してください。
また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを取り付けたときは、チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。また、シートの調整をしないでください。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも、確実にシートに固定しておいてください。また、ラゲージルームに収納するときも、容易に動かないように収納してください。ブレーキをかけたときなどに人や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRSエアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

**チャイルドシートをリヤシートに取り付けたときは**

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、正しい運転姿勢が確保できない場合は、リヤシートの助手席側に取り付けてください。

(正しい運転姿勢→34ページ)

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドアやシート、フロント・センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないでください。SRSエアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

- 標準装備のシートベルトは大人用です。肩部ベルトが首にかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

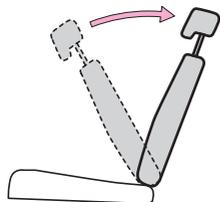
チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、荷室に収納し、しっかりと固定しておくか、車両から外して保管してください。シートに取り付けただままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シートベルトによる固定

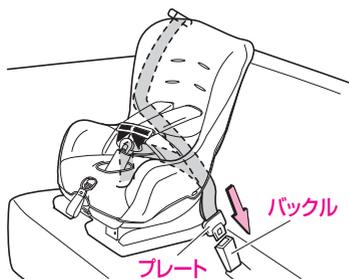
▼ 取り付けかた

- 1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする
- 2 リヤシートの背もたれの角度を調整する



- 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置に起こします。（操作しづらいときは、チャイルドシートを置いたときに、チャイルドシートの背面とリヤシートの背もたれとの間にすき間ができないように調整します）

- 3 チャイルドシートをリヤシートに置く



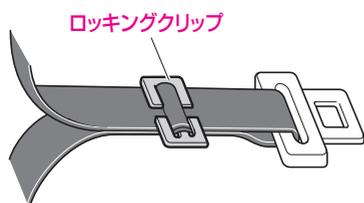
- ヘッドレストにチャイルドシートが干渉するときは、ヘッドレストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。

- 4 シートベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通す

- 5 バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む

- 6 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロックングクリップを使用して固定する

- 7 チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する



【固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります】

警告

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。
- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

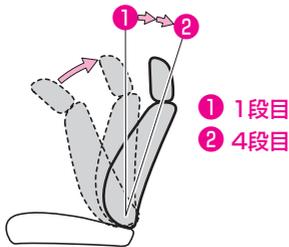
知識

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。

また、ロッキングクリップの購入については、トヨタ販売店にご相談ください。

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席シートを以下のように調整し、必ず前向きにチャイルドシートを取り付けてください。

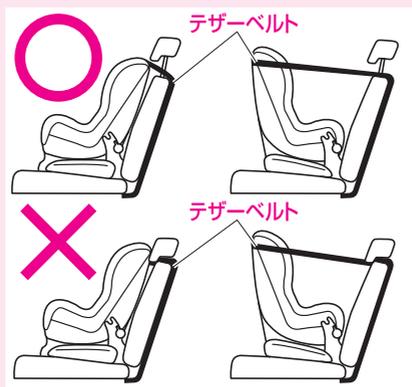


- シートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 背もたれをいったん前に倒し、1 段目 (①) の固定位置に起こしてから、4 段目 (②) の固定位置まで調整する
- ヘッドレストにチャイルドシートが干渉するときは、ヘッドレストを最上段に固定するか、取り外して安全な場所に固定しておく

ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーによる固定

警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込むとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキや衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートのテザーベルトがヘッドレストに干渉しないように、ヘッドレストを「カチッ」と音がする位置まで引き上げてからトップテザーアンカーに固定してください。それでもヘッドレストに干渉する場合は、ヘッドレストを取り外して安全な場所に固定しておいてください。ヘッドレストを下げたままだと、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



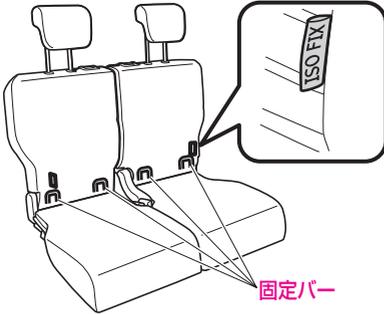
- 車両前側のデッキボードをリヤシートとテザーベルトの間に挟み込んだりしないでください。テザーベルトがたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



取り付け位置

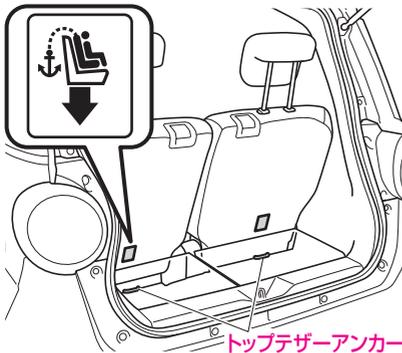
ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーがリヤシートに装備されています。

ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー



- 固定バーが装備されていることを示すタグがシートについています。

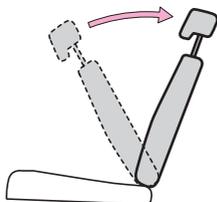
トップテザーアンカー



- トップテザーアンカーを示すマークが背もたれ裏側にあります。

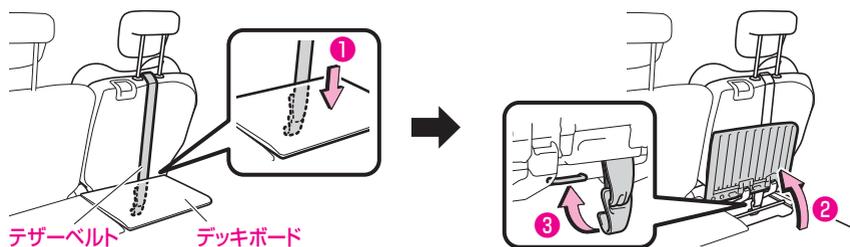
取り付けかた

- 1 リヤシートを前方いっぱいまでスライドする
- 2 リヤシートの背もたれの角度を調整する
 - 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置まで起こします。



- 3 適合するチャイルドシートの取り付け金具を ISO FIX 対応チャイルドシート固定バー&トップテザーアンカーに連結して取り付ける（取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書をよく読んでください）

- テザーベルトはリヤシートの背もたれとデッキボードのすき間に通してから (1)、デッキボードを持ち上げて (2)、トップテザーアンカーに取り付けます (3)。



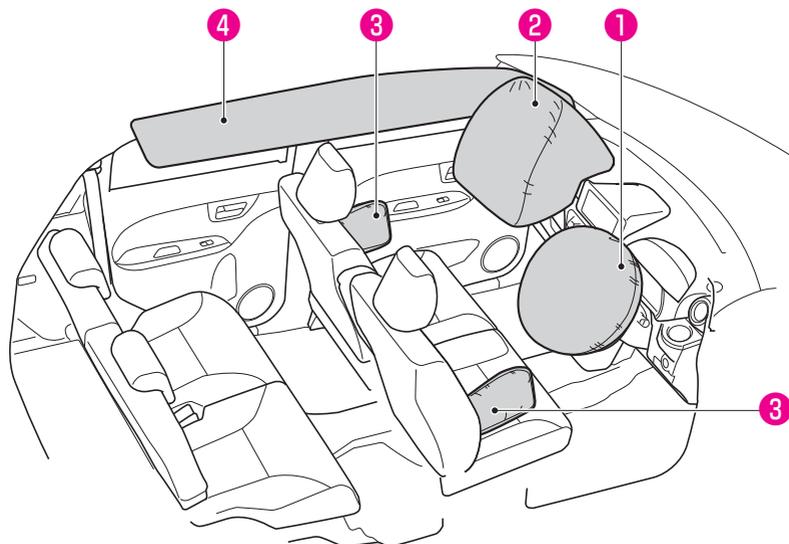
- ヘッドレストにチャイルドシートやテザーベルトが干渉するときは、ヘッドレストを「カチッ」という音がする位置まで引き上げるか、取り外して安全な場所に固定しておきます。
- 4 取り付けしたチャイルドシートを軽くゆすり、確実に取り付けられていることを確認する
 - 5 リヤシートを後方いっぱいまでスライドする

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

【SRS: Supplemental Restraint System (サブプリメンタル レストレイント システム) の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です】



① 運転席 SRS エアバッグ

運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

② 助手席 SRS エアバッグ

助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

③ SRS サイドエアバッグ

オプション/グレード別装備

運転者や助手席同乗者の胸部や上体への衝撃をやわらげる装置です。

④ SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

運転者・助手席同乗者・リヤシート左右席同乗者のおもに頭部への衝撃をやわらげる装置です。

作動する場合

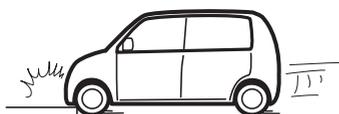
運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。(同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します)

また、下記のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれに SRS エアバッグが作動することがあります。

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき

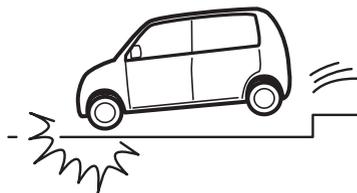
縁石など



深い穴や溝



- ジャンプして地面に衝突したとき



SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。

■ 作動しない場合

下記のときは、SRS エアバッグが作動しません。

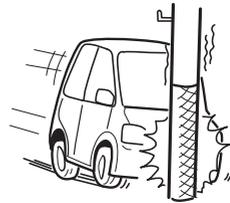
- エンジンスイッチが“OFF”、“ACC” のときに衝突したとき
- SRS エアバッグ警告灯点灯時



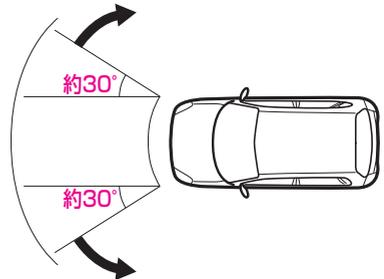
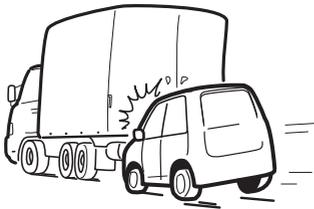
■ 運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグ

下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

- コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



- 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき
- 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



安全なドライブのために SRS エアバッグ

下記のようなときも作動しないことがあります。効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき
- 車両が横転、転覆したとき

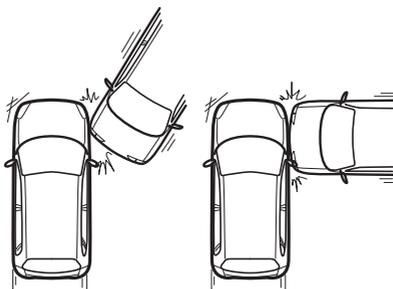


SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ

オプション/グレード別装備

下記のような側面からの衝撃を受けたときは、作動しないことがあります。

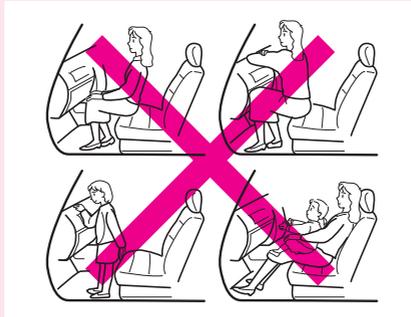
- 側面に斜め方向から、あるいは客室部以外の側面に衝突されたとき



SRS エアバッグの取り扱い

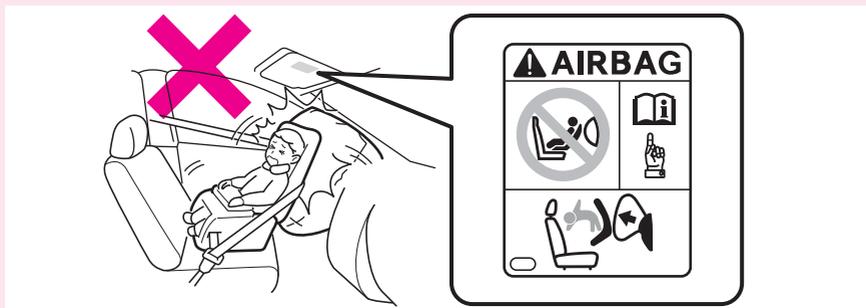
警告

- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
(正しいシートベルトの着用→ 35 ページ)
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
 - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

- お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートなどをリヤシートに装着して使用してください。
- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。ベビーシート、チャイルドシートの背面が、SRS エアバッグに近すぎるため、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



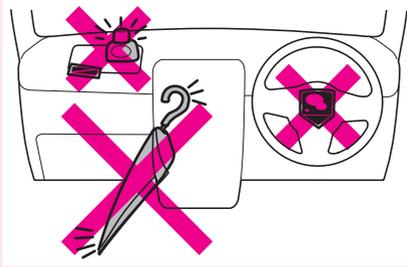
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、SRS エアバッグから体を遠ざけるためにシートを一番後ろの位置にし、必ず前向きに取り付けてください。
- なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

(チャイルドシート→ 40 ページ)



警告

- SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。
- インstrumentパネルの上に飲み物や物を置かないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



- ステアリングパッド、インstrumentパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
 - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
 - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。

警告

- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
お客様自身で行くと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ハンドルを取り外すとき
 - 車両前部を修理するとき
 - フロントシート、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部を取り外すとき
(SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車)
 - 車両側部を修理するとき (SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車)
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグの効果を発揮させることができません。また、ドア近辺にもたれかからないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- フロントシート表皮の張り替えをしたり、フロントシート、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部を取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。必ず、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントシートに SRS サイドエアバッグ専用のトヨタ純正シートカバー以外は取り付けしないでください。フロントシート側面の SRS サイドエアバッグ展開部をおおうと、SRS サイドエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。
- ドアやその周辺に専用のトヨタ純正用品以外を取り付けしないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- SRS カーテンシールドエアバッグ周辺部（フロントガラス、フロント・リヤドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部）にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを付けしないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシート側部、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部など SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

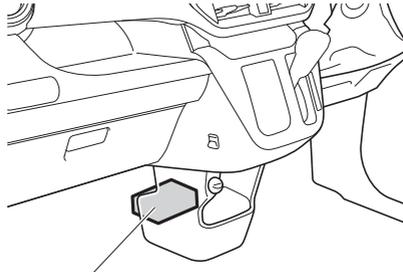
 知識

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車の場合

- SRS エアバッグ（運転席・助手席）と SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグは、作動判定時における衝撃の方向が異なるため、下記のような作動をすることがあります。
 - SRS エアバッグ（運転席・助手席）のみ作動
 - SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグのみ作動
 - SRS カーテンシールドエアバッグのみ作動

SRS エアバッグコンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。



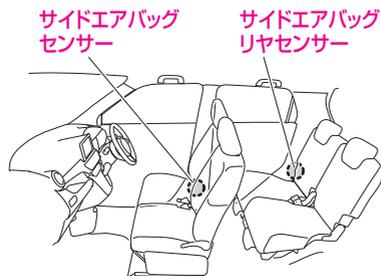
SRSエアバッグコンピューター

警告

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないでください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ用センサー

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車



サイドエアバッグセンサー

フロントシート付近の車体左右両側に取り付けられています。

サイドエアバッグリヤセンサー

SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

リヤシート付近の車体左右両側に取り付けられています。

警告

- サイドエアバッグセンサー、サイドエアバッグリヤセンサーは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- サイドエアバッグセンサー、サイドエアバッグリヤセンサーおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。

セキュリティ機能

イモビライザー機能

車両の盗難防止のため、電子カードキーには信号発信機が内蔵されており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンの始動ができません。

▼ 操作方法

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、イモビライザー機能が作動し、セキュリティインジケーターが点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にすると、イモビライザー機能が解除され、セキュリティインジケーターが消灯します。

(セキュリティインジケーター→136 ページ)

📖 知識

- セキュリティインジケーターはセキュリティアラームと兼用しているため、リクエストスイッチ操作・電子カードキーのリモコン操作により施錠すると、約 30 秒間点灯に変わります。
- セキュリティアラームが解除されていない場合は、エンジンスイッチを“ACC”にしても消灯しない場合があります。
- 電子カードキーに登録された信号はキーごとに異なります。

イモビライザー機能のメンテナンスについて

イモビライザー機能のメンテナンスは不要です。

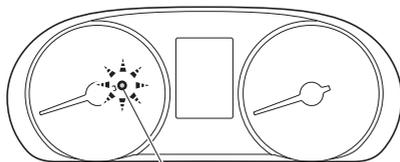
⚠️ 注意

イモビライザー機能を正常に作動させるために

- イモビライザー機能の改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームは、不正な侵入を検知した場合に、音と光で周囲に異常を知らせる機能です。



セキュリティインジケータ

知識

セキュリティアラームについて

- セキュリティアラームは、周囲に異常を知らせる機能です。室内への侵入・盗難を防ぐ機能ではありません。
- ほかの方にお車を貸したときや、セキュリティアラームの作動について知らない方が運転するときは、セキュリティアラームについて十分ご説明ください。
セキュリティアラームの作動について知らない方が操作を誤った場合、警報が作動し周辺への迷惑になります。

ドアを施錠する前の確認

- セキュリティアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため以下のことを必ず確認してください。
 - 車内に人が乗っていないか
 - ドアガラスが閉じているか
 - 車内に貴重品などを放置していないか

セキュリティアラームのセット方法

- 1 すべてのドアを閉める
- 2 次のいずれかの方法ですべてのドアを施錠する（セキュリティインジケータが点灯）
 - リクエストスイッチ操作
(リクエストスイッチ操作→89 ページ)
 - 電子カードキーのリモコン操作
(リモコン操作→90 ページ)
- 3 30 秒以上経過すると、自動的にセットされる
(セットされると警戒状態になり、セキュリティインジケータが点灯から点滅に変わる)

知識

- 上記のセット方法以外で施錠した場合、セキュリティアラームはセットされません。
(タイマーロック機能で施錠された場合は、セットされます)
- セキュリティインジケータが点灯してから約 30 秒以内に下記の操作をしたときは、セキュリティアラームのセットが中断されます。
 - 運転席ドアを解錠したとき
 - ドアを開けたとき
 - エンジンスイッチを“ON”にしたとき

セキュリティアラームのセット解除

下記のいずれかの操作でセキュリティアラームのセット（警戒状態）を解除します。

- リクエストスイッチ操作で解錠する
- 電子カードキーのリモコン操作でドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

知識

セキュリティインジケータについて

- イモバイザー機能のインジケータを兼ねているため、セキュリティアラームのセットを解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。
また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

セキュリティアラーム作動

セキュリティアラームがセットされた状態で下記の操作以外で解錠し、ドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。

- リクエストスイッチ操作
- 電子カードキーのリモコン操作

セキュリティアラームは 2 段階で作動します。

▼ 1 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 10 秒間点滅
- 室内ブザーが 10 秒間断続して鳴る

1 次作動の間に警報が解除されなかった場合、2 次作動に入ります。

▼ 2 次作動

- セキュリティインジケーターが点滅
- 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- 室内ブザーが 30 秒間断続して鳴る
- ホーンが 30 秒間断続して鳴る

📖 知識

- セキュリティアラーム作動中にドアを閉めても、作動は停止しません。
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再び警戒状態になりますが、施錠はされません。お車を離れる際は確実に施錠してください。

セキュリティアラーム作動の停止方法

以下のいずれかの操作でアラーム作動を停止できます。

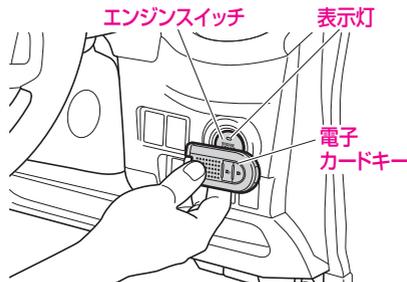
- 電子カードキーの“LOCK”または“UNLOCK”スイッチを押す
- 電子カードキーを携帯してリクエストスイッチを押す
- 電子カードキーを携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

電子カードキーが使用できないとき

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは、次の操作でアラーム作動を停止してください。

▼ 操作方法

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ペダルを踏んだまま、電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - 電子カードキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



- 3 キーが認識されて警報が停止する
 - 表示灯が点灯します。

📖 知識

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- エマージェンシーキーでドアの施錠、解錠、電子カードキーでエンジンスイッチの操作を行うことができます。

(電子カードキーが使用できないとき→ 383 ページ)

セキュリティアラーム作動履歴の確認

セキュリティアラームのセット中にアラームが作動したことを確認することができます。
(2次作動までした場合のみ)

▼ 確認方法

エンジンスイッチを“ON”にすると、室内ブザーが「ピーッピッ」と鳴ります。

📖 知識

- 作動履歴の確認は、2次作動後、1回のみ行うことができます。

セキュリティアラームのメンテナンスについて

セキュリティアラームのメンテナンスは不要です。

⚠️ 注意

セキュリティアラームを正常に作動させるために

- セキュリティアラームの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉

キー	74
キーフリーシステム	78
ドア	88
バックドア	95
パワーウインド	99
給油のしかた	104

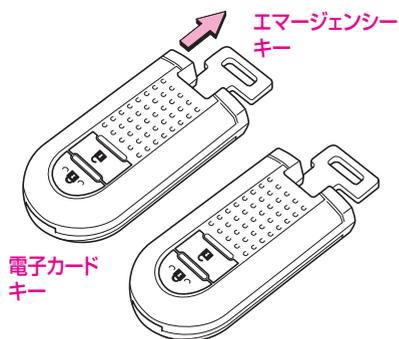
車体各部の調整

フロントシート	107
リヤシート	109
ヘッドレスト	112
シートアレンジ	114
ルームミラー	115
ドアミラー	116
チルトステアリング	119

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほか、ドアの施錠・解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。



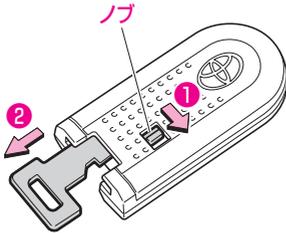
▼ お客様にお渡しするキー

- お車には、電子カードキー（エマージェンシーキー内蔵）が2つ付いています。

📖 知識

- 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

■ エマージェンシーキー



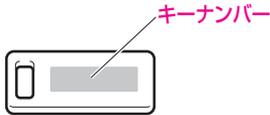
▼ エマージェンシーキーの取り出しかた

- 電子カードキーのノブを(1)の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーを(2)の方向に引いて取り出します。

⚠ 注意

- 使用後は元に戻し、必ず電子カードキーと一緒に携帯してください。
電子カードキーが電池の消耗などで使用できなくなったときに必要になります。

■ キーナンバープレート



キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

- プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

注意

故障を防ぐために

- 電子カードキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因になりますので、下記のことを守り、取り扱いには注意してください。
 - 電子カードキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
 - 直射日光や高温下に放置しない
 - 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
 - 水にぬらさない
 - 分解をしない
 - 超音波洗浄機などにつけない
 - 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない

電子カードキーの電池の消耗について

- 下記のような強い電波を発するおそれのある機器の近くや車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーが常時通信状態になり、電池が著しく消耗します。
 - テレビ
 - オーディオ
 - パソコン
 - AC アダプター
 - 携帯電話、コードレス電話
 - 充電器
 - 電気スタンド
 - 低周波治療器などの医療用電気機器
 - 液晶表示器
 - モーター類

 知識

- 電子カードキーは、人体に影響しない程度の微弱な電波を使用しています。

航空機に乗るときは

- 航空機に電子カードキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子カードキーが使用できないときは

- 電池の消耗などにより電子カードキーが使用できないときは、エマージェンシーキーを使用してください。

(電子カードキーが使用できないとき→ 383 ページ)

電子カードキーの電池寿命について

- 1日10回程度の乗降で約2年です。(電子カードキーは車両との通信のために常に受信動作をしているため電池を消費しています)
ただし、電子カードキーのスイッチ操作(ドアの施錠・解錠など)の使用頻度が高い場合、または電子カードキーの保管状況によって著しく電池寿命が短くなるおそれがあります。
- 電子カードキーの電池残量が少なくなると、メーター表示とブザー音でお知らせします。
(キーフリー電池残量警告→ 85 ページ)
- ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。
(キーの電池交換→ 343 ページ)

キーのご購入について

- 電子カードキーは最大4枚まで設定することができます。
ご購入方法、ご使用方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

万ーキーを紛失したときは

- キーナンバーをトヨタ販売店にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーフリーシステム

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。

- ドアを施錠・解錠する
- エンジンの始動・モード切り替えをする

また、電子カードキーのスイッチを操作すると、ドアの施錠・解錠操作が行えます。

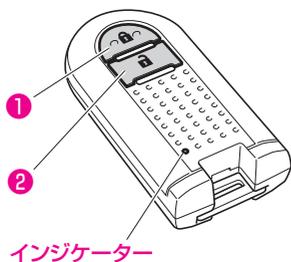
(キーフリーシステムによる施錠・解錠→ 89 ページ)

(エンジンスイッチ→ 179 ページ)

知識

- 電子カードキーは必ず運転者が携帯し、管理してください。

電子カードキー



▼ リモコン操作

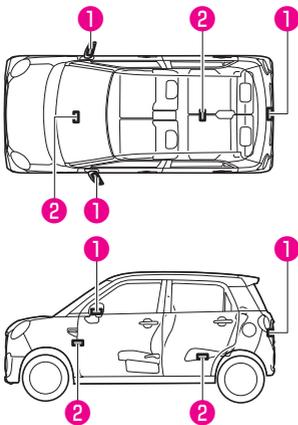
- スイッチを押すと、以下の操作ができます。
- ① : ドアの施錠
- ② : ドアの解錠

(リモコン操作→ 90 ページ)

発信機

車両の発信機から発せられる電波を電子カードキーが感知することによって、キーフリーシステムが作動します。

▼ 発信機の位置



①：車外発信機

②：車内発信機

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を使用されている方へ

- 車外発信機・車内発信機から約 22cm以内に近付かないようにしてください。ドア開閉時、各ドアのリクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などに車両の発信機から発せられる電波により、植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響をあたえるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、電波による影響について、医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により、医療用電気機器の作動に影響をあたえるおそれがあります。

📖 知識

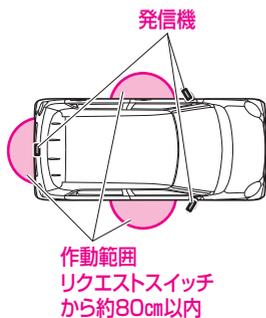
発信機の電波を停止したいときは

- 発信機から発する電波を停止（キーフリーシステムを停止）させることもできます。詳しくは、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 発信機から発する電波を停止させたときは、エンジンスイッチに電子カードキーを接触させなければエンジンを始動できません。（電子カードキーのリモコン操作は行えます）

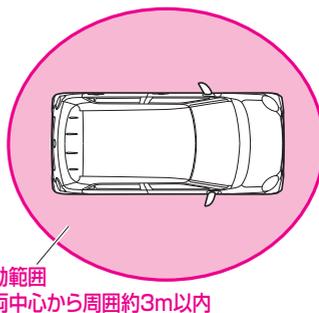
（エンジンのかけかた→ 385 ページ）

作動範囲

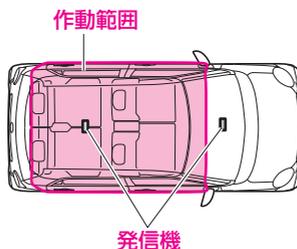
▼ リクエストスイッチ作動



▼ リモコン作動



▼ エンジンスイッチ作動



知識

- 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

リクエストスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーの携帯のしかたにより、リクエストスイッチを押しても作動しない場合があります。
- 下記のような場合は、電子カードキーが作動範囲にあっても、正常に作動しない場合があります。
 - ドアの施錠・解錠時に、電子カードキーをドアガラスやドアハンドル周辺に近付けすぎたとき
 - 地面の近く、もしくは高い場所に電子カードキーがあるとき

 知識**エンジンスイッチ作動が正常に作動しないおそれのある状況**

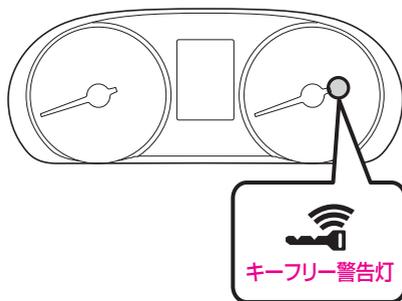
- インstrumentパネルの上や中（グローブボックス内など）・荷室・ドアポケット・アームレスト内など、電波を感知しない場所があります。
- 車外でもドアやドアハンドルに近付きすぎた場合は、エンジン始動が可能になることがあります。

キーフリーシステムが正常に作動しないおそれのある状況

- 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき
 - TV 塔
 - 発電所
 - 放送局
 - 電光掲示板
 - ガソリンスタンド
 - コインパーキング
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やポータブルオーディオ、または他車の電子カードキーと一緒に携行したとき
- 電子カードキー本体が金属製の物と接していたり、覆われたりしているとき
- 電子カードキーの電池が消耗しているとき

警告ブザー、メーター表示による警告

キーフリーシステムでは、誤操作や車両の盗難を防ぐために、警告ブザーとメーター表示で警告を行います。



電子カードキー持ち出し警告

▼ 原因

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉める

▼ 警告音

- 車内で「ピピピピピ」、車外で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

- キーフリー警告灯が高速点滅する

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して乗車してください。

📖 知識

- ドア開閉をせずに電子カードキーを車外に持ち出したときは、警告は行われません。
- 電子カードキーを車外に置いたまま、いずれかのドアを一度開けてから閉めたときも、同様の警告が行われます。

■ エンジンスイッチ切り忘れ警告 ①

▼ 原因

- エンジンスイッチが“ACC”のときに運転席ドアを開ける

▼ 警告音

- 車内で「ポーン ポーン ポーン…」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください。

■ エンジンスイッチ切り忘れ警告 ②

▼ 原因

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを施錠してください。

■ 電子カードキー置き忘れ警告

▼ 原因

- 車内に電子カードキーが放置された状態で、ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴る

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

■ 半ドア警告

▼ 原因

- いずれかのドアが開いているときに、
 - ドアのリクエストスイッチで施錠しようとする
 - 電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠しようとする

▼ 対処方法

すべてのドアを閉めてから施錠してください。

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴る

■ 電子カードキー閉じ込み警告①

▼ 原因

- 車内に電子カードキーが放置された状態で、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めた

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する

■ 電子カードキー閉じ込み警告②

▼ 原因

- エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときに、すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めた

▼ 対処方法

電子カードキーを携帯して、ドアを施錠してください。

▼ 警告音

- 車外で「ピーツ」と警告ブザーが鳴り、同時にすべてのドアが解錠する（エンジンスイッチが“ACC”のときは、警告ブザーは鳴りません）

■ キーフリー電池残量警告

▼ 原因

- 電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした

▼ 警告音

- 車内で「ピッピッピッ」と警告ブザーが鳴る

▼ メーター表示

- キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法

新しい電池に交換してください。

(キーの電池交換→343 ページ)

📖 知識

- 電子カードキーの電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも警告します。

■ ハンドルロック未完了警告

▼ 原因

- 運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にする

▼ 警告音

- 車内で「ポーン ポーン ポーン…」と警告ブザーが鳴り続ける

▼ 対処方法

運転席ドアを閉めてください。

■ キー無し警告

▼ 原因

- 電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押した

▼ メーター表示

- キーフリー警告灯が点滅する

▼ 対処方法

- 電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押してください。
- 電子カードキーを携帯してエンジンスイッチを押しても、キーフリー警告灯が点滅する場合は、電子カードキーの電池が切れています。新しい電池と交換してください。
(一時的な対処として、電子カードキーをエンジンスイッチに接触させるとエンジン始動が可能です)

(キーの電池交換→343 ページ)

(電子カードキーが使用できないとき→383 ページ)

■ キーフリーシステム異常警告

▼ 原因

- キーフリーシステムに異常がある

▼ メーター表示

- キーフリー警告灯が点灯する

▼ 対処方法

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

メーター表示

キーフリー警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
 - エンジンスイッチに関係なく、キーフリーシステムに異常があると点灯します。
 - 下記の場合に点滅します。
 - 電子カードキーを携帯せずにエンジンスイッチを押したとき
 - エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき
 - 電子カードキーの電池切れが近い状態で、エンジンスイッチを“OFF”にしたとき（電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”、または“ON”にしたときも点滅します）
- (警告ブザー、メーター表示による警告
→ 82 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ドア

▼ 操作を行う前に

警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたづらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

知識

車を離れるときは

- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

キーフリーシステムによる施錠・解錠

知識

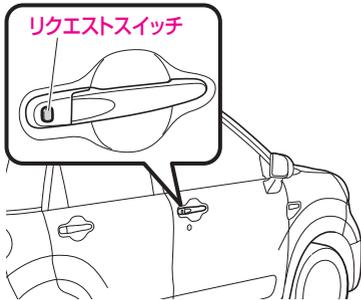
電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないときは

- エマージェンシーキーを使用して施錠・解錠します。

(電子カードキーが使用できないとき→ 383 ページ)

リクエストスイッチ操作

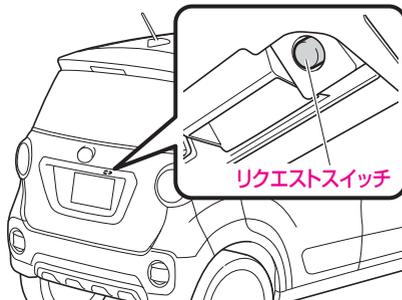
フロントドア



▼ 操作方法

- 1 電子カードキーを携帯する
- 2 ドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドアが施錠・解錠される

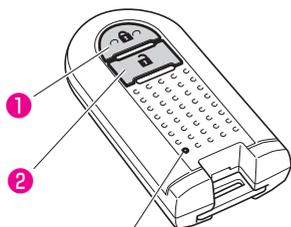
バックドア



⚠ 注意

- フロントドアおよびバックドアのリクエストスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

リモコン操作



インジケータ

▼ 操作方法

- ①: スイッチを押すと、すべてのドアが施錠される
- ②: スイッチを押すと、すべてのドアが解錠される

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のとき

ドアの施錠ができない状況

- いずれかのドアが開いているとき

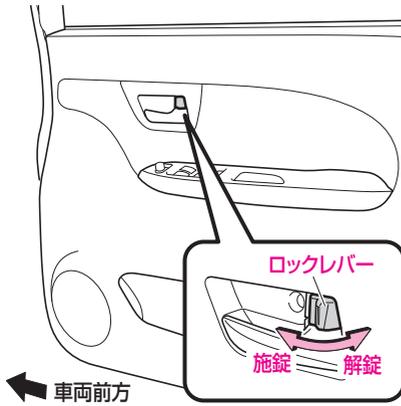
リクエストスイッチの取扱いについて

- リクエストスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- 電子カードキーを携帯している人が作動範囲にいるときは、携帯していない人でも、同じ作動範囲のリクエストスイッチでの施錠・解錠が可能です。

ドアのタイマーロック機能について

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

車内からの施錠・解錠



▼ 操作方法

施錠：ロックレバーを車両前方に押し込む

解錠：ロックレバーを車両後方に引く

パワードアロック

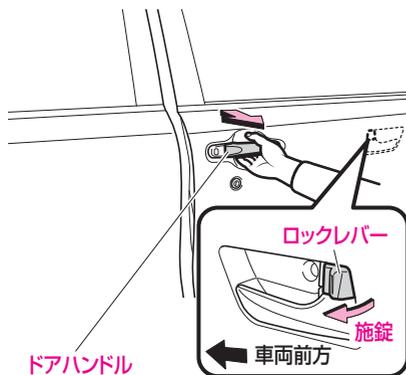
運転席ドアを施錠・解錠すると、すべてのドアが連動して施錠・解錠します。

車外からキーを使用しない施錠

知識

- キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。キーを閉じ込めてしまうおそれがあります。

運転席ドア



操作方法

- 1 ロックレバーを車両前方に押し込む
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉めると、施錠される

助手席ドア、リヤドア

操作方法

- 1 ロックレバーを車両前方に押し込む
- 2 ドアを閉めると、施錠される

ドアの施錠・解錠の合図(アンサーバック)

キーフリーシステムによるドアの施錠・解錠を行うと、非常点滅灯とブザーの点滅でお知らせします。

施錠：1回

解錠：2回

知識

- ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチが“DOOR”のとき）は点灯・消灯します。（ドア連動機能→286ページ）
- 非常点滅灯の点滅を停止、および室内照明の点灯時間とブザーの音量を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

以下の状態で作動します。

- エンジンスイッチが“ACC”か“ON”のとき、または車内に電子カードキーがあるとき

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのドアロックレバーを施錠方向に押し込み、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のドアロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

知識

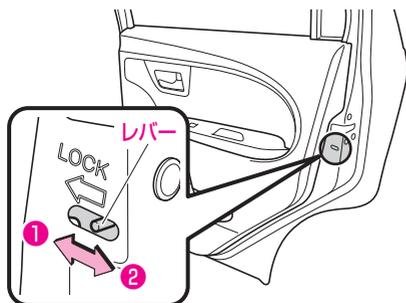
- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

閉じ込み防止機能が作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーの状態（電池の消耗、車内での位置等）や周囲の電波状況により、施錠されることがあります。

チャイルドセーフティ

お子さまの安全のため、チャイルドセーフティを左右リヤドアに付けています。



▼ 操作方法

レバーを“施錠”側にしておくと車内のドアハンドルを引いてもドアを開かなくすることができます。

①：施錠

②：解錠

ドアを開けるときは、車外のドアハンドルで操作します。

⚠ 警告

- お子さまを後部座席に乗せるときは必ずチャイルドセーフティを使用してください。

バックドア

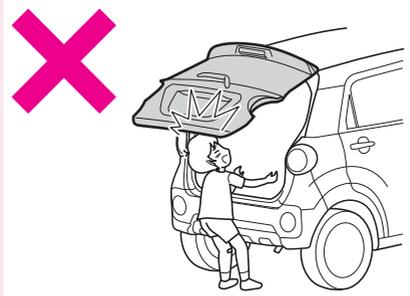
警告

走行するとき

- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、ドアが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前はバックドアを軽くゆすり、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷室には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはバックドアの開閉をさせないでください。不意にドアが動いたり、閉めるときに頭をぶつけたり、首や手を挟んだりするなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

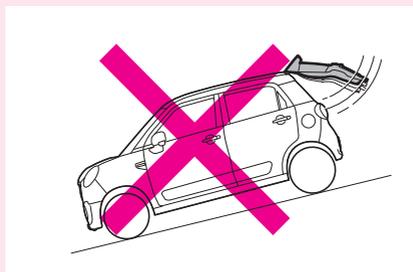


- 荷室でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病になるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

バックドアを開閉するときは

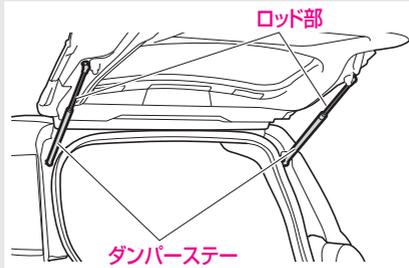
- バックドアの開閉や荷物の出し入れをするときは、下記のことをお守りください。ドアで頭をぶついたり、首や手を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - バックドア周辺の安全を十分確認してください。
 - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - バックドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
 - バックドアは必ず全開で静止させてください。開け方が不十分だと、ドアが不意に閉まるおそれがあります。
 - バックドアを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、ドアが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもバックドアが開閉しにくかったり、急にドアが閉じたり開いたりするおそれがあります。ドアを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。



- バックドアを開ける前に、ドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでドアが閉まるおそれがあります。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- バックドアを支えているダンパーステーを持ってドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、ステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにトヨタ純正用品以外のアクセサリを取り付けしないでください。ドアの重量が極端に重くなると、開けた時にステーが支えきれなくなり、不意にドアが閉まるおそれがあります。

⚠ 注意**ダンパーステーについて**

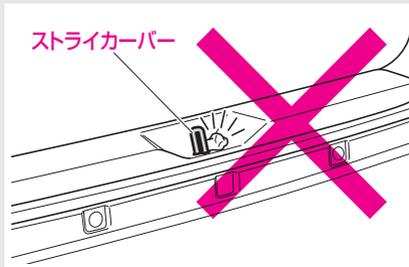
- バックドアには、ドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ステーの破損や作動不良を防ぐため、下記のことをお守りください。
- ステーに手をかけたり、横方向の力を加えたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物をロッド部（メッキの棒部）に付着させないでください。



- 繊維などの付着を防ぐため、ロッド部を軍手などで触らないでください。

ストライカーバーについて

- バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物が卡み込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



バックドアの施錠／解錠

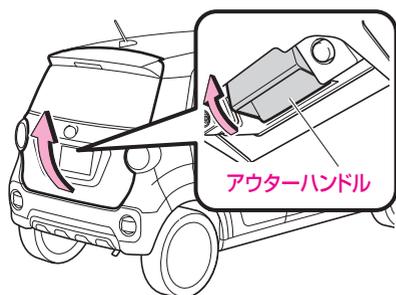
- キーフリーシステム

(キーフリーシステムによる施錠・解錠→ 89 ページ)

- パワードアロック

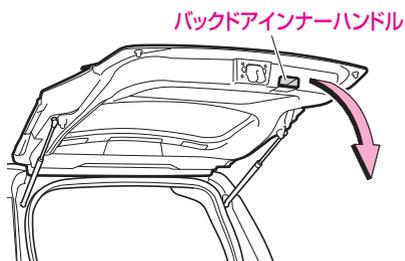
(パワードアロック→ 91 ページ)

バックドアを開けるときは



アウターハンドルを引いて、バックドアをゆっくりといっぱいまで持ち上げる

バックドアを閉めるときは



- 1 バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを途中までゆっくりと下げる
- 2 ハンドルから手を離して、バックドアを上から手で押さえつけるように閉める
- 3 半ドアでないことを確認する

⚠ 警告

- バックドアインナーハンドルで直接バックドアを閉めないでください。手や腕を挟み、けがをす
るおそれがあります。バックドアは、必ず外から押して閉めてください。

パワーウインド

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

⚠ 注意

故障を防ぐために

- 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
 - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
 - ドアガラスを完全に開閉した状態でウインドスイッチを押し続けない
 - ガラスが凍りついて固着したような状態でウインドスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

バッテリーあがりを防ぐために

- パワーウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

📖 知識

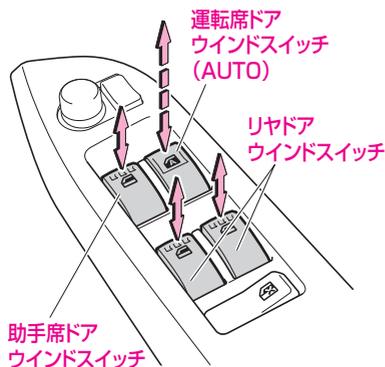
- エンジンスイッチを“ON”にすると、スイッチのマークが点灯します。

パワーウインドモーターの過熱保護機能について

- パワーウインドモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON” のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。



- ▼ 開きかた
 - スイッチを軽く押し下げる
- ▼ 閉じかた
 - スイッチを軽く引き上げる

運転席ドアウインドスイッチ (AUTO) 操作

- ▼ 自動全開
 - スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる
- ▼ 自動全閉
 - スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる
- ▼ 途中で止めるときは
 - スイッチを軽く逆方向に操作する

運転席ドアガラス挟み込み防止機能

運転席ドアガラスを AUTO 操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

警告

- 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

知識

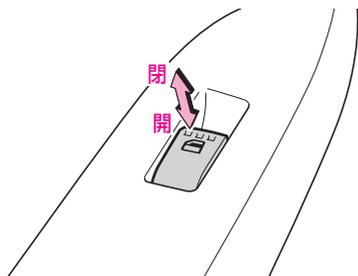
- 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がドアガラスに加わると、挟み込み防止機能が作動することがあります。

エンジンスイッチ“OFF”後の作動

エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ドアガラスを開閉できます。

助手席ドア、リヤドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON” のとき、スイッチで助手席ドアガラス・リヤドアガラスを開閉できます。



▼ 開きかた

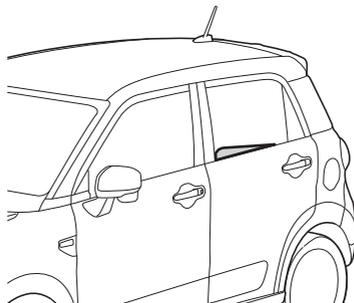
- スイッチを押し下げる

▼ 閉じかた

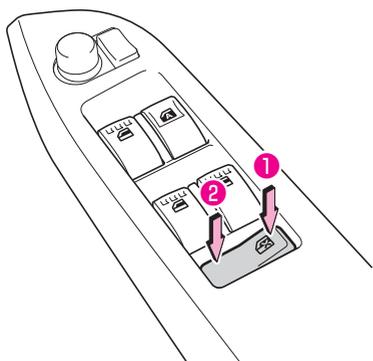
- スイッチを引き上げる

知識

- 左右のリヤドアガラスは全開になりません。



パワーウィンド OFF スイッチ



スイッチの右側 (1) を押すと“OFF”になり、運転席ウインドガラス以外は操作できなくなります。

スイッチの左側 (2) を押すと解除されます。

知識

- スイッチを押して“OFF”にすると、助手席ドアスイッチ・リヤドアスイッチのマークも消灯します。

パワーウインドの取扱い

運転席ドアガラスが全閉しないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 1 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
 - 2 運転席ドアウインドスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする
 - 3 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約6秒間スイッチを上を引き続ける
- 操作中、スイッチから手を離れたときは、もう一度はじめからやり直してください。
 - 上記の操作を行っても運転席ドアガラスが全閉しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーウインドの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドの初期設定をしてください。

初期設定しないと、下記の機能は作動しません。

- 運転席ドアガラスの
 - AUTO 操作
 - 挟み込み防止機能
 - エンジンスイッチ“OFF”後の作動
- 1 エンジンスイッチを“ON”にする
 - 2 運転席ドアウインドスイッチを下に押し続け、全開にする
 - 3 運転席ドアウインドスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする
 - 4 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約2秒間スイッチを上を引き続ける
- 操作中、スイッチから手を離れたときは、もう一度はじめからやり直してください。

給油のしかた

▼ 給油をする前に

警告

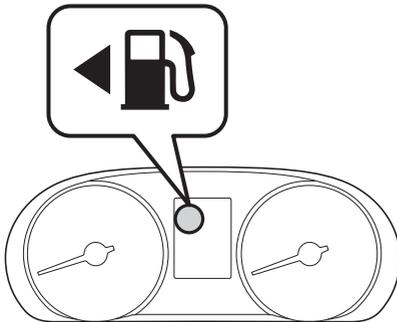
- 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - エンジンは必ず止めてください。
 - 車のドア、窓は閉めてください。
 - タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
 - フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
 - フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
 - 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
 - フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
 - フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
 - 給油口にほかの人を近付けないでください。
 - 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
 - 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
 - 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ」という音が一度するまで右に回し、確実に閉まっていることを確認してください。
 - トヨタ純正フューエルキャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
 - その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

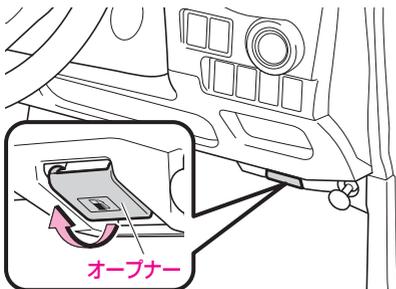
- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンです。
 - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
 - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。

フューエルリッドの開閉

▼ フューエルリッドの位置



メーター内にフューエルリッドの車両取り付け方向を示しています。



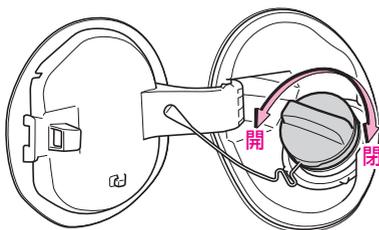
▼ 開けかた

インストルメントパネルの右下にあるオープナーを引き上げる

▼ 閉めかた

リッドを押して閉める

フューエルキャップの開閉



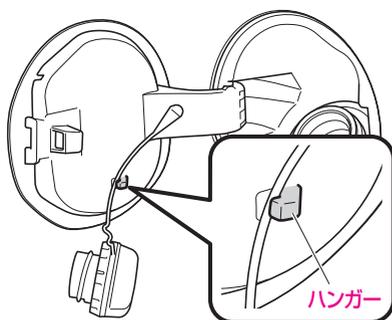
▼ 開けかた

左に回す

▼ 閉めかた

「カチッ」という音が一度するまで、右に回す

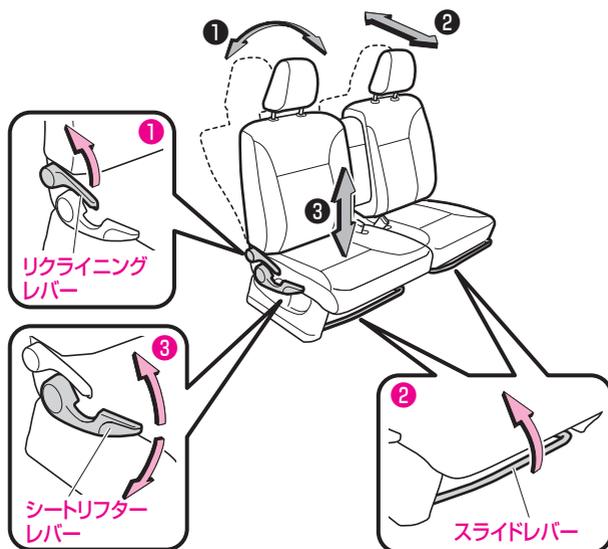
▼ 給油するときは



外したフューエルキャップをフューエルリッド裏面のハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

フロントシート



① リクライニング操作

- レバーを引き上げながら背もたれ角度を調整します。

② スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

③ 運転席シートリフター操作

- レバーを引き上げるごとにシート全体が上昇します。
- レバーを押し下げるごとにシート全体が下降します。

警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

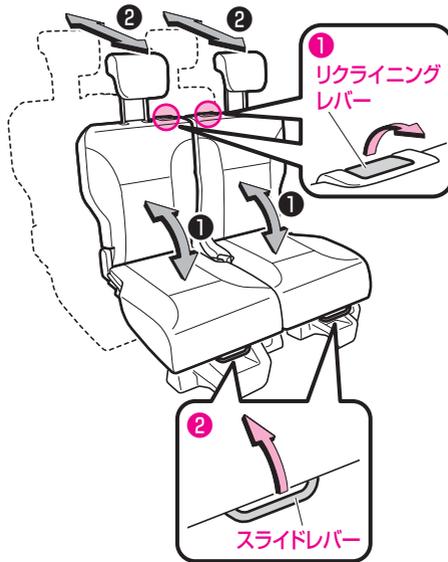
シートを調整するときは

- 次のことを守ってください。
守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
 - 手足を挟んだり、体にあたらないように十分注意する
 - シートの下や動いている部分に手足を近付けない
 - 同乗者や物に当てない

背もたれを調整するときは

- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突時に体がシートベルトの下にもぐり、ベルトが腰骨にかからず腹部にかかることになり、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれが急に戻るおそれがありますので、必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。

リヤシート



① リクライニング操作

- レバーを引き上げながら背もたれ角度を調整します。

② スライド操作

- レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

⚠ 警告

- 荷室には人を乗せないでください。人が乗る構造になっていないため、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はシートの背もたれより高く積まないでください。後方視界のさまたげになるだけでなく、急ブレーキ時などに前方に荷物が投げ出され、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

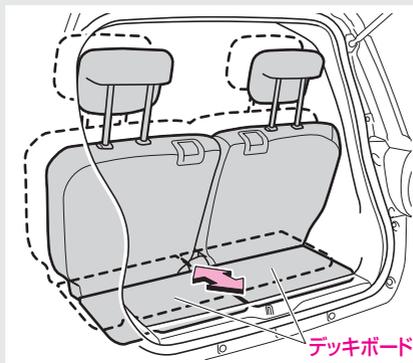
背もたれを調整するときは

- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

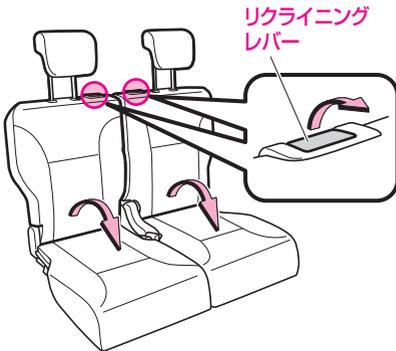
シートをスライド調整するときは

- デッキボードはリヤシートと連動して動きます。リヤシートのスライド調整をするときは、下記のことにご注意してください。
- 荷室で作業している人が、手を挟むおそれがあります。
- デッキボードに置いた荷物が倒れるおそれがあります。



前倒しのしかた

リヤシートを前倒しすることでラゲージルームを広くすることができます。



▼ 操作方法

リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

▼ 元に戻すときは

背もたれを起こす

⚠ 警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作するとき、または元に戻すときは、手や足などを挟まないように注意してください。
- 倒した背もたれの上、または荷室に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

背もたれを元の位置に戻したあとは

- 背もたれが確実に固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 倒した背もたれの上に荷物などを長時間載せるときは、ヘッドレストを上げた状態にしてください。シートクッションが型くずれする場合があります。

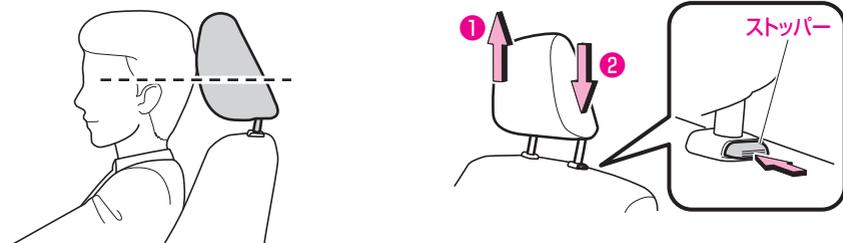
📖 知識

- 倒した背もたれの上に荷物などを載せたとき、ロック機構が作動して背もたれが固定される場合があります。ロックを解除するときは、背もたれを下方方向に押しながら、リクライニングレバーを引いてください。

ヘッドレスト

フロントヘッドレスト

ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるようにヘッドレストの高さを調整します。



▼ 上下調整

① : 上げる

② : 下げる

● 下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央の高さが耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

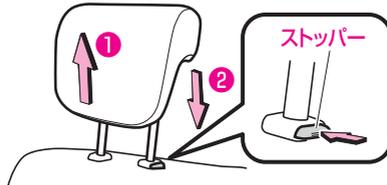
📖 知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

リヤヘッドレスト

使用するときには、常に上げた位置にしてください。



▼ 上下調整

①：上げる

②：下げる

- 下げるときは、ストッパーを押しながら操作します。

▼ 取り外すときは

ストッパーを押しながらヘッドレストを引き抜きます。

⚠ 警告

- リヤシートに人を乗せるときは、ヘッドレストを外したまま、または下げた状態のまま走行しないでください。衝突時などに、首に大きな衝撃が加わり、重大な傷害を受けるおそれがあります。ヘッドレストは必ず上げた状態で使用してください。
- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

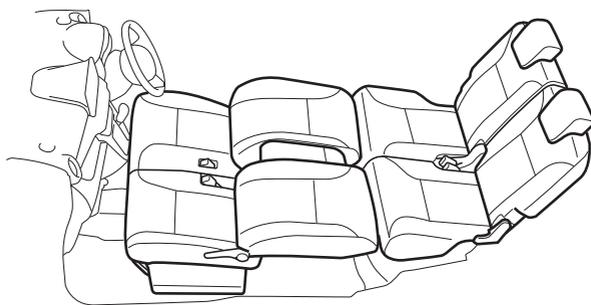
📖 知識

ヘッドレストを調整したあとは

- ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認してください。

シートアレンジ

ロングソファーマード



▼ 操作方法

- 1 リヤシートを後方いっぱいまでスライドさせる
- 2 リヤシートの背もたれを倒す
- 3 フロントシートのヘッドレストを外す
- 4 フロントシートを前方いっぱいまでスライドさせる
- 5 フロントシートの背もたれをリヤシートのクッションと同じ高さになるまで倒す

▼ 元に戻すときは

逆の手順で操作します。

警告

- 走行中はシートの操作を行わないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ロングソファーマードのときは

- 人を乗せたまま走行しないでください。急ブレーキ時など体が固定されず危険です。

注意**ロングソファーマードのときは**

- 安全な場所に車を止めて休息するときに使用してください。
- シートの上を走り回らないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの上に足を挟んだりしてけがをするおそれがあります。

ルームミラー

角度調整のしかた



ルームミラー全体を持って、角度を調整する

防眩機能

レバーを手前に引くと、後続車のヘッドライトの反射を減少させます。



- ① 防眩
- ② 通常

警告

- 走行中は、ルームミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 視界の調整をするときは、レバーを戻した状態で行ってください。

ドアミラー

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにミラーの角度調整と格納・復帰することができます。

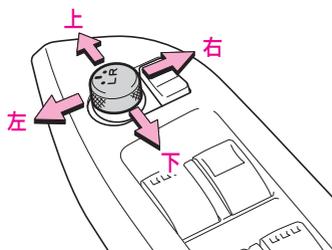
警告

- 調整は必ず走行前に行ってください。走行中にミラーの調整を行うと、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。

鏡面の角度調整のしかた



1 ノブを調整したい側にまわす



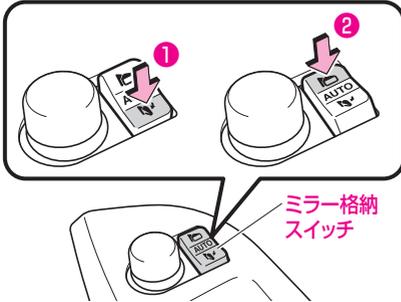
2 ノブを動かして、ミラーの角度を調整する

知識

- 調整するとき以外は、調整ノブを中立（中央）の位置に合わせておいてください。
- 中立（中央）の位置にすると調整操作ができません。

ドアミラーの格納・復帰のしかた

▼ マニュアル作動

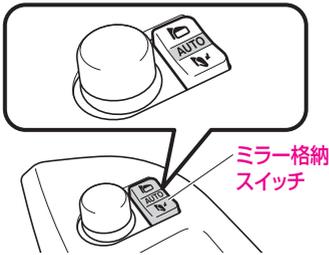


ミラー格納スイッチを押す

- ① 格納
- ② 復帰

▼ オート作動

キーフリーシステムによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。



● 格納のしかた

- 1 ミラー格納スイッチを“AUTO”（中立）の位置にする
- 2 リクエストスイッチ操作、または電子カードキーのリモコン操作でドアを施錠する

● 復帰のしかた

エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にする

⚠ 注意

- ミラーを復帰するときは、ドアミラー周辺に障害物がないことを確認してください。ドアミラーが当たり、破損するおそれがあります。

📖 知識

- ドアミラーを自動で格納（または復帰）させたくないときは、ミラー格納スイッチを復帰側（または格納側）の位置にしてください。
- 以下の作動はエンジンスイッチを“ON”にしたときのみ、設定を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - マニュアル作動（スイッチ操作）による格納、復帰
 - オート作動（キーフリーシステム連動）による復帰

ヒータードアミラー

オプション/グレード別装備

雨天時など、ドアミラーが曇ったときに使用します。

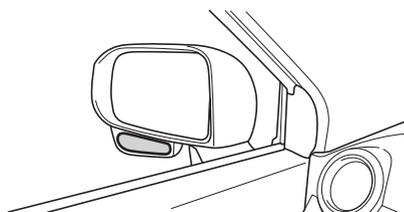
リヤウインドデフォグスイッチを押すことで、ドアミラーが暖められ曇りが取れます。

(リヤウインドデフォグスイッチ→276 ページ)

サイドアンダーミラー

オプション/グレード別装備

助手席側ドアミラー下部に装着されています。

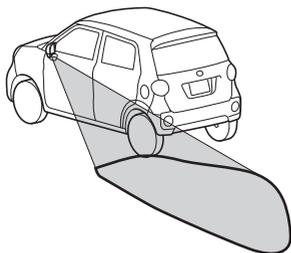


停車時や発進時、路肩に寄せるときなどに車両左側下部を確認することができます。

知識

- サイドアンダーミラーは下向きになっています。
- サイドアンダーミラーの角度調整は不要です。

見える範囲



ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。

注意

- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視するか、ルームミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

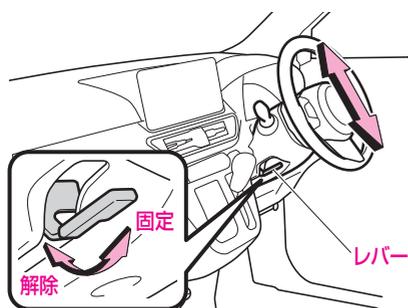
チルトステアリング

ハンドルの位置を運転しやすいように調整できます。

警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置の調整をしたあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

調整のしかた



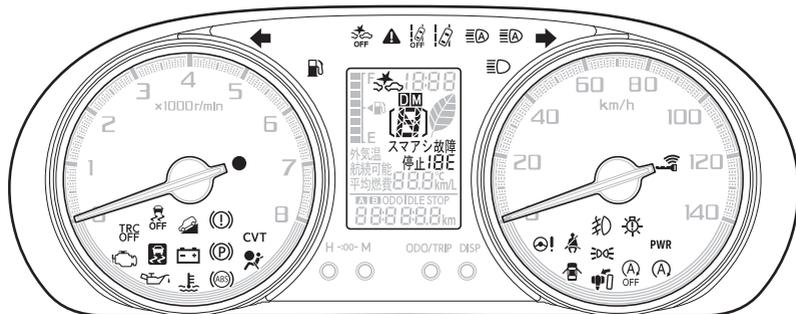
- 1 レバーを押し下げる
- 2 ハンドルを上下に動かし適切な位置に調整する
- 3 レバーを引き上げ固定する

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯	
警告灯	122
表示灯	134
メーターのはたらき	
メーター	142
スイッチの使いかた	
ライトスイッチ	154
ヘッドランプマニュアル	
レベリングスイッチ	162
フォグランプスイッチ	163
ワイパー・ウォッシャー	
スイッチ	163
ホーンスイッチ	166
方向指示スイッチ	166
非常点滅灯スイッチ	167

警告灯、表示灯

警告灯、表示灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告表示します。

警告

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

📖 知識

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
(オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照)

充電警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

📖 知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

駐車ブレーキ未解除警告灯



エンジンスイッチが“ON”で、駐車ブレーキがかかっていると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。

警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約5km/h以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

ブレーキ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
 - ブレーキ液の液量が不足しているとき
 - EBD 制御に異常があるとき
(ABS (EBD 機能付) → 193 ページ)

警告ブザー

ブレーキ液の不足により警告灯が点灯した状態で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

警告

警告ブザーが鳴ったときは

- ブレーキ液の液量が不足しています。
この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

注意

- 制動時、常に異音(キーキー音など)が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯 (赤色)



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

(オーバーヒートの処置 → 381 ページ)

📖 知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。

(水温表示灯 (青色) → 135 ページ)

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

📖 知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

オートマチックトランスミッション警告灯

CVT

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、オートマチックトランスミッションシステムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シートベルト締め忘れ警告灯（運転席・助手席）



運転席

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。

助手席

- エンジンスイッチが“ON”で、助手席に乗車時、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

知識

助手席の乗員検知センサーについて

- 助手席シート座面に、ある一定の重量がかかったときに検知します。このため、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上に座布団などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

運転席・助手席警告ブザー

運転席および助手席のシートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h以上で走行すると、ブザーが約2分間鳴ります。

知識

- 一度警告ブザーが鳴ると、たとえ約20km/h以下で走行しても、約2分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約30秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯



エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 警告

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

点灯した場合

- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯



エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が2WD車は約4.5ℓ以下、4WD車は約5.5ℓ以下になると、燃料残量警告灯が点滅した後、点灯します。

(燃料計→144ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。

📖 知識

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが鳴ります。

ABS 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ABSに異常があると点灯します。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

- ABSに異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABSとしての作動はしません）、トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
 - ▼ 異常があると点灯するシステム
 - SRS エアバッグ
(SRS エアバッグ→ 55 ページ)
 - プリテンショナー機構
(プリテンショナー機構→ 37 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートハイビーム警告灯 (黄色)

スマートアシストⅢ装着車



(オートハイビーム警告灯 (黄色)
→ 246 ページ)
(スマートアシストⅢ → 207 ページ)

LED ヘッドランプ警告灯

LED ヘッドランプ装着車



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、ライトスイッチが“D”または“AUTO”のとき、LED ヘッドランプに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

点灯した場合

- ライトスイッチを“OFF”にしても消灯しません。エンジンスイッチを“OFF”にするまで点灯し続けます。

電動パワーステアリング警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると赤色に点灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、電圧不足、電動パワーステアリングシステム過熱によりパワーステアリング制御が制限されると、黄色に点灯します。

⚠ 注意

赤色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が停止し、ハンドル操作が非常に重くなります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

黄色に点灯した場合

- パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなる場合があります。しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

警告ブザー

警告灯が点灯し、ハンドル操作が重くなった場合は、ブザーが鳴ります。

VSC & TRC 警告灯



(VSC & TRC 警告灯→198 ページ)
(VSC→195 ページ)
(TRC→196 ページ)
(ヒルホールドシステム→205 ページ)
(DAC→201 ページ)

キーフリー警告灯



(キーフリー警告灯→87 ページ)

マスターウォーニング

スマートアシストⅢ装着車



(マスターウォーニング→241 ページ)
(スマートアシストⅢ→207 ページ)

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

警告

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯



方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

- エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。
- 約 60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、自動で非常点滅灯が高速点滅し、同時に左右の表示灯が高速点滅します。

(エマージェンシーストップシグナル
→ 250 ページ)

知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯



エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

テールインジケーター



エンジンスイッチに関係なく、車幅灯を点灯させると点灯します。

フォグランプ表示灯

オプション / グレード別装備



エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

(フォグランプスイッチ → 163 ページ)

水温表示灯 (青色)



エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠ 注意

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合
- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

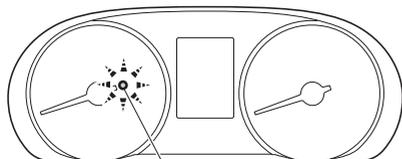
📖 知識

エンジン冷却水温が異常に高いときは

- 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

(水温警告灯 (赤色) → 126 ページ)

セキュリティインジケータ



セキュリティインジケータ

- エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にして、イモビライザー機能を作動させると点滅します。
- エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”にして、イモビライザー機能を解除すると消灯します。

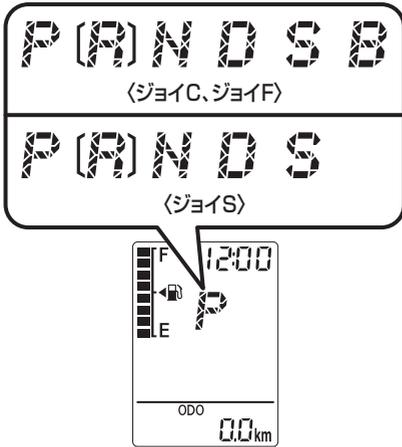
(イモビライザー機能→67ページ)

知識

- リクエストスイッチ操作またはキーのリモコン操作でドアを施錠してセキュリティアラームがセットされると、約30秒間点灯に変わります。

(セキュリティアラーム→68ページ)

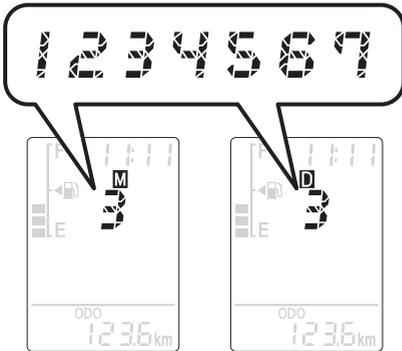
オートマチックシフトインジケータ



- エンジンスイッチが“ON” のとき、使用中のシフトレバーの位置が点灯します。
- ㊦レンジにすると、“[]” が点滅します。

シフトポジションインジケータ

ジョイス



〈㊦レンジでの
マニュアルモード〉

〈㊨レンジでの
マニュアルモード〉

- マニュアルモードに切り替えたとき、現在使用中のシフトポジションが表示されます。(パドルシフトの使いかた→ 188 ページ)
- シフトレバーが ㊦レンジでパドルシフトを操作したとき
- シフトレバーが ㊨レンジでパドルシフトを操作したとき

パワーモードインジケーター

オプション/グレード別装備

PWR

(D assist 切替ステアリングスイッチ
→ 191 ページ)

eco IDLE 表示灯

(eco IDLE 表示灯→ 259 ページ)



eco IDLE OFF 表示灯

(eco IDLE OFF 表示灯→ 260 ページ)



スリップインジケーター

(スリップインジケーター→ 199 ページ)
(VSC → 195 ページ)
(TRC → 196 ページ)
(DAC → 201 ページ)



(点滅)

VSC OFF 表示灯

(VSC OFF 表示灯→ 199 ページ)
(VSC → 195 ページ)



TRC OFF 表示灯



(TRC OFF 表示灯→ 199 ページ)
(TRC → 196 ページ)

DAC 表示灯

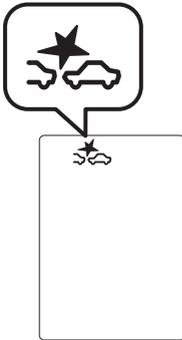
ジョイCの4WD車



(DAC 表示灯→ 204 ページ)
(DAC → 201 ページ)

スマートアシスト作動灯

スマートアシストⅢ装着車



(スマートアシスト作動灯
→ 242 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

スマートアシスト OFF 表示灯

スマートアシストⅢ装着車



(スマートアシスト OFF 表示灯
→ 243 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

車線逸脱警報作動灯

スマートアシストⅢ装着車



(車線逸脱警報作動灯
→ 243 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

車線逸脱警報 OFF 表示灯

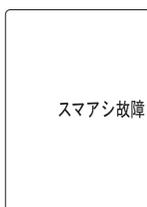
スマートアシストⅢ装着車



(車線逸脱警報 OFF 表示灯
→ 244 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

スマートアシスト“故障”表示

スマートアシストⅢ装着車



(スマートアシスト“故障”表示
→ 245 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

スマートアシスト“停止”表示

スマートアシストⅢ装着車



(スマートアシスト“停止”表示
→ 246 ページ)
(スマートアシストⅢ→ 207 ページ)

オートハイビーム作動灯（緑色）

スマートアシストⅢ装着車



（オートハイビーム作動灯（緑色）
→ 244 ページ）
（スマートアシストⅢ→ 207 ページ）

ブレーキオーバーライドシステム表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム
→ 170 ページ）

知識

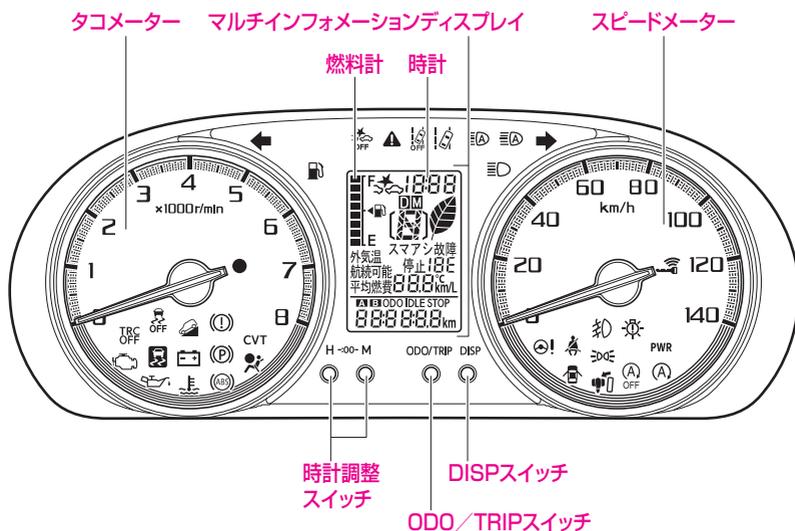
点灯した場合

- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

メーターのはたらき

メーター

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



知識

エンジンスイッチ“ON”時のメーター演出

- メーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。

メーター照明

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると、消灯します。
- メーター照明が点灯しているときに車幅灯を点灯させると、メーター照明が減光します。

知識

- ライトの点灯・消灯の確認は、テールインジケーターで行ってください。
(テールインジケーター→135ページ)
- メーター照明の照度は調整することができます。また、車幅灯を点灯させたときに、減光しないようにすることもできます。
(照度調整→148ページ)

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

タコメーター

1分間当たりのエンジン回転数を示します。

注意

- 指針が赤色表示域（エンジンが許容回転数を超える範囲）に入らないよう運転してください。赤色表示域に入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

燃料計

エンジンスイッチが“ON” のとき、燃料残量を表示します。

- 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

(燃料残量警告灯→ 129 ページ)

注意

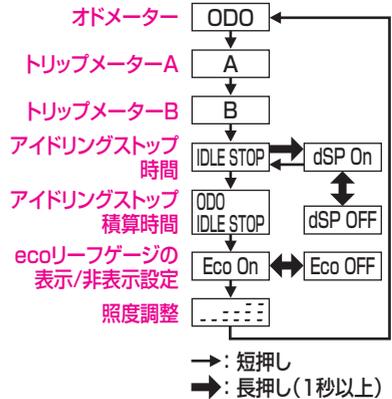
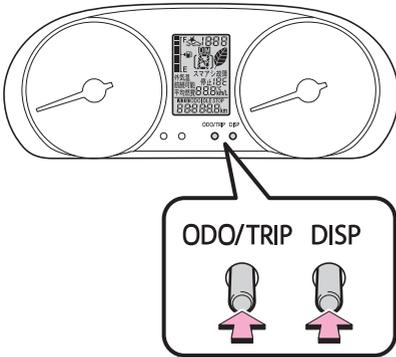
燃料残量警告灯が点灯した場合

- ただちに燃料を給油してください。

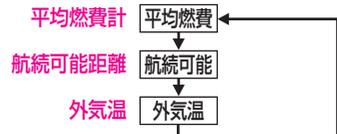
マルチインフォメーションディスプレイ

エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

- ODO/TRIP スイッチまたは DISP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。
- ▼ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた



- ▼DISP スイッチによる切り替わりかた



オドメーター (積算距離計)

走行した総距離を表示します。

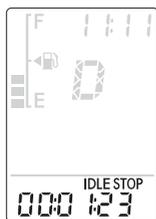
トリップメーター (区間距離計)

リセットした地点からの走行距離を表示します。

- トリップメーターは、同時に2つの区間の走行距離を表示することができます。
- ▼トリップメーター表示をリセットするには
- リセットするトリップメーター(AまたはB)を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

■ アイドリングストップ時間

エンジンスイッチを“ON”にしてからの eco IDLE によるアイドリングストップ時間を表示します。



▼ アイドリングストップ時間表示のリセットについて

- エンジンスイッチを“OFF”にすると、表示がリセットされます。
- リセット後、エンジンスイッチを“ON”にすると、表示が“00:00:00”になります。

▼ アイドリングストップ時間の自動表示について

アイドリングストップ時間自動表示の設定が“dSP On”のとき、eco IDLE によるアイドリングストップ中に、自動でアイドリングストップ時間を表示します。

知識

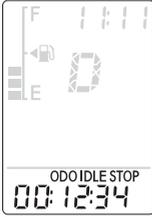
アイドリングストップ時間自動表示を解除するには

- アイドリングストップ時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押すと自動表示設定画面になります。さらに約 1 秒以上押すごとに“dSP On”、“dSP OFF”が切り替わります。

表示	eco IDLEによるアイドリングストップ中の自動表示
dSP On	する
dSP OFF	しない

■ アイドリングストップ積算時間

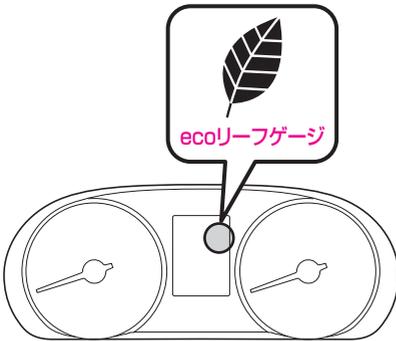
表示をリセットしてからの eco IDLE によるアイドリングストップ積算時間を表示します。



▼ アイドリングストップ積算時間表示をリセットするには

- アイドリングストップ積算時間を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“00:00:00”になります。

■ eco リーフゲージの表示／非表示設定



“Eco On”、“Eco OFF”を切り替えることで、eco リーフゲージの表示、非表示を切り替えます。

(eco リーフゲージ→ 153 ページ)

▼ 切り替え方法

- 1 ODO/TRIP スイッチを押して、“Eco On”（または“Eco OFF”）を表示する
- 2 ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けるごとに、“Eco On”、“Eco OFF”が切り替わる

▼ eco リーフゲージ

表示設定	
Eco On	二酸化炭素排出量の少ない、環境にやさしい運転をしていると目盛りが増えます。
Eco OFF	全ての目盛りが消灯します。

照度調整

メーター照度を調整します。

▼ **操作方法**

明るさ	表示	照度レベル
明るい  暗い		レベル1
		レベル2
		レベル3
		レベル4
		レベル5

照度調整表示中、ODO/TRIP スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが左表のように変わります。

▼ **照度調整**

メーター照明は、昼間用、および夜間用としてそれぞれ設定することができます。

昼間用

車幅灯を消灯して調整します。

夜間用

車幅灯を点灯して調整します。

 **知識**

- 夜間用の設定を“レベル 1”にすると、車幅灯を点灯させたときに、メーター照明が減光しません。

平均燃費計

表示をリセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。



▼ 平均燃費表示をリセットするには

平均燃費表示をリセットするには平均燃費を表示させ、DISP スイッチを約 1 秒以上押し続けると、表示が“0.0km/L”になります。

知識

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 最大表示は、「99.9km/L」です。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

航続可能距離

現在の燃料残量と過去の燃費から航続可能距離を算出します。



知識

- 航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を給油してください。
- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 最大表示は、「999km」です。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。
- バッテリーとの接続が断られたときは、学習した燃費はリセットされます。

■ 外気温

外気温度を表示します。



▼ 路面凍結警告表示

外気温度が 3°C 以下になると、温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることをお知らせします。

3°C
(点滅)

📖 知識

- ほかの計測装置により計測した外気温度とは、異なることがあります。
- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、外気温度が表示されないことがあります。
- 表示範囲は、「-30 ~ 50°C」です。
- 異常検出したときの表示は、「-1°C」です。
- 下記の場合は、正しい外気温度が表示されないことがあります。
 - 停車しているときや低速走行しているとき
 - 外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

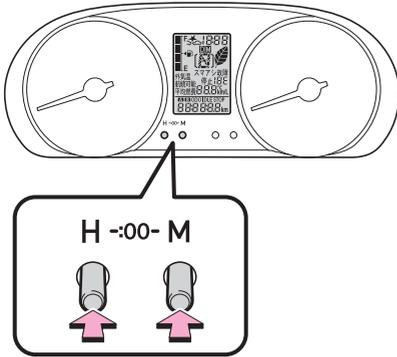
路面凍結警告表示

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温度がすでに 3°C 以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温度が 4°C 以上に上がってから、3°C 以下に下がらないと再び警告表示されません。

時計

エンジンスイッチが“ON”のとき、時計を表示します。

- 時計調整スイッチを押して、時計を調整します。



▼ “時” を調整する

時計調整“H”スイッチを押します。

- スイッチを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

▼ “分” を調整する

時計調整“M”スイッチを押します。

- スイッチを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。
(押し続けると、早送りします)

▼ 時報“:00”に合わせる

時計調整“H”スイッチと“M”スイッチを同時に約1秒以上押します。

(例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00

(例) 1:30 ~ 1:59 → 2:00

- 時報合わせが完了すると、“時”“分”が2回点滅します。

100

(点滅)

知識

- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断れたときは、時計表示がリセットされ、“1:00”が表示されます。

eco リーフゲージ

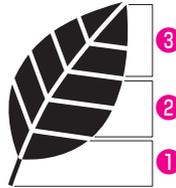
走行状態に応じてエコ運転（二酸化炭素排出量の少ない環境にやさしい運転）の度合いを判定し、eco リーフゲージが変化します。

- eco リーフゲージの表示／非表示の設定が“Eco On”のときに表示されます。

(eco リーフゲージの表示 / 非表示設定 → 147 ページ)

エンジン スイッチを“ON”の位置にすると、全ての目盛りが数秒間点灯します。走行状態に応じて、目盛りが図の①～③の3段階で増減、または消灯します。

- 走行速度にあったアクセル ペダルの操作でエコ運転をしていると、目盛りが増えます。



知識

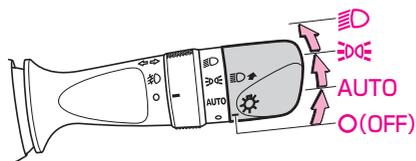
- eco IDLE によるアイドリング ストップ中は、すべての目盛りが点灯します。

(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)

スイッチの使いかた

ライトスイッチ

ライトの点灯



▼ 操作方法

- スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。

ライト スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
	点灯	点灯
	—	点灯
AUTO	自動点灯・消灯	
O(OFF)	—	—

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジン停止中は、ライト類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライトスイッチを“OFF”にしてください。

ライトの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

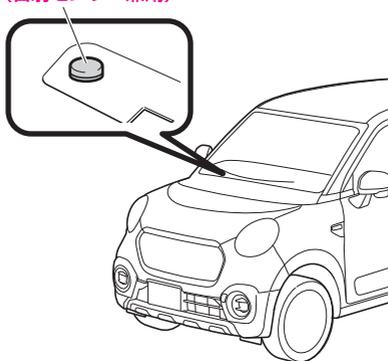
オートライト機能

- エンジンスイッチが“ON”でライトスイッチが“AUTO”の位置のとき、周囲の明るさに応じてヘッドランプ、車幅灯などが自動で点灯・消灯します。
- エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にして、運転席ドアを開くと、自動的に消灯します。

知識

- 自動で点灯・消灯するタイミングを変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- オートライトセンサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

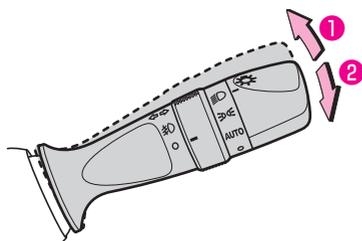
オートライトセンサー
(日射センサー兼用)



LED イルミネーション装着車

- エンジンスイッチが“ON”でライトスイッチが“**AUTO**”の位置のときは、周囲の明るさに関係なくLED イルミネーションが点灯します。
(LED イルミネーション (オールデイ) → 161 ページ)

ヘッドランプの切り替え



- ▼ ライト点灯時ハイビームに切り替える
 - ライトスイッチが“**☾**”または“**AUTO**”の位置のときレバーを押します。(1)
(戻すと下向き (ロービーム) になります)
- ▼ 一時的に使用する
 - ライトが消灯していても、レバーを手前に引いている間 (2)、前照灯が上向きに点灯します。
(レバーを離すと下向き (ロービーム) または消灯します)

警告

- 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

オートハイビーム

スマートアシストⅢ装着車

フロントウインドガラス上部に設置されたステレオカメラにより、対向車、または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

(ステレオカメラ→210 ページ)

⚠ 警告

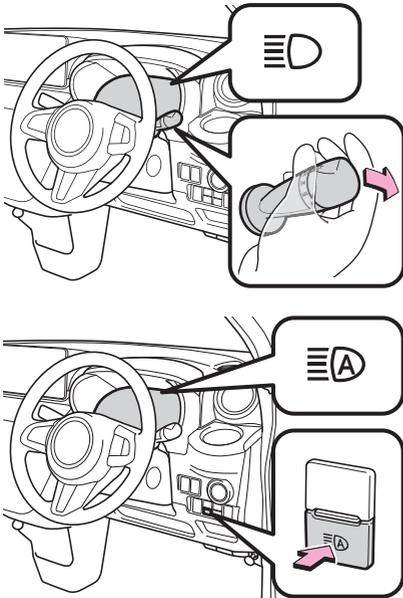
安全にお使いいただくために

- オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

オートハイビームを正しく作動させるために

- 荷物を積みすぎないでください。
- 車両を改造しないでください。



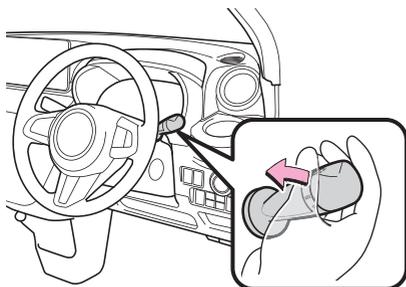
▼ 使用方法

- 1 エンジンスイッチが“ON”で、ライトスイッチが“D”または“AUTO”の位置のときレバーを前方へ押す
 - ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。
- 2 オートハイビームスイッチを押す
 - オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯（緑色）が点灯します。
（オートハイビーム作動灯（緑色）
→ 244 ページ）

■ 自動切り替え条件について

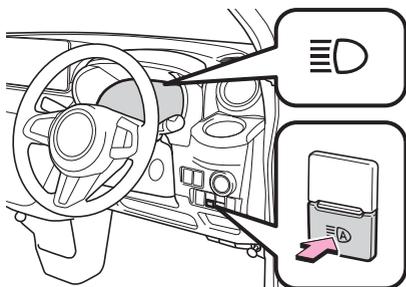
- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームに切り替わります。
 - 車速が約 25km/h 以上
 - 車両前方が暗い
 - 対向車、または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
 - 前方の街灯が暗い
- 次のいずれかの条件になると、ロービームに切り替わります。
 - 車速が約 20km/h 以下
 - 車両前方が明るい
 - 対向車、または先行車がランプを点灯している
 - 前方の街灯が明るい

手動切り替え方法



▼ ロービームへの切り替え

- レバーを元の位置に戻します。
 - オートハイビーム作動灯（緑色）が消灯します。
- オートハイビームに戻すには、再度レバーを前方に押しします。



▼ ハイビームへの切り替え

- オートハイビームスイッチを押します。
 - オートハイビーム作動灯（緑色）が点灯し、ヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。
- オートハイビームに戻すには、再度スイッチを押します。

⚠ 注意

- オートハイビーム警告灯（黄色）が点灯したときは、オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。（オートハイビーム警告灯（黄色） → 246 ページ）

知識

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - 他車が前方を横切ったとき
 - 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えタイミングが変化する場合があります。
 - 対向車または先行車のランプの明るさ
 - 対向車または先行車の動きや向き
 - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - 対向車または先行車が二輪車のとき
 - 道路状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は認識しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正しく認識されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - フロントガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ステレオカメラの温度が高いとき
 - 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
 - 急激な明るさの変化が連続するとき
 - 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - バンクやけん引などにより車両が傾いているとき

ライト自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ライト類を点灯したまま、エンジンスイッチを“OFF”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ライト類が自動で消灯します。

再びライトを点灯させる場合は、以下の操作をします。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ライトスイッチを“OFF”に戻し、再度“”、または“”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態ではライト類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ライト類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にする

または

- ライトスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ライト消し忘れ警告ブザー

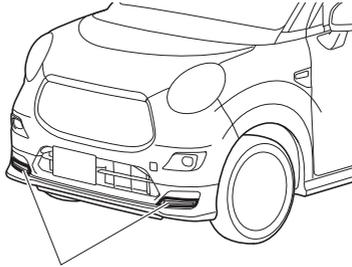
エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”の状態では、ライトを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

知識

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。

LED イルミネーション (オールデイ)

ジョイス



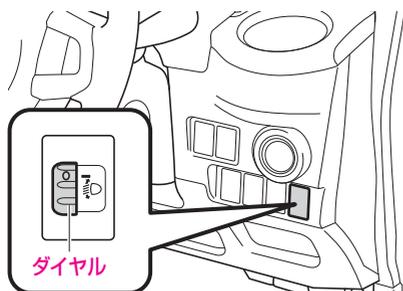
LEDイルミネーション

- ライトスイッチが“AUTO”の位置で周囲が明るいときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“OFF”または“ACC”にすると消灯します。
- 上記以外のときは車幅灯に連動して、点灯・消灯します。

ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。



▼ 調整方法

ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。
- 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷室の積載状況	ダイヤル位置					
	ジョイ C		ジョイ F		ジョイ S	
	2WD	4WD	2WD	4WD	2WD	4WD
運転席のみ乗車時	0	0	0	0	0	0
運転席と助手席に乗車時	0	0	0	0	0	0
4名乗車時	1.5	1	1.5	1	1	1
4名乗車で荷室満載時	2	2	2	1.5	2	1.5
運転席のみ乗車で荷室満載時	3	3	2.5	2	2.5	2

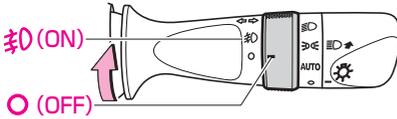
知識

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

フォグランブスイッチ

オプション/グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご使用ください。



▼ 点灯のしかた

- 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
(メーター内の表示灯が点灯します)

▼ 消灯のしかた

- スイッチを“OFF”にします。
(メーター内の表示灯が消灯します)

ワイパー・ウォッシャースイッチ

⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けしないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

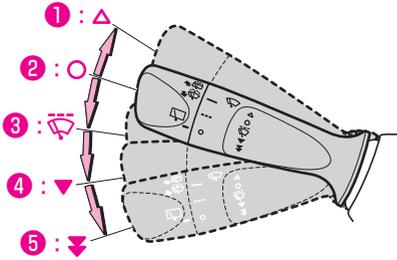
⚠ 注意

- 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。
- 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。
- 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。
- ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。

フロント

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

- ①：一時作動
- ②：停止
- ③：間欠作動
- ④：低速作動
- ⑤：高速作動

▼ 一時作動の使いかた

レバーを(②) から(①) の位置に押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと(②) の位置に戻ります。

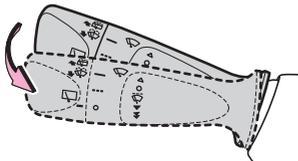
▼ 車速感应式ワイパー

レバーを(③)の位置(間欠作動)にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感应作動の機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の噴射



レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

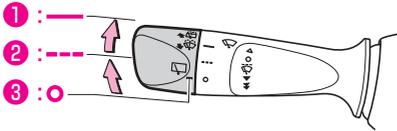
知識

- フロントウォッシャーを作動させると連動してフロントワイパーが低速作動します。

リヤ

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

ワイパーの使いかた



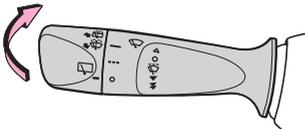
ツマミを回すと、リヤワイパーが作動します。

- ①：低速作動
- ②：約 4 秒間低速作動した後、間欠作動
- ③：停止

知識

- 下記のように、(②)の間欠作動の機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - 間欠作動の間隔を変更する
 - 約 4 秒間の低速作動を停止する

ウォッシャー液の噴射



レバーを押すとウォッシャー液が噴射します。

知識

- リヤワイパーが停止しているときにリヤウォッシャーを作動させると、リヤワイパーが作動するように機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

リバース連動リヤワイパー

- フロントワイパーが作動中に、シフトレバーを R レンジにすると、リヤワイパーが数回作動します。

知識

- フロントワイパーが停止後、約 10 秒間はシフトレバーを R レンジに入れると、リヤワイパーが数回作動します。
- 機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

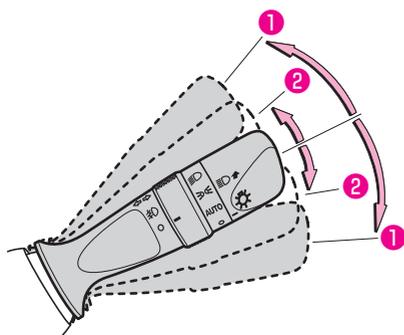
ホーンスイッチ

ハンドルの  マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示スイッチ



操作方法

スイッチを (1) の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

- スイッチは操作したあと、すぐに元の位置に戻ります。
- 右左折後、ハンドルを戻すと消灯します。消灯しないときは、レバーを (2) の位置まで軽く操作してください。

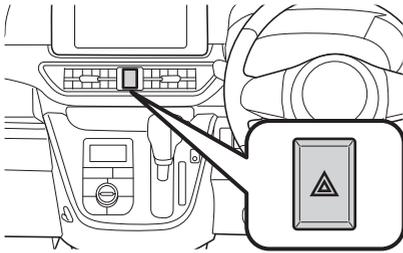
車線変更などのときは、レバーを (2) の位置まで軽く上下に操作します。

- スイッチを上下に操作している間点滅し、手を離すと消灯します。
- (2) の位置まで操作したあと、すぐに手を離れたときは、3 回点滅します。

知識

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。
- 下記のように機能を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - (2) の位置まで操作したときの 3 回点滅を停止する
 - 3 回点滅するときのスイッチ操作の時間を変更する
 - 右左折後に消灯するハンドル角度を変更する

非常点滅灯スイッチ



▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠ 注意

- 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。
- 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

車を運転するにあたって

運転するとき

運転をする前に	170
運転のしかた	172
運転するときの注意事項	175

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ	179
駐車ブレーキ	184
シフトレバー	185
D assist 切替 ステアリングスイッチ	191

ABS

ABS (EBD 機能付)	193
---------------	-----

VSC & TRC

VSC	195
TRC	196
メーター表示	198
VSC & TRC OFF スイッチ	200

DAC

DAC	201
メーター表示	204

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステム	205
------------	-----

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢ	207
ステレオカメラ	210
ソナー	213
衝突警報機能 (対車両・対歩行者)、 衝突回避支援ブレーキ機能 (対車両・対歩行者)	214
誤発進抑制制御機能 (前方・後方)	225
車線逸脱警報機能	234
先行車発進お知らせ機能	238
メーター表示	241
スマートアシスト OFF スイッチ	249

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップ シグナル	250
----------------------	-----

アイドリングストップシステム

eco IDLE (エコアイドル)	251
----------------------	-----

エコ発電制御

エコ発電制御	264
--------	-----

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

ターボ車

オプション/グレード別装備

高速走行、登坂走行直後にエンジンを停止するときは、必ず約 1 分程度アイドリング運転をしてからエンジンを止めてください。

(eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です)

⚠ 注意

- エンジン始動直後（エンジンが冷えているときは、エンジンの急激な空ぶかし、または急加速をしないでください。
- エンジン回転数がタコメーターの赤色表示域（エンジン許容回転数以上）に入らないように運転してください。
- 定期的なオイル交換、オイルフィルターの交換を必ず行ってください。

オートマチック車の特性

クリープ現象

オートマチック車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 警告

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がリ（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

ブレーキオーバーライドシステム

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、メーターに表示灯が点灯します。

(ブレーキオーバーライドシステム表示灯
→ 141 ページ)

4WD 車

オプション / グレード別装備

警告

- 4WD 車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 4WD 車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

V フレックスフルタイム4WD

知識

- V フレックスフルタイム4WD は、2WD と4WDを切り替えるモード切り替えスイッチはありません。また4WD表示灯もありません。

4WD 車のタイヤについて

4WD 車は4つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。

タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

(タイヤの点検 → 315 ページ)

(タイヤの交換 → 317 ページ)

(タイヤチェーンの装着 → 350 ページ)

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

- 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。

「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。

(運転するときの注意事項→175 ページ)

- 各運転装置の使いかたは以下を参照ください。

(エンジンスイッチ→179 ページ)

(シフトレバー→185 ページ)

(駐車ブレーキ→184 ページ)

エンジンをかける

▼ 準備

- 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。

- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

(正しい運転姿勢→34 ページ)

(車体各部の調整→107 ページ)

▼ 操作手順

- 1 シフトレバーが  レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
 - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

イージースタートサポート

イージースタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを押し続ける必要はありません。

- イージースタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、イージースタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

発進する

- 1 ブレーキペダルを右足で踏んだままシフトレバーを ④ レンジに入れる
 - 状況に応じて ⑤、⑥* レンジに、後退のときは ③ レンジに入れます。
- 2 駐車ブレーキを解除する
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

坂道発進するときは

- 1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを ④ レンジに入れる
- 2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

走行するときは

▼ 通常走行するときは

- ④ レンジで走行します。

▼ 急加速が必要なときは

- アクセルペダルを踏み込みます。
 - 自動的に変速比が切り替わり、力強い加速が得られます。(キックダウン)

ジョイス

- マニュアルモードでシフトダウンして、アクセルペダルを踏み込みます。

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

ジョイ C、ジョイ F

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて ⑤ レンジまたは ⑥ レンジに切り替えます。

ジョイス

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて ⑤ レンジに切り替えたり、マニュアルモードで 1 速ずつシフトダウンしたりします。

■ 停車する

- 1 シフトレバーは走行位置のまま、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける
 - 長時間停車する場合は、シフトレバーを **R** または **N** レンジに入れます。

■ 後退する

車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかりと踏み続け、シフトレバーを **R** レンジに入れます。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを **R** レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にシフトレバーが **R** レンジにあることを知らせます。(警告ブザーは車外には聞こえません)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーを **R** レンジのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける
- 3 シフトレバーを **R** レンジにする
- 4 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する
- 5 電子カードキーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止め*を使用してください。

運転するときの注意事項

警告

エンジンをかけるときは

- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するとき

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- PレンジからDレンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどでDからR、RからDレンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐためにPからR、NからD、NからRレンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

警告

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 坂道などでは、シフトレバーを **Ⓐ**、**Ⓑ**、**Ⓒ*** レンジに入れたまま惰性で後退したり、**Ⓓ** レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂を **Ⓓ** レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキを併用してください。
- 車が完全に止まらないうちに **Ⓔ** レンジに入れないでください。また、前進走行中に **Ⓓ** レンジ、および後退中は **Ⓐ**、**Ⓑ**、**Ⓒ*** レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 上り坂での停車は、クリーブ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリーブ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退するときは

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは **Ⓓ** レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐ **Ⓔ** レンジに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するときは

- エンジンかけたまま車から離れないでください。

⚠ 注意**エンジンをかけるときは**

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

発進するとき

- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。
- シフトレバーがどの位置にあるかをシフトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフトレバーが **P**、**N** レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。(クリーブ現象)

走行中は

- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

(ブレーキオーバーライドシステム→ 170 ページ)

駐車するとき

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にしてください。“ON”や“ACC”のままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。
- ターボ車は、高速および登坂走行の直後にエンジンを止めるときは、必ずアイドリング運転を約 1 分程度行ってください。(eco IDLE が作動してアイドリングストップしたときは、アイドリング運転は不要です)
- **P** レンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ず **P** レンジにあることを確認してください。

 **知識**

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにライト、リヤウインドデフォグガー、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただし駐車ブレーキ未解除警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドル回転に下がります。
- キーフリーシステムの通信エラーなどでエンジンの始動ができないことがあります。このときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度、エンジンをかけなおしてください。

走行中は

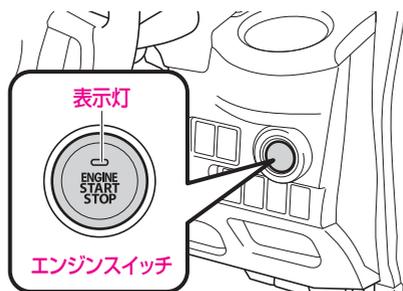
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。
-  レンジの走行中に急加速を行うと、車速の上昇よりもエンジン回転数の上昇が早く感じられますが、オートマチックトランスミッションの変速制御によるもので問題ありません。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。

運転装置の使いかた

■ エンジンスイッチ



■ プッシュボタンスタート

■ エンジンのかけかた

▼ 準備

- 電子カードキーを携帯し、運転席に座ります。
- 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。
(正しい運転姿勢 → 34 ページ)
(車体各部の調整 → 107 ページ)

▼ 操作手順

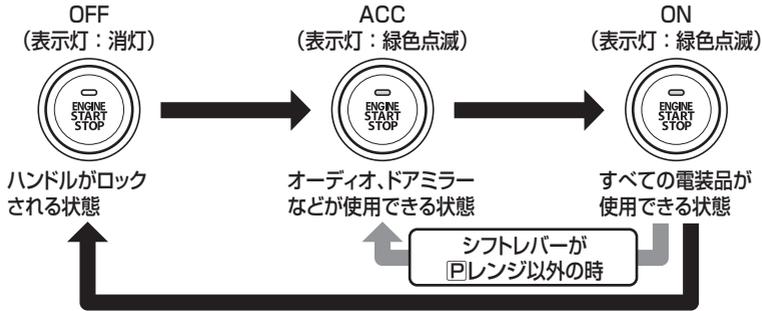
- 1 シフトレバーが P レンジの位置にあることを確認する
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む
 - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、エンジンスイッチを押す

■ エンジンの停止方法

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 駐車ブレーキをかける
- 3 シフトレバーを P レンジにする
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離れた状態で、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずに、エンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。



- スイッチを押すごとにモードが切り替わります。
- シフトレバーがPレンジ以外のときは“OFF”になりません。

ハンドルロック

エンジンスイッチを“OFF”にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

警告

- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けないでください。ドアを開けるとハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。安全な場所に停車させたあと、ただちに、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

- エンジンスイッチを“OFF”にしたときに運転席ドアが開いていると、ハンドルがロックされず、警告ブザーが鳴ります。
(ハンドルロック未完了警告→85ページ)
- 車両のバッテリーがあがっている場合ハンドルロックが作動しません。

ハンドルロックが解除できないときは



エンジンの始動操作をしたときに、ハンドルロックが解除できないと、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅します。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 警告

緊急時のエンジン停止方法

- 下記の操作を行うと、走行中でもエンジンが止まります。ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチの操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンスイッチを3秒以上押し続ける
- エンジンスイッチを3回以上連打する

(車両を緊急停止するには→387ページ)

⚠ 注意

エンジンスイッチ表示灯が橙色に点滅したときは

- システムの異常が考えられます。エンジンスイッチを“OFF”にせず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。(いったん“OFF”にすると、エンジンを始動できなくなることがあります)

エンジンスイッチがいつもと違うときは

- スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、ただちに、トヨタ販売店にご連絡ください。
- スイッチに飲み物などをこぼさないでください。万一、こぼした場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。
- 車幅灯を点灯させても、スイッチの照明が点灯しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

電子カードキーについて

- エンジン始動後に電子カードキーを車外に持ち出さないでください。持ち出したままエンジンを停止すると、電子カードキーが車内に無いためにエンジンの始動ができなくなります。特にドアを閉めたまま窓から電子カードキーを持ち出した場合は、持ち出しの警告ブザーが鳴らないので注意してください。

 **知識**

エンジンが始動しないときは

- いったんエンジンスイッチを“OFF”にして、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できないとき

- エンジンスイッチに電子カードキーを接触させてスイッチを押すことで、エンジンスイッチを“ON”にすることができます。

(電子カードキーが使用できないとき→ 383 ページ)

エンジンスイッチの操作について

- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約 10 秒以上待ってから、再びエンジンの始動操作を行ってください。
- スイッチを早押しした場合、エンジンの始動・停止、モードの切り替えができないことがあります。1 回ずつ確実に押してください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- シフトレバーが  レンジ以外 のとき、エンジンを停止させないでください。シフトレバーが  レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチが“ACC”になるため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

エンジンスイッチが正常に作動しないおそれのある状況

- 電子カードキーが作動範囲内にあっても、周囲の状況や電子カードキーの場所により、作動しないことがあります。

(作動範囲→ 80 ページ)

キーフリーシステムの警告ブザーについて

- キーフリーシステムは、電子カードキーの持ち出しや、エンジンスイッチの切り忘れなどの誤操作を検知すると、ブザーを鳴らして警告を行います。

(警告ブザー、メーター表示による警告→ 82 ページ)

 知識**車両のバッテリーを脱着したあとは**

- すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約 10 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

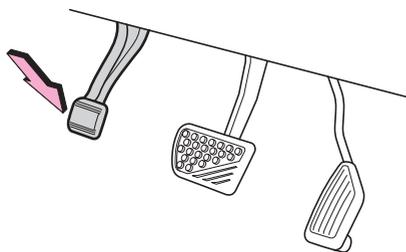
エンジンスイッチモードの記憶について

- 車両は常にエンジンスイッチモード（“ACC” または “ON”）を記憶しています。車両のバッテリーを再接続したときは、エンジンスイッチが絶たれる前の状態に復帰します。修理などで車両のバッテリーを外すときは、必ずエンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。車両のバッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のエンジンスイッチモードがわからないときは、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてください。

エンジンスイッチ自動 OFF 機能

- シフトレバーが  レンジのとき、エンジンスイッチが“ACC”、または“ON”のまま放置すると、バッテリーあがり防止のため、自動的にエンジンスイッチが“OFF”になります。
 - “ACC” のときは約 1 時間放置すると“OFF”になります。
 - “ON” のときは約 20 分放置すると“OFF”になります。

駐車ブレーキ



▼ かけるとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込みます。

- エンジンスイッチが“ON” のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が点灯します。

(駐車ブレーキ未解除警告灯
→ 124 ページ)

▼ 解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルを踏み込みます。「カチッ」という音がしたらパーキングペダルをゆっくり戻します。

- エンジンスイッチが“ON” のときは、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯します。

⚠ 警告

- 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、駐車ブレーキ未解除警告灯が消灯していることを必ず確認してください。

駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 駐車ブレーキをさらに強くかける必要がある場合はブレーキペダルをしっかり踏み、一度駐車ブレーキを解除させ、完全にパーキングペダルを戻してからもう一度駐車ブレーキをかけ直してください。
- 駐車ブレーキをかけるとき、解除するときには必ずペダルの位置を目で確認してから操作してください。

📖 知識

- 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

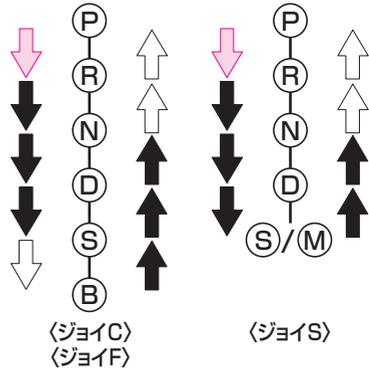
(駐車ブレーキ未解除警告灯 → 124 ページ)

シフトレバー

シフトレバーの使いかた



シフトレバーの操作は確実に行ってください。



	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーボタンを押して動かします
	シフトレバーボタンを押して動かします
	シフトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

警告

- ➡の操作は誤作動を防ぐため、シフトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にシフトレバーボタンを押して操作していると、**P**、**R**、**B*** レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- P** から **D** レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に **N** レンジに入れしないでください。エンブレキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに **P** レンジに入れしないでください。また、前進走行中に **R** レンジ、および後退走行中に **D**、**S**、**B*** レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

各位置のはたらき

ジョイC、ジョイF

シフトポジション	メーター表示	目的
P(パーキング)		駐車またはエンジン始動
R(リバース)		後退
N(ニュートラル)		動力が伝わらない状態
D(ドライブ)		通常走行 (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
S(スポーツ)		スポーティな走行 坂道や山間地などの走行
B(ブレーキ)		強いエンジンブレーキが必要なとき 急な上り坂や下り坂などの走行

ジョイS

シフトポジション	メーター表示	目的
P(パーキング)		駐車またはエンジン始動
R(リバース)		後退
N(ニュートラル)		動力が伝わらない状態
D(ドライブ)		通常走行 (速度に応じて無段階で自動的に変速されます)
		一時的なマニュアルモード走行 (Dレンジで走行中にパドルシフトを操作したとき)
S(スポーツ)		スポーティな走行 坂道や山間地などの走行
		マニュアルモード走行 (Sレンジでパドルシフトを操作したとき)

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”にし、ブレーキペダルを踏むと、シフトレバーの操作ができます。

- 必ずブレーキペダルをしっかりと踏み込み、シフトレバーを操作します。

知識

- エンジンスイッチが“ON”以外では、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを [P] レンジからほかのレンジへは動かさせません。
- 先にシフトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。
- 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーを [P] レンジから他の位置へ動かさせないときは、シフトロック解除ボタンを使用してロックを解除してください。この場合はシフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトロック解除ボタン

バッテリーあがりなどで、シフトレバーが [P] レンジからほかのレンジへ動かないときは、シフトロック解除ボタンを使用します。



▼ シフトロック解除方法

- 必ずブレーキペダルをしっかりと踏み込み、シフトロック解除ボタンを押しながら、シフトレバーを操作します。

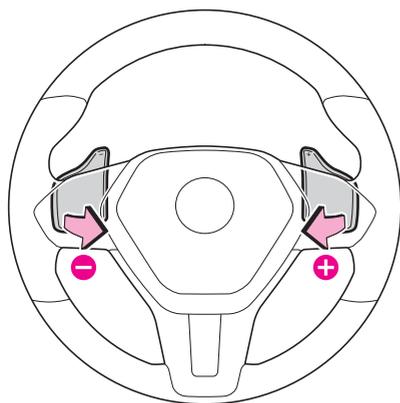
パドルシフトの使いかた

ジョイス

シフトレバーが ⑤ レンジのとき、または ④ レンジで走行中にパドルシフトを操作すると、マニュアルモードに切り替わりシフトポジションを選択することができます。

(⑤ レンジでのマニュアルモード→ 189 ページ)

(④ レンジでの一時的なマニュアルモード→ 190 ページ)



▼ 操作方法

パドルシフトの **+** 側または **-** 側を操作する

● 操作するごとに 1 速ずつ変速し、選択したシフトポジションに固定されます。

+ : シフトアップ

- : シフトダウン

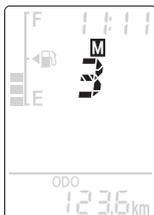
📖 知識

マニュアルモードで連続変速したいとき

● パドルシフトを **+** または **-** 側に繰り返し操作してください。パドルシフトが **+** または **-** 側に保持されたままでは連続でシフトポジションを変えることができません。

㊦ レンジでのマニュアルモード

シフトレバーが㊦レンジのとき、パドルシフトを操作すると、マニュアルモードに切り替わり、シフトポジションを選択することができます。



▼ メーター表示

シフトポジションインジケータに **M** が点灯し、1～7速のあいだで選択されているシフトポジションが表示されます。

▼ 解除方法

シフトレバーを㊦レンジに入れます。

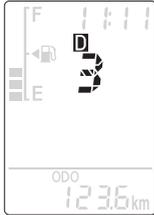
知識

マニュアルモードでも自動変速されるとき

- マニュアルモードでは、パドルシフトを操作しない限り変速しません。ただし、以下の場合は安全や走行性能を確保するため自動的に変速します。
 - エンジン回転数が上がりすぎるとき
 - エンジン回転数が下がりすぎるとき
- 車両が停止すると、自動的に1速になります。

㊦ レンジでの一時的なマニュアルモード

シフトレバーが㊦レンジで走行中に、パドルシフトを操作すると、一時的にマニュアルモードに切り替わり、シフトポジションを選択することができます。



▼ メーター表示

シフトポジションインジケータに **D** が点灯し、1～7速のあいだで選択されているシフトポジションが表示されます。

▼ 解除方法

パドルシフトの **+** 側を約 1 秒以上引き続けます。

知識

- 下記の状態になるとマニュアルモードが自動解除され、通常の **㊦** レンジ走行に戻ります。
 - 同じシフトポジションでアクセルペダルを数秒間踏み続けたとき
 - アクセルペダルを大きく踏み込んだとき
 - 停車したとき

マニュアルモードでも自動変速されるとき

- マニュアルモードでは、パドルシフトを操作しない限り変速しません。ただし、以下の場合は安全や走行性能を確保するため自動的に変速します。
 - エンジン回転数が上がりすぎるとき
 - エンジン回転数が下がりすぎるとき

シフト制限警告ブザー

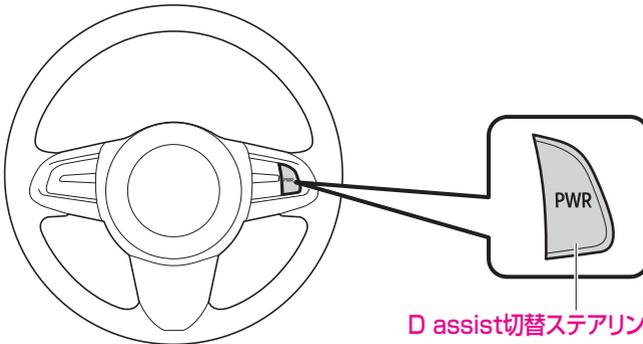
マニュアルモードの操作には制限があり、希望するシフトポジションへ変速できない場合があります。下記の場合は、警告ブザーが鳴り、運転者にお知らせします。

- シフトダウン操作により、エンジン回転数が上がりすぎるとき
- シフトアップ操作により、エンジン回転数が下がりすぎるとき

D assist 切替ステアリングスイッチ

オプション/グレード別装備

D assist 切替ステアリングスイッチを“ON”にすると、エンジンとオートマチックトランスミッションの制御が切り替わりパワーモードになります。シフトレバーが 、 レンジのときに軽快な走行をすることができます。



- スイッチを押して“ON”にすると、メーター内のパワーモードインジケーターが点灯します。
- スイッチをもう一度押すと“OFF”になり、メーター内のパワーモードインジケーターが消灯します。

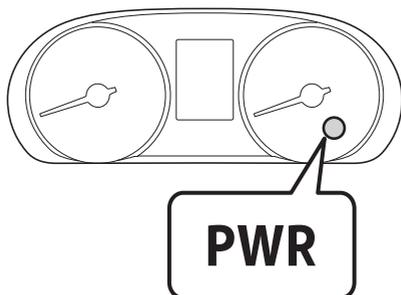
⚠ 注意

- エンジン警告灯、オートマチックトランスミッション警告灯が点灯しているときは、パワーモード制御に切り替わりません。

📖 知識

- 、 レンジでの走行時は、パワーモード制御は行われません。
- D assist 切替ステアリングスイッチを“ON”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、D assist 切替ステアリングスイッチは“OFF”になります。

パワーモードインジケータ



知識

- パワーモードインジケータが点灯しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

ABS

ABS*(EBD 機能付)

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 警告

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 下記の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることもあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
 - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤチェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
 - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

📖 知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

知識

- 走行中に ABS 警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABS は作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ABS の作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABS が正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むと ABS が作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめると ABS が効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ* はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

VSC & TRC

VSC*

VSC は、急激なハンドル操作や、滑りやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するために、自動的にブレーキを制御して、車両の安定性を確保しようとするシステムです。

また緊急制動時など、ブレーキペダルが強く踏めずブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、ブレーキ力を増強するブレーキアシストを備えています。

- VSC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。

(スリップインジケーター→ 199 ページ)

- VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押して、メーター内の VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、VSC (TRC を含む) は作動しません。

(VSC & TRC OFF スイッチ→ 200 ページ)

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→ 315 ページ)

警告

- VSC を過信しないでください。VSC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン (溝模様) および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには VSC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- VSC は、車速が約 15km/h を超えると作動するようになります。
- VSC (TRC を含む) は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

知識

ブレーキアシストについて

- VSC の “ON” ・ “OFF” に関わらず、緊急制動時などに作動します。
- ブレーキペダルを急速度で踏んだときに、ブレーキアシストが作動してブレーキが強くなり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、異常ではありません。

TRC*

TRC のはたらき

滑りやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生じる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップ始めると、車輪速センサーからの情報で、コンピューターがスリップを感知し、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを抑制します。
- TRC が作動すると、スリップインジケーターが点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。
(スリップインジケーター→ 199 ページ)
- VSC & TRC OFF スイッチを押して、メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯しているときは、TRC は作動しません。
(VSC & TRC OFF スイッチ→ 200 ページ)
- めかるみや新雪路でのスタックからの脱出時などは、TRC が作動していると脱出しにくい場合があります。この場合、VSC & TRC OFF スイッチを操作することで、TRC を停止することができます。
(スタック (立ち往生) したとき→ 371 ページ)

ジョイ C の 4WD 車

- 他仕様と比べ、片輪がスリップするような滑りやすい路面でのブレーキ制御が異なり、発進、加速性を向上しています。(グリップサポート制御)

TRC のしくみ

タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけ、スリップを抑制します。

TRC とタイヤの関係

TRC は、車輪に付いているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4 輪の中で 1 輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方が変わり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

(タイヤの点検→315 ページ)

警告

- TRC を過信しないでください。TRC が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 常に安全運転を心がけ、スリップインジケーターが点滅したときは、特に慎重に運転してください。

(スリップインジケーター→199 ページ)

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには TRC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな車速で走行してください。

知識

- TRC は、作動停止した場合でも、エンジンを始動するたびに作動可能状態に戻ります。
- エンジン始動時や始動後最初の走行時に、エンジンルームから「カチカチ、トン」という音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

メーター表示

VSC & TRC 警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。
 - VSC
 - TRC
 - ヒルホールドシステム
(ヒルホールドシステム→205 ページ)
 - DAC
(DAC → 201 ページ)

⚠ 注意

点灯した場合

- 通常走行に支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

点滅した場合

- VSC、TRC または DAC が作動しています。
(スリップインジケータ→199 ページ)

スリップインジケーター



(点滅)

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムが作動した場合に点滅します。
 - VSC
 - TRC
 - DAC

(DAC → 201 ページ)

警告

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき、または点灯したままの場合は、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- スリップインジケーターが点滅した場合は、VSC、TRC または DAC が作動していますので特に慎重に運転してください。

VSC OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを 3 秒以上押すと、VSC (TRC を含む) が作動停止状態となり点灯します。

(VSC & TRC OFF スイッチ
→ 200 ページ)

TRC OFF 表示灯

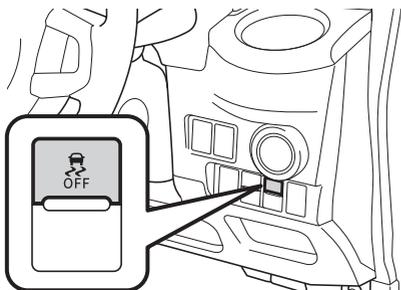


- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- VSC & TRC OFF スイッチを押すと、TRC が作動停止状態となり点灯します。

(VSC & TRC OFF スイッチ
→ 200 ページ)

VSC & TRC OFF スイッチ

VSC や TRC は新雪路、深雪路、砂地等からの脱出には適さない場合があります。このようなときは VSC & TRC OFF スイッチを押して VSC と TRC を“OFF”にします。



▼ TRC を“OFF” にするとき

- エンジンスイッチが“ON” のとき、VSC & TRC OFF スイッチを短押し（3秒以内）します。（メーター内の TRC OFF 表示灯が点灯します）

▼ VSC と TRC を“OFF” にするとき

- エンジンスイッチが“ON” で車両が停止しているとき、VSC & TRC OFF スイッチを3秒以上押し続けます。（メーター内の TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します）

▼ 作動可能状態に戻すとき

- VSC & TRC OFF スイッチをもう1度押します。（TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が消灯します）

警告

- VSC や TRC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要とき以外は VSC や TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

知識

- VSC や TRC を作動停止にした場合でも、エンジンを始動するたびに自動的に VSC と TRC は作動可能状態に戻ります。
- TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

DAC

ジョイ C の 4WD 車

DAC*

DAC は、エンジンブレーキだけでは十分減速できないような急な下り坂や、凹凸が激しい路面や雪道などの滑りやすい坂道を下るときに、タイヤをロックさせることなく一定の車速（前進時は約 4 ~ 15km/h、後退時は約 4km/h）を維持し、ブレーキペダルやアクセルペダル操作に気を取られることなく、ハンドル操作を行うことができるシステムです。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。

（タイヤの点検→ 315 ページ）

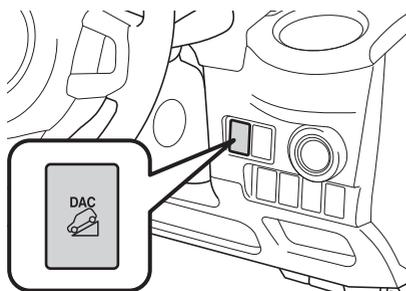
⚠ 警告

- DAC を過信しないでください。極端に急な下り坂、凍結路、ぬかるみを下るときや、積載重量によっては一定の速度を維持できない場合があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。特に慎重に運転してください。
- 前進行走中に R レンジ、および後退中は D、S、B レンジに入れしないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあります。
- DAC を頻繁に使用すると、ブレーキ装置が過熱してブレーキの効きが悪くなります。この場合、DAC 表示灯が消灯し、DAC システムが解除しますので、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。ブレーキ装置が冷えた後、再度 DAC システムを“ON”にするときは、DAC スイッチを押してください。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）および摩耗差のないタイヤを装着してください。指定以外の物を装着すると DAC が正確に機能しないおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときなどには DAC が正確に機能しないおそれがあります。
- 雪道や凍結路を走行するときには冬用タイヤを装着し、控えめな速度で走行してください。

⚠ 注意

- VSC & TRC 警告灯が点灯しているときは、DAC システムが“ON”になりません。
（VSC & TRC 警告灯→ 198 ページ）

DAC の使いかた



- 1 シフトレバーを前進時は回レンジ、後退時はRレンジにする
- 2 DAC スイッチを押す
 - DAC システムが“ON”になり、メーター内のDAC 表示灯が点灯、または点滅します。
 - 車速が約 15km/h 以下のときは、DAC 表示灯は点灯し、DAC が作動可能状態になります。
 - 車速が約 15 ~ 40km/h ときは、DAC 表示灯は点滅します。点滅しているときは DAC は作動しません。

知識

- 下記の場合は、スイッチを押しても DAC 表示灯は消灯したままで、DAC システムは“ON”になりません。
 - 車速が約 40km/h 以上のとき
 - ブレーキ装置が過熱しているとき
- 3 車速が約 15km/h 以下でブレーキペダル、アクセルペダルを離して坂道を下る
 - DAC が作動して車速を維持します。
 - 前進時は約 4 ~ 15km/h
 - 後退時は約 4km/h
 - 前進時はペダルを離れたときの車速を維持します。
 - DAC が作動すると、メーター内のスリップインジケーターが点滅し、制動灯が点灯します。

警告

- DAC が作動しているときは、スマートアシストⅢの誤発進抑制制御機能（前方・後方）が作動しない場合があります。

知識

- DAC 作動中に、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。これは、DAC が作動しているときの音で、異常ではありません。
- 前進時の維持したい車速を変更するときは、アクセルペダルまたはブレーキペダルで調節します。ペダルから足を離すと再度 DAC が作動し、そのときの車速を維持します。
- 下記のいずれかの場合でも、DAC が作動することがあります。
 - 平坦路を走行しているとき
 - 減速しない程度にブレーキペダルを踏んでいるとき
- DAC システムが“ON”（DAC 表示灯が点灯または点滅）のときは、eco IDLE による停車前アイドリングストップはしません。

(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)

DAC の作動が一時的に解除する場合

- 下記の状態になると、スリップインジケーターが消灯し、DAC の作動が一時的に解除します。
 - アクセルペダル、およびブレーキペダルを踏んだとき
 - 上り坂や平坦路を走行したとき
 - シフトレバーをD、Rレンジ以外にしたとき
 - 車速が約 15 ~ 40km/h になったとき

知識

- DAC 作動中にアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、DAC は作動を停止し、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - 「ドン」という音が聞こえる
 - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
- 下記の状態で作動を一時的に解除した場合は、DAC 表示灯が点滅し、DAC が作動可能状態ではなくなります。
 - シフトレバーをD、Rレンジ以外にしたとき
 - 車速が約 15 ~ 40km/h になったとき

DAC システムを解除するには

- 下記の操作をすると、DAC システムが解除し、DAC 表示灯が消灯します。
 - DAC スイッチを押す
 - 車速が約 40km/h 以上で走行する

メーター表示

DAC 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、DACシステムが“ON”のときに点灯します。
- DACシステムが“ON”で、下記の状態のときは点滅します。
 - シフトレバーがD、Rレンジ以外するとき
 - 車速が約 15 ~ 40km/h のとき
(DAC の使いかた→ 202 ページ)

⚠ 注意

- エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないときは、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

スリップインジケータ



(点滅)

(スリップインジケータ→ 199 ページ)

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステム

ヒルホールドシステムは、急な上り坂で発進するときにかかる車両の後退を軽減し、坂道発進を容易にするシステムです。

ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えるとき、ブレーキをかけた状態を最長約 2 秒間保持します。

作動条件

以下の状態のとき、ヒルホールドシステムは作動します。

- 前進、または後退での上り坂発進時
- ブレーキペダルをしっかりと踏んで停車しているとき
- 駐車ブレーキを解除しているとき

警告

- ヒルホールドシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルホールドシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- VSC & TRC 警告灯が点灯すると、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。特に慎重に発進してください。
- 極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など、路面の状態や乗員の人数、荷物の重さなどによっては車両が後退することがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。
- ヒルホールドシステムは、2 秒以上車両の後退を軽減することができません。

 知識

- ヒルホールドシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
 - ブレーキペダルが振動する
 - ブレーキから音が発生する

スマートアシストⅢ

オプション/グレード別装備

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム

（オートハイビーム→156 ページ）

警告

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 次の状況ではシステムは正しく動作しません。スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。（スマートアシスト OFF スイッチ→249 ページ）
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - サスペンションを改造したとき
 - ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
 - ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき

警告

- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

注意

- 次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時的に機能停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は作動します。
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - お車を炎天下で放置した後など、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
 - エンジン始動直後
 - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
 - ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
 - 重い荷物を積んでいるとき
 - 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 機能によって認識性能の低下する条件や機能停止条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ 車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- ハンドル、シフトレバーの操作状況
- 車速などの車両の情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

▼ データの取扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

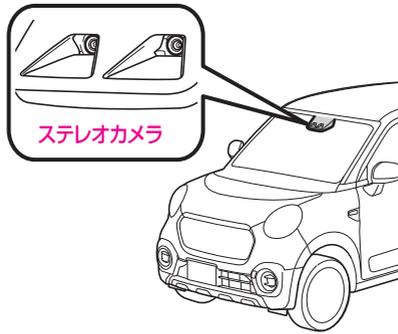
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で使用します。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム



警告

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。
- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、すべての機能が自動的に停止します。

 警告

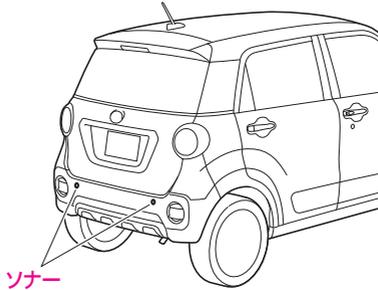
- 次のことをお守りください。お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ステレオカメラ前面のフロントガラスは常にきれいにしてください。
 - フロントガラス外側に汚れ、油膜、水滴、雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - フロントガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
 - フロントガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
 - フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
(ガラスの曇りを取るとき→ 267 ページ)
 - フロントガラスのステレオカメラ前面の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーラバーまたはワイパーブレードを交換してください。ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
(ワイパーの交換→ 322 ページ)
 - フロントガラスにフィルムを貼らないでください。
 - 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。フロントガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
 - トヨタ純正品以外のフロントガラスに交換しないで下さい。
 - ステレオカメラに液体をかけないでください。
 - ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告

- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット、フロントグリル、フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- トヨタ純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

ソナー

ソナーは、誤発進抑制制御機能（後方）で使用します。

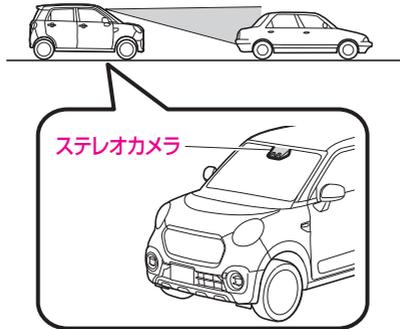


警告

- 汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
- 汚れを検知した場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が自動的に停止します。
- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ソナーを清掃する際は、やわらかい布などを使用して傷付けないようにしてください。
 - ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
 - ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
 - ソナー周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
 - スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
 - ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。
 - ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
 - ソナーの取付位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
 - ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリなどを取り付けしないでください。
 - リヤバンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
 - リヤバンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



衝突警報機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。

- 車速約 4 ～ 100km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4 ～ 100km/h で衝突のおそれがあるとき
 - 状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

衝突回避支援ブレーキ機能

次の場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 4 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

（次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。→ 221 ページ）

（次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。→ 218 ページ）

 警告

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作しても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルペダルを全開に踏みこむと緊急ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキ機能が作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車との速度差が約 30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車との速度差が約 80km/h (対歩行者の場合は速度差が約 50km/h) を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキ機能が作動したときに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

(シートベルト→ 35 ページ)

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件について

次の条件をすべて満たすと衝突警報機能および衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストが作動できる状態になります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止” が消灯
- シフトレバーが 、 レンジ以外
- 次に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

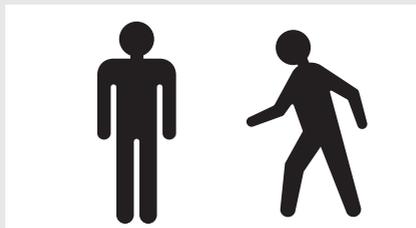
機能	対象	作動車速、速度差*1
衝突警報機能	対車両	約4~100km/h
	対歩行者	約4~50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約4~80km/h
	対歩行者	約4~50km/h
被害軽減ブレーキアシスト*2	対車両	約30~80km/h
	対歩行者	約30~50km/h

*1 自車と前方車、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

*2 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

⚠ 注意

- ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効が悪くなっているとき
- 水溜り走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効が悪くなっているとき

⚠ 注意

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - フロントガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ガラスコーティング剤を使用したとき
 - フロントガラスにフィルムを貼ったとき
 - フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - フロントウォッシャーの使用または使用後で、フロントガラスが十分にふき取れていないとき
 - フロントガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - トヨタ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車、歩行者に接近するとき
 - トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
 - カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - 路面に水たまりや水膜があるとき
 - 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
 - 前方車や歩行者との距離が極端に短いとき
 - 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
 - 急加速やハンドル操作をしながら、前方車、歩行者に接近したとき
 - 前方車の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき

⚠ 注意

- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車や対向車による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車のすぐ後ろに接近したとき
- 前方車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 前方車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の高い子供や高身長歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪溜まりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車に接近して走行するときや、前方の壁や前方車の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻き上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車の方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車の二車線変更など、二つの物が交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

⚠ 注意

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障” が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止” が点灯しているとき（機能停止）

緊急ブレーキについて

- 緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約1.5秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

📖 知識

- 緊急ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 緊急ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能の作動について

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に、①～③の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

① 衝突警報

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性があると判断した場合に、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

② 1次ブレーキ

前方車、歩行者を認識して、衝突の危険性が高いと判断した場合に、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- 前方車、歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

3 2次ブレーキ

前方車、歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断した場合に、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

- 停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続した後、ブレーキ制御を解除します。（停止保持）
- 停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリーブ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- システム作動中は、ブザーとメーター表示で運転者に注意喚起します。
- 緊急ブレーキ作動中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

	① 衝突警報	② 1次ブレーキ	③ 2次ブレーキ	（停止保持）
衝突の危険性	危険性がある	危険性が高い	危険性が非常に高い	—
緊急ブレーキの強さ	ブレーキ制御なし	弱い	強い	停止後、最長約1.5秒後に解除
被害軽減ブレーキアシスト	—	作動*1		—
ブザー	ピピピピピッ	ピピピピピ...		ピピピッ...*2
スマートアシスト作動灯 	点滅			点滅*2
マスターウォーニング 	消灯	点灯		消灯

*1 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合に作動

*2 運転者操作で終了

知識

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

（スマートアシスト OFF スイッチ→249 ページ）

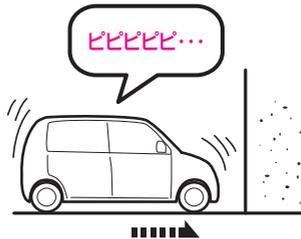
知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

- 前方は、ステレオカメラが約 4m 以内に障害物を認識している場合に作動します。



- 後方は、ソナーが約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間続きます。
- 後方で作動したとき、ブザーはリバース音よりも早い間隔で鳴ります。

（スマートアシストⅢの作動状態について→ 248 ページ）

 警告

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。機能に頼っていると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など障害物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを“OFF”にしてください。
(スマートアシスト OFF スイッチ→ 249 ページ)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRC を“OFF”または VSC&TRC を“OFF”にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- DAC が作動しているときは、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります (DAC 装着車)
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止” が消灯
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- TRC OFF 表示灯、VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトレバーが **Ⓧ**、**Ⓨ**、**Ⓩ*** レンジ
- 後方の場合、シフトレバーが **ⓐ** レンジ

⚠ 注意

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凸凹など）
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後

⚠ 注意

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - フロントガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - 前方車などの水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
 - 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - シャガんでいる人や横たわっている人などのとき
 - 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - 障害物や前方車（トレーラーや対向車など）の自車から一番近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が充分でないこともあります）
 - 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
 - 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
 - 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車および対向車の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき

 注意

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープ、道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

⚠ 注意

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の状態（積載、乗員など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - 動いているもの
 - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
 - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
 - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

⚠ 注意

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧、雪、砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

次のような場合は、システムが作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- “スマアシ故障” が点灯しているとき（システム異常）
- “スマアシ停止” が点灯しているとき（機能停止）

（メーター表示→ 241 ページ）

誤発進抑制制御機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、誤発進抑制制御機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 先行車発進お知らせ機能

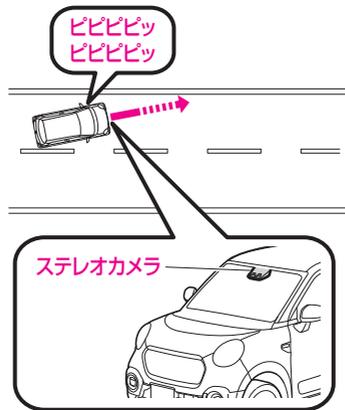
（スマートアシスト OFF スイッチ→ 249 ページ）

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーとメーター表示で運転者に注意を促します。



警告

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。
- 次のような条件では、車線逸脱警報機能を作動させない場合があります。
 - 車線内を走行していないとき
 - カーブ内側にはみ出して走行しているとき
 - 車線幅が狭いとき
 - 方向指示器を使用しているとき
 - 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
 - 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

車線逸脱警報機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止” が消灯
- 車速が約 60km/h 以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線または緩やかなカーブの道路を走行している

⚠ 注意

次の条件では白線（黄線）を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）により白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

 注意

- 道路の状態（特に次のような場合）
 - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - 道路の修復や古い白線（黄線）のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白線（黄線）のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
 - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
 - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - 分岐・合流路などを走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
 - ガードレールの影などがあるとき
 - 区画線が二重に描かれているとき
 - 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

⚠ 注意

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - フロントガラス内側が曇っているとき
 - フロントウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
 - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - 先行車との車間距離が短いとき
 - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
 - ステレオカメラが高温になったとき

車線逸脱警報機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを押すことで、車線逸脱警報機能を“OFF”にすることができます。

（スマートアシスト OFF スイッチ→249 ページ）

📖 知識

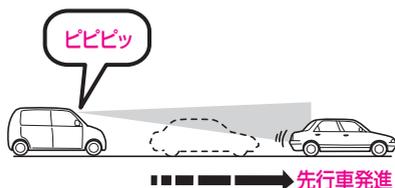
- 車線逸脱警報機能の“ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“OFF”にしても維持されます。

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとメーター表示で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

（スマートアシストⅢの作動状態について→ 248 ページ）



警告

- 先行車発進お知らせ機能は、安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

ブザーについて

- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

先行車発進お知らせ機能の作動条件について

この機能は、自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- “スマアシ故障”、“スマアシ停止” が消灯
- シフトレバーが **□**、**□**、**□*** レンジでブレーキペダルを踏んでいる、または **□** レンジ
- 停止してから数秒経過

知識

- 次のような場合は、先行車が発進していなくても機能がはたらいってしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能がはたらかない場合があります。
 - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
 - 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
 - 天候や道路形状などにより先行車を認識出来ないとき
 - ステレオカメラが先行車を見失ったとき
 - 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
 - 自車が停止した時に先行車が動いている場合
 - 先行車との距離が極端に短いとき
 - 先行車が急発進や急旋回した場合
 - 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
 - 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
 - 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
 - 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
 - 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
 - 車高の低い先行車のとき
 - 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
 - ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
 - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

先行車発進お知らせ機能を“OFF”にするとき

スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けることで、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすることができます。同時に次の機能も“OFF”になります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

（スマートアシスト OFF スイッチ→249 ページ）

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

メーター表示

マスターウォーニング



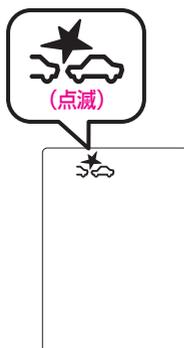
- エンジンスイッチを“ON”にすると、点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
 - 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ、2次ブレーキが作動したとき
 - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）が作動したとき

注意

点灯した場合

- スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が同時に点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢは作動しません。通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートアシスト作動灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の機能が作動したときに点滅します。
 - 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
 - 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 - 先行車発進お知らせ機能

知識

- 緊急ブレーキが作動中または、誤発進抑制制御機能がエンジン出力を抑制しているときは、同時にマスターウォーニングも点灯します。

（マスターウォーニング→ 241 ページ）

スマートアシスト OFF 表示灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシスト OFF スイッチで次の機能を“OFF”にしたとき
 - ・ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
 - ・ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 - ・ 先行車発進お知らせ機能
 - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
(スマートアシスト OFF スイッチ → 249 ページ)

知識

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングと車線逸脱警報 OFF 表示灯も点灯します。
(マスターウォーニング → 241 ページ)

車線逸脱警報作動灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、車線逸脱警報機能が作動したときに点滅します。

車線逸脱警報 OFF 表示灯



- エンジンスイッチが“ON”で、次の場合に点灯します。
 - スマートアシスト OFF スイッチで車線逸脱警報機能を“OFF”にしたとき
 - オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるとき
(スマートアシスト OFF スイッチ → 249 ページ)

知識

- 車線逸脱警報機能は、エンジンスイッチを“OFF”にしても“ON”または“OFF”の状態を維持します。
“ON”の状態を維持しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
(スマートアシスト OFF スイッチ → 249 ページ)
- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、同時にマスターウォーニングとスマートアシスト OFF 表示灯も点灯します。
(マスターウォーニング → 241 ページ)

オートハイビーム作動灯 (緑色)



- エンジンスイッチが“ON”でオートハイビームが作動したときに緑色に点灯します。

知識

オートハイビームに異常があるときは

- オートハイビーム警告灯 (黄色) が点灯します。
(オートハイビーム警告灯 (黄色) → 246 ページ)

スマートアシスト“故障”表示



- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

- 点灯したときは、オートハイビームを除くスマートアシストⅢの機能は作動しません。通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- オートハイビームを除くスマートアシストⅢのシステムに異常があるときは、マスターウォーニングと次の表示灯が同時に点灯します。
 - スマートアシスト OFF 表示灯
 - 車線逸脱警報機能 OFF 表示灯

(マスターウォーニング→ 241 ページ)

オートハイビーム警告灯 (黄色)



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、オートハイビームに異常があると黄色に点灯します。

⚠ 注意

- 点灯したときは、オートハイビームは作動しません。手動に切り替えることで通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

オートハイビームが作動したときは

- オートハイビーム作動灯（緑色）が点灯します。
(オートハイビーム作動灯 (緑色) → 244 ページ)

スマートアシスト“停止”表示



- エンジンスイッチが“ON”で、スマートアシストⅢの機能が一時的に停止したときに“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯します。

📖 知識

- “スマアシ停止”が点灯したときは、スマートアシストⅢは作動しません。
機能停止コードごとに適切な処置を行ってください。
(機能停止コード → 247 ページ)
- “スマアシ停止”が点灯しても、オートハイビームは作動することがあります。

機能停止コード

機能停止コード	原因	処置
11E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない	原因状態が解消されると、復帰します。
12E	ステレオカメラの作動条件を満たさなくなった(ステレオカメラ内が高温になったなど)	原因状態が解消されると、復帰します。
	エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した	安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にした後、再度エンジンスイッチを“ON”にしてください。
14E	スマートアシスト初期学習中	しばらく走行すると、復帰します。
15E	ソナー部(車両後側)に雪氷や泥が付着している	ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると、復帰します。
16E	フロントワイパーを“高速”で作動している	原因状態が解消されると、復帰します。

⚠ 注意

- 処置をしても、機能停止コードが点灯したままのときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障ありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

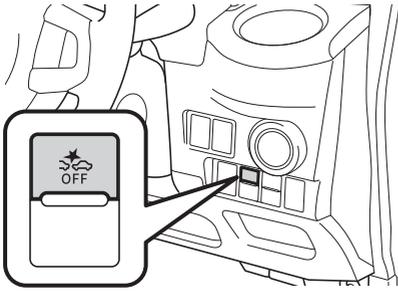
- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」は **R** レンジ以外、「15E」「16E」は **R** レンジのときに点灯します。

スマートアシストⅢの作動状態について

スマートアシストⅢの状態に応じて、メーター表示とともにブザーが鳴ります。

	インジケーター	液晶部	ブザー	
スマートアシストOFFスイッチで、次の機能を停止したとき ・衝突警報機能(対車両・対歩行者) ・衝突回避支援ブレーキ機能(対車両・対歩行者) ・誤発進抑制制御機能(前方・後方) ・先行車発進お知らせ機能	 が点灯	—	ピピッ	
スマートアシストOFFスイッチで、車線逸脱警報機能を停止したとき	 が点灯	—	ピピッ	
オートハイビームを除くシステム異常時	   が点灯	次のシステムに異常がある場合、“スマアシ故障”が点灯 ・ステレオカメラ ・ソナー	—	
オートハイビーム異常時	 が点灯(黄色)	—	—	
機能一時停止時	—	“スマアシ停止”と機能停止コードが点灯	—	
衝突警報機能	—	 が点滅	ピピピピピッ	
衝突回避支援機能 ブレーキ機能	1次ブレーキ		 が点灯	ピピピピピ...
	2次ブレーキ			ピピピピピ...
	停止保持			ピピピッ...
誤発進抑制制御機能(前方)	警報		—	ピピピピピッ
	制御		 が点灯	ピピピピピ...
誤発進抑制制御機能(後方)	警報		—	ピピピピピッ
	制御		 が点灯	ピピピピピ...
先行車発進お知らせ機能	—		—	ピピピッ
車線逸脱警報機能	 が点滅		—	ピピピピッ ピピピピッ
オートハイビーム	 が点灯(緑色)	—	—	

スマートアシスト OFF スイッチ



エンジンスイッチが“ON”のとき、スマートアシスト OFF スイッチを操作することで、スマートアシストⅢの次の機能を停止することができます。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 車線逸脱警報機能

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、誤発進抑制制御機能、先行車発進お知らせ機能を“OFF”にすると

- スマートアシスト OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、“OFF”になります。
 - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを約 2 秒以上押し続けます。
 - メーター内のスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを“OFF”にしても、エンジンスイッチを“ON”にするたびに、システムは“ON”に戻ります。

車線逸脱警報機能を“OFF”にすると

- スマートアシスト OFF スイッチを押すと、“OFF”になります。
 - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
- “ON（作動可能状態）”に戻すときは、再度スイッチを押します。
 - メーター内の車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、ブザーが鳴ります。

知識

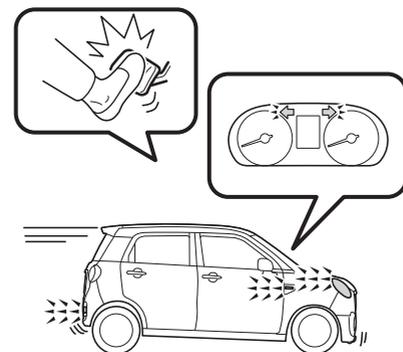
- “ON”または“OFF”の状態は、エンジンスイッチを“OFF”にしても維持されます。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを、非常点滅灯が自動で高速点滅し、後続車に注意をうながすことで、追突される可能性を低減させるシステムです。

- 約 60km/h 以上で走行しているときに、急ブレーキをかけると作動します。



作動条件について

エマージェンシーストップシグナルは、自車が下記の条件を全て満たしたときに作動します。

- 非常点滅灯スイッチが“OFF”
- 約 60km/h 以上で走行中
- ブレーキペダルを踏み、急減速した、または ABS が作動した

作動停止について

エマージェンシーストップシグナルは、下記のいずれかのときに作動が停止します。

- 非常点滅灯スイッチを“ON”にした
- ブレーキペダルから足を離れた
- 急減速でなくなった
- ABS が作動停止した

警告

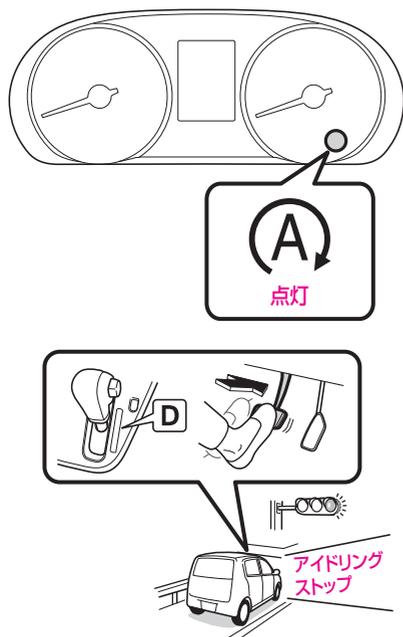
- エマージェンシーストップシグナルは、追突される可能性を低減させるシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
- 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。
- ABS 警告灯、または VSC & TRC 警告灯が点灯しているときは、エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

アイドリングストップシステム

eco IDLE (エコアイドル)

eco IDLE は、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで減速した際、停車前* (約 9km/h 以下) もしくは停車後に、燃費向上や排気ガス低減、アイドリング騒音低減のため、自動でエンジンを停止 (アイドリングストップ)、再始動させるシステムです。

アイドリングストップ、エンジン再始動のしかた



- 1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

<スタンバイ状態>

(スタンバイ条件→254 ページ)

- 2 ④レンジのままブレーキペダルを踏み減速すると、停車前* (約 9km/h 以下) もしくは停車後に、アイドリングストップします。

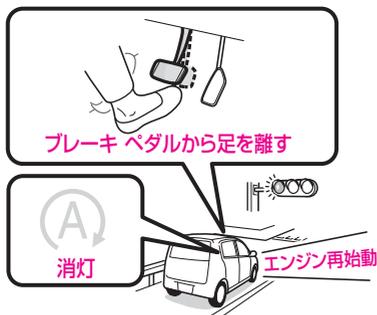
<アイドリングストップ状態>

- eco IDLE 表示灯はアイドリングストップ中も点灯し続けます。

(停車前のアイドリングストップ条件
→255 ページ)

(停車後のアイドリングストップ条件
→256 ページ)

車を運転するにあたって アイドリングストップシステム



3 ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

<エンジン再始動>

●eco IDLE 表示灯は消灯します。

(エンジン再始動条件→256 ページ)

4 しばらく走行して、再びアイドリングストップする条件を満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE (エコアイドル) の注意事項

警告

- アイドリングストップ中は車外へ出ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたりすると、ブレーキペダルを踏んでいても、エンジンが再始動しますので、あわてずにブレーキペダルを踏み続けてください。
- 警告ブザーは約5秒間鳴ります。ただし運転席シートベルトと運転席ドアを元に戻すと警告ブザーが止まります。

(警告ブザー→258 ページ)



- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。
- 長時間停車するときや車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを操作してエンジンを停止させてください。

⚠ 注意**eco IDLE を正常に作動させるために**

- 下記の場合、eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 運転席シートベルトを着用していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅するとき
 - 運転席シートベルトを外していても、シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しないとき
 - 運転席ドアを閉めても半ドア警告灯が点灯する、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯するとき
 - 運転席ドアを開けても半ドア警告灯が点灯しない、または室内照明のスイッチが“DOOR”のときに室内照明が点灯しないとき

📖 知識**アイドリングストップ中の操作について**

- アイドリングストップ中に、シフトレバーを **D** から **N** レンジ (または **S** レンジ) に操作してもアイドリングストップは継続します。
ただし、シフトレバーを **N** レンジに操作したあと他のレンジに操作すると、エンジンが再始動します。
- 右左折や合流時など、アイドリングストップ中に事前に発進準備をしたいときは、下記の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - ハンドル操作をする
 - eco IDLE OFF スイッチを押す

(eco IDLE OFF スイッチ→ 261 ページ)

アイドリングストップ中のエアコンの作動について

- アイドリングストップ中はエアコンの冷房、除湿機能が停止し、送風のみになります。通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - eco IDLE OFF スイッチを押す

システムの作動条件について

スタンバイ条件

下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯し、アイドリングストップが可能な状態になります。

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき
(eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します)
- エンジンが十分に暖まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に暖まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、アイドリングストップしません)
- シフトレバーが R レンジのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 外気温が約 0°C 以上のとき
(走行状態によって、実際の外気温とメーター表示の外気温は、異なる場合があります)
- フロントデフロスタースイッチが“OFF”のとき
- 車内温度が快適なとき (冷房時)
- システム (eco IDLE、エンジン電子制御、オートマチックトランスミッション、ABS、VSC、エアコン、電動パワーステアリング、車両通信) が正常なとき

知識

- 下記の場合、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
 - 車両を長期間使用しなかったときなど、バッテリーが放電しているとき
 - バッテリー交換などで、バッテリーの ⊖ 端子を外したあと
 - 冷房初期

停車前のアイドリングストップ条件

ジョイC、ジョイF

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車前にアイドリングストップします。

- 車速が約 9km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ライトスイッチが“OFF” のとき
- フロントワイパー・ウォッシャースイッチが“OFF” のとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- DAC システムが“OFF” (DAC 表示灯が消灯) のとき (DAC 装着車)
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき (スマートアシストⅢ装着車)

知識

- 下記の場合、停車前アイドリングストップしない場合があります。
 - ブレーキブースター (ブレーキ倍力装置) の負圧が低下しているとき
 - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - 勾配のある坂道を走行しているとき
 - ゆるやかに減速しているとき

停車後のアイドリングストップ条件

スタンバイ条件と下記の条件をすべて満たすと、eco IDLE 表示灯が点灯したまま、停車後にアイドリングストップします。

- 車両が停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき（スマートアシストⅢ装着車）

知識

- 下記の場合、アイドリングストップしない場合があります。
 - ブレーキブースター（ブレーキ倍力装置）の負圧が低下しているとき
 - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - 急勾配の坂道で停車したとき

エンジン再始動条件

アイドリングストップ中に、下記のいずれかの操作を行うとエンジンが再始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
- アクセルペダルを踏む
- ハンドル操作をする
- シフトレバーを ・ レンジに操作する
- シフトレバーを  レンジに操作したあと、他のレンジに操作する
- eco IDLE OFF スイッチを押して、システム作動を停止する
- フロントデフロスタースイッチを“ON”にする
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

知識

エンジンの再始動について

- 下記の場合でも、アイドリングストップ中にエンジンが再始動し、クリープ現象*が発生しますので、ブレーキペダルはしっかりと踏み続けてください。
 - アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなった場合 (eco IDLE 表示灯は点滅後消灯)
 - ・ブレーキブースター (ブレーキ倍力装置) の負圧が低下したとき
 - ・坂道などで停止状態から車両が動き出したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき
 - ・警告灯 (エンジン、オートマチックトランスミッション、ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング) が点灯するなど、各システムに異常が発生したとき
 - ・エアコンの制御システムに異常が発生したとき
 - ・冷房時はエアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
 - ・アイドリングストップしてから約 3 分経過したとき
 - アイドリングストップ中に、eco IDLE システムに異常が発生した場合、またはエンジン部品 (スターター) やバッテリーが交換時期になった場合 (eco IDLE OFF 表示灯が点滅)

アイドリングストップ時間が短くなる場合

- 下記の場合、アイドリングストップ時間が短くなる場合があります。
 - 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にアイドリングストップしたとき
 - 電装品などの消費電力が大きいとき

エンジンが再始動しない場合

- 下記の場合、警告ブザーが鳴って eco IDLE 表示灯が点滅し、安全確保のためブレーキペダルから足を離しても、エンジンは再始動しません。
 - アイドリングストップ中にボンネットを開けたとき

(警告ブザー→ 258 ページ)

エンジン再始動時の電装品の動作について

- オーディオの音量が大きいなど、アイドリングストップ中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時に下記の電源が一時的に“OFF”になることがあります。
 - オーディオ
 - ナビゲーションシステム
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。

* エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと車両が動き出す現象。

警告ブザー

アイドリングストップ中に、運転席シートベルトを外したり、運転席ドアやボンネットを開けたりすると、警告ブザー（断続音）が約 5 秒間鳴り、eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

運転席シートベルトを外したとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席シートベルトを確実に着用してください。
（警告ブザーが止まります）

運転席ドアを開けたとき

エンジンが再始動します。

▼ 対処方法

- 運転席ドアが開いていないかを確認し、確実に閉めてください。
（警告ブザーが止まります）

ボンネットを開けたとき

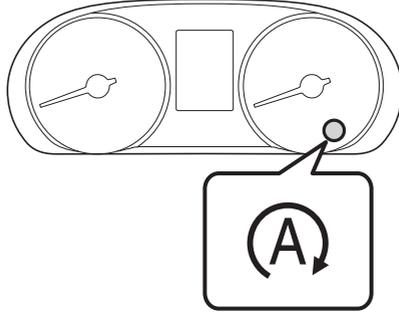
安全確保のため、通常のエンジン停止状態になります。
（エンジン警告灯・充電警告灯・油圧警告灯も同時に点灯します）

▼ 対処方法

- ボンネットが開いていないか確認し、確実に閉めてください。
- シフトレバーを  レンジに操作してから、ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチを操作して、エンジンを始動してください。

eco IDLE 表示灯

eco IDLE に関する操作状況、車両の状態をお知らせします。



点灯

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
(数秒後消灯)
- アイドリングストップが可能な条件を満たしたとき
<スタンバイ条件成立>
- アイドリングストップ中

低速点滅後、消灯

アイドリングストップ中に、アイドリングストップが可能な条件を満たさなくなり、エンジンが再始動したとき

消灯

- アイドリングストップからエンジンが再始動したとき
- アイドリングストップが可能な条件を満たしていないとき
<スタンバイ条件不成立>

高速点滅

アイドリングストップ中に下記の状態になると、高速点滅すると同時に警告ブザーが鳴ります。

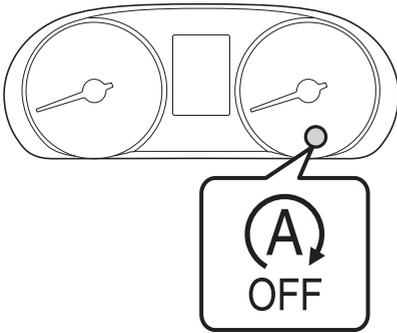
- 運転席シートベルトを外したとき
- 運転席ドアを開けたとき
- ボンネットを開けたとき

(警告ブザー→258 ページ)

知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

eco IDLE OFF 表示灯



点灯

- eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE 作動を停止すると点灯します。
(eco IDLE OFF スイッチ → 261 ページ)

点滅

- 下記の状態になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。
 - eco IDLE システムに異常があるとき
 - エンジン部品（スターター）が交換時期のとき

点滅後、消灯

- バッテリーが交換時期になると、エンジンスイッチを“ON”にすると点滅し、数秒後に消灯します。

⚠ 注意

点滅した場合

- トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

- 表示灯が点灯・点滅しているときに車幅灯を点灯すると、表示灯が減光します。

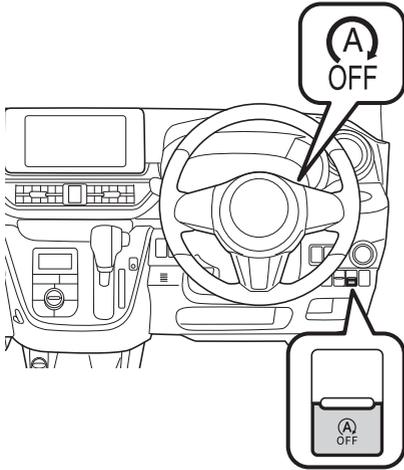
アイドリングストップ時間表示

アイドリングストップ時間を、メーター内に表示できます。

(マルチインフォメーションディスプレイ → 145 ページ)

eco IDLE OFF スイッチ

eco IDLE の作動を停止したいときにスイッチを押します。



▼ 操作方法

- スイッチを押すと、eco IDLE の作動停止状態になります。
 - メーター内の eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。
- もう一度スイッチを押すと、eco IDLE 作動停止状態が解除されます。
 - eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。
(eco IDLE 表示灯→259 ページ)
(eco IDLE OFF 表示灯→260 ページ)

📖 知識

- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、eco IDLE 作動停止状態になります。(eco IDLE OFF 表示灯が点灯します)
- eco IDLE はエンジンスイッチ操作によるエンジン始動をするたびに、作動可能状態に戻ります。

ヒルスタートシステム

アイドリングストップからブレーキペダルをゆるめてエンジンが再始動する際、最長約 2 秒間ブレーキ力を保持するシステムです。

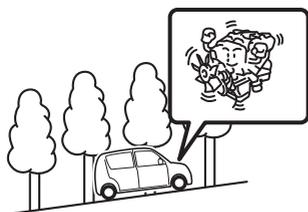
- 坂道発進時の後退を軽減します。

▼ 作動の流れ

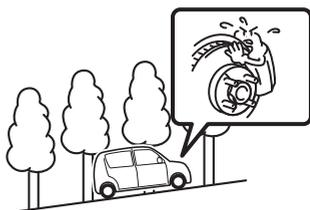
- 1 ブレーキペダルを踏む力をゆるめる
- 2 ブレーキ力保持



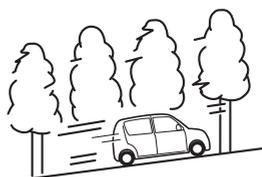
- 3 エンジン再始動



- 2 ブレーキ力保持



- 4 発進



⚠ 警告

- ヒルスタートシステムは、坂道で停車させるシステムではありません。システムが正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車両が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進時に車両が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー、ブレーキペダル、アクセルペダル、駐車ブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

警告

- ゆるやかな上り坂で停車前アイドリングストップしたあと、車両が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車両が後退することがあります。
車両が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても、車両が後退することがあります。駐車ブレーキをかけたりするなどして発進してください。

知識

- ヒルスタートシステムの作動により、下記の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ブレーキペダルの踏みごたえが変わる
 - ブレーキペダルが振動する
 - ブレーキから音が発生する
- ヒルスタートシステムは、坂道だけではなく、平坦な道路でも作動します。

eco IDLE 専用バッテリー

eco IDLE 装着車は、高性能な専用バッテリーを搭載しています。

バッテリーを交換するときは、この車用の eco IDLE 専用バッテリーと交換してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE が正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

知識

- バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

エコ発電制御

■ エコ発電制御

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

装備品の使いかた

空調

オートエアコン	266
リヤウインド	
デフォッガースイッチ	276
ウインドシールド	
ディアイサースイッチ	277

オーディオ

ルーフアンテナ	278
オーディオ操作	
ステアリングスイッチ	279
バックカメラ	280

室内装備品

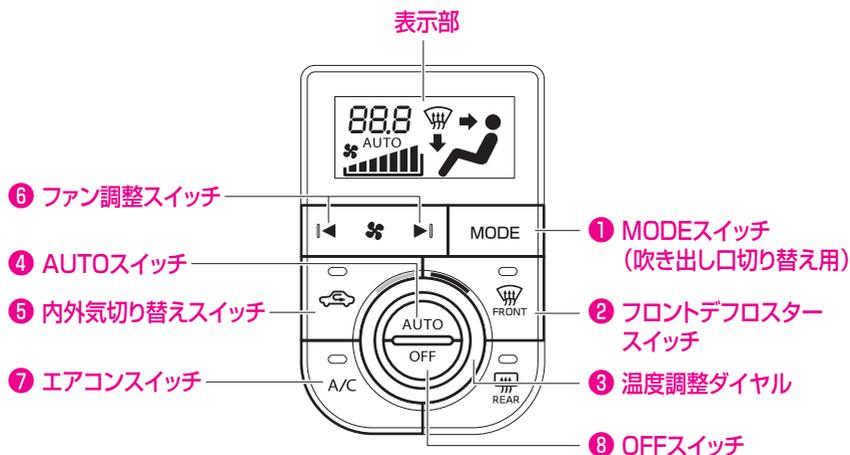
室内照明	284
アクセサリーソケット	287
アームレスト	288
シートヒーター	
(運転席 / 助手席)	289
サンバイザー	290
格納式アシストグリップ	291
コートフック	292
収納装備	293
ドリンクホルダー	299
買い物フック	302

空調

オートエアコン

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



オートエアコンの使いかた

通常の使いかた

▼ 操作方法

- 1 エンジンを始動し、AUTO スイッチ (④) を押す
 - スイッチを“ON”にすると、吹き出し口・風量・および内外気切り替えが自動的に調整されます。
- 2 温度調整ダイヤル (③) で温度を調整する
- 3 停止するときは、OFF スイッチ (⑧) を押す

▼ 冷房・除湿をするときは

- エアコンスイッチ (⑦) を押す

📖 知識

- 設定温度は 25°Cを目安に、お好みで調整してください。
乗車直後の室内温度が高い（または低い）ときに、設定温度を 25°Cより極端に低く（または高く）調整しても、希望の室内温度になるまでの時間はほとんど変わりません。

■ ガラスの曇りを取るとき

寒冷時や、雨のときなどガラスが曇ったときに使用します。

▼ 操作方法

- 1 フロントデフロスタースイッチ (2) を押すと、吹き出し口が切り替わる
 - 自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。
- 2 スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻る

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

- ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。
- ファン調整スイッチ (6) を操作して、風量を増す
- 温度調整ダイヤル (3) を操作して、設定温度を上げる

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整ダイヤル (3) を最低温に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

📖 知識

- 外気温が 0°C 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- フロントデフロスタースイッチ (2) が “ON” のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にフロントデフロスタースイッチ (2) を “ON” にすると、エンジンが再始動します。

外気が汚れているときは

- 一時的に “内気循環” にしてください。

■ 換気するとき

導入された外気が中央および左右の吹き出し口から吹き出します。

▼ 操作方法

- 1 内外気切り替えスイッチ (5) を外気導入 (作動表示灯が消灯) にする
- 2 MODE スイッチ (1) を押して、“” に切り替える

eco IDLE によるアイドリングストップ中のエアコン作動について

警告

- eco IDLE によるアイドリングストップ中は、エアコンが作動しないため室内の湿度が上がってガラスが曇ることがあります。エンジンを再始動し、エアコンを作動させてください。
(ガラスの曇りを取るとき→ 267 ページ)

知識

- エアコンの操作や室内温度により、アイドリングストップをしない場合や、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。

アイドリングストップ中にエアコンを作動させるには

- エアコンを通常作動に戻すには、下記の操作でエンジンを再始動させてください。
 - ブレーキペダルをすばやく増し踏みする
 - eco IDLE OFF スイッチを押す

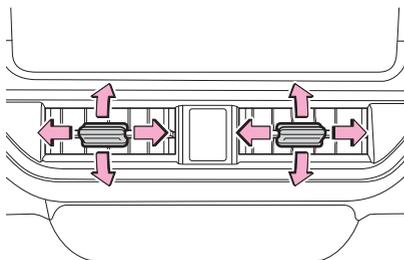
(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)

風向き調整

吹き出し口

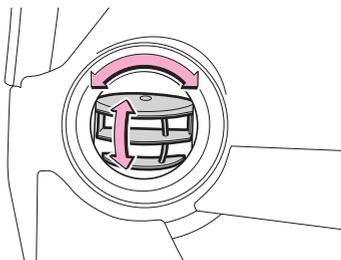
▼ 中央吹き出し口

- ツマミを動かして調整します。



▼ 左右吹き出し口

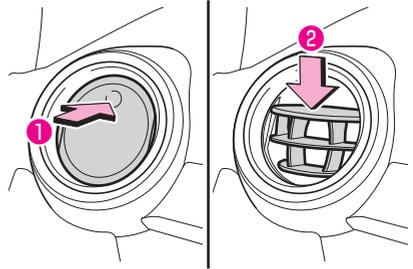
- カバーを動かして調整します。



吹き出し口の開閉

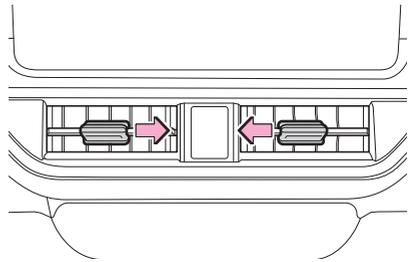
▼ 左右吹き出し口

- ① くぼみを押して開ける
- ② カバーを下げて閉じる



▼ 中央吹き出し口

- ツマミを矢印の方向いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉めることができます。



📖 知識

- 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見ることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 各ダイヤル／スイッチの使いかた

① MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ

MODE

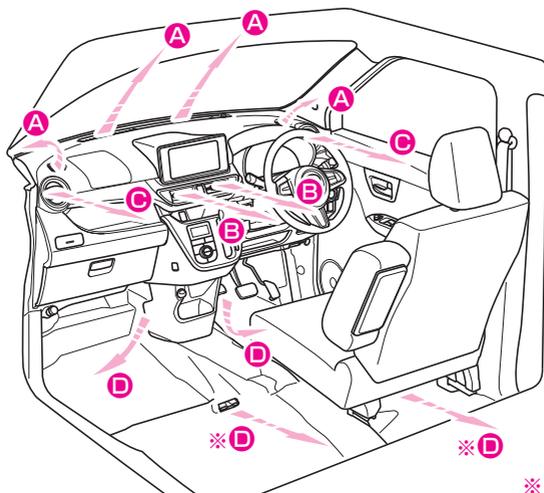
スイッチを押すごとに、吹き出し口が「 → → → 」の順に切り替わります。

- 選択された吹き出し口が表示部に表示されます。
- 風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	B C	B C D	D (A) (C)	A D (C)

()は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



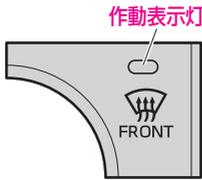
※はタイプ別装備

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を に切り替えしないでください。
- 外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

2 フロントデフロスタースイッチ



- スイッチを押すと、吹き出し口が切り替わり、自動的にエアコンが作動して外気導入に切り替わります。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、曇り止めが停止し、元の状態に戻ります。
 - 作動表示灯が消灯します。

警告

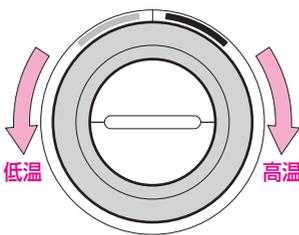
ガラスの曇りを防止するために

- 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、スイッチを“ON”にしないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

- スイッチが“ON”のときは、eco IDLE によるアイドリングストップをしません。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中にスイッチを“ON”にすると、エンジンが再始動します。
(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)

3 温度調整ダイヤル



ダイヤルを左右に回して、設定温度を調整します。

- 設定温度が表示部に表示されます。

知識

- 設定温度を 18℃～ 32℃の間で調整することができます。最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”の表示になります。

4 AUTO スイッチ



スイッチを押すと、吹き出し口、風量、および内外気の切り替えが自動的に調整されます。

- 表示部に“AUTO”が表示されます。

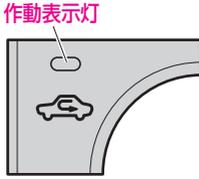
知識

AUTO スイッチが“ON” のときは

- 吹き出し口、または風量を手動で調整すると、表示部の“AUTO”が表示されなくなりますが、調整した機能以外は自動調整のままとなります。すべての機能を自動調整に戻すときは、再度 AUTO スイッチを押してください。
- 吹き出し口が または で、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、中央、左右、足元吹き出し口から風は出ません。
- 吹き出し口が または で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。
- AUTO スイッチが“ON” のときで、eco IDLE によるアイドリングストップ中は、風量が少なくなるように調整されることがあります。
エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)

5 内外気切り替えスイッチ



スイッチを押して内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（作動表示灯が点灯）

- 外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（作動表示灯が消灯）

- 外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

知識

- “内気循環” を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなります。
- トンネルや渋滞時などは、“内気循環” にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に“内気循環” または“外気導入” へ切り替わることがあります。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

6 ファン調整スイッチ



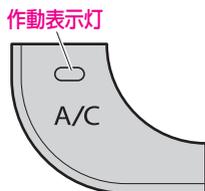
吹き出し口からの風量を調整します。

- 風量が表示部に表示されます。
- ▼ 風量を強くするには
 - スイッチの“▶”側を押します。
- ▼ 風量を弱くするには
 - スイッチの“◀”側を押します。
- ▼ ファンを停止するときは
 - OFF スイッチ (8) を押します。

知識

- 吹き出し口が  または  で、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動する場合があります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるため、エアコン始動直後は、しばらく風が出ない場合があります。

7 エアコンスイッチ



- ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
 - 作動表示灯が点灯します。
- もう一度押すとエアコンが停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

警告

- 停車時（eco IDLE によるアイドリングストップ中は除く）の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

知識

- 外気温が 0℃ 近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

8 OFF スイッチ



スイッチを押すと、空調機能が停止します。

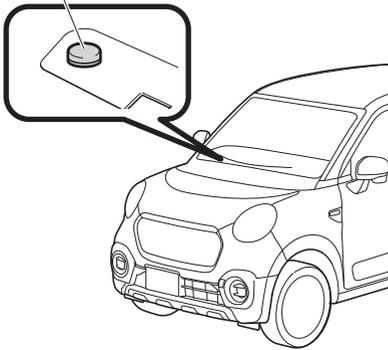
温度調節センサー

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

日射センサー

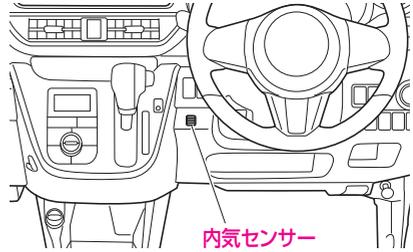
日射量を検知します。

日射センサー
(オートライトセンサー兼用)



内気センサー

室内温度を検知します。

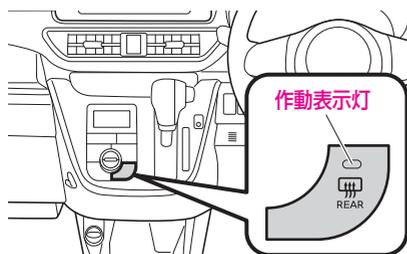


知識

- 日射センサーの上に物を置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

リヤウインドデフォグスイッチ

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。



- スイッチを押すと、リヤウインドガラスが暖められ、曇りを取ることができます。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。
- ヒーテッドドアミラー装備車では、リヤウインドガラスと同時にドアミラーも暖められ、ミラーについた曇りを取ることができます。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

リヤウインドガラス内面を清掃するときは

- リヤウインドガラス内面の電熱線を傷付けないでください。

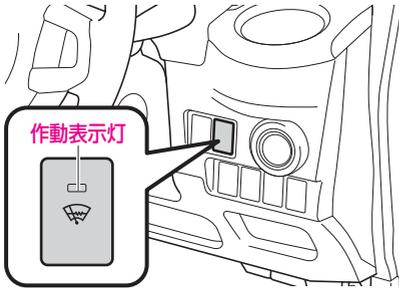
📖 知識

- スイッチを押すと、約 15 ～ 60 分後に自動的に作動が停止します。
(外気温や車両の走行状態によって作動時間が異なります)

ウインドシールドディアイサースイッチ

オプション/グレード別装備

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。



- スイッチを押すと、フロントウインドガラス下部が暖められ、フロントウインドガラスとフロントワイパーの凍結を防ぎます。
 - 作動表示灯が点灯します。
- スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

📖 知識

- スイッチを押すと約 15 分間作動します。

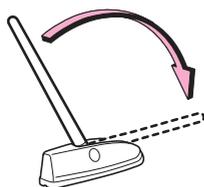
オーディオ

ルーフアンテナ



▼ 使用方法

ラジオを受信するときは、アンテナを図のように立てた状態にしてください。



▼ 倒しかた

前方向に倒すことができます。



▼ 取り外しかた、取り付けかた

アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回します。

- 取り付け時はしっかりと締め付けてください。

⚠ 注意

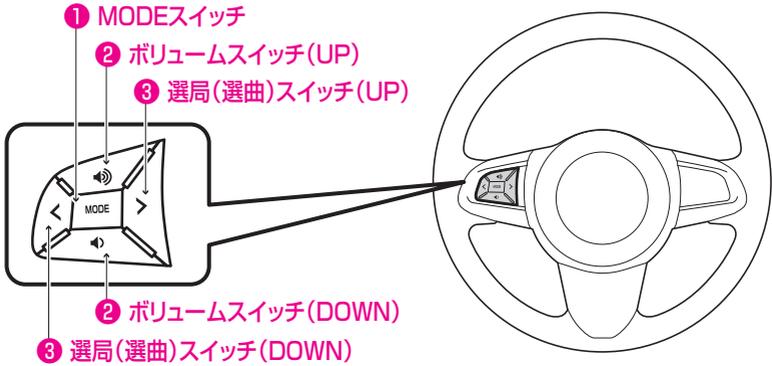
- アンテナは後ろ方向、および横方向への調整はできません。
- アンテナを取り扱うときは、無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。
- ルーフに載せた荷物がアンテナに当たるときは、アンテナを倒してください。（ラジオの受信状態は悪くなります）
- 下記のようなときは、アンテナを取り外してください。破損したり、変形したりする場合があります。
 - 自動洗車機使用時
 - ボデーカバーをかけるとき
 - 降雪時に長時間駐車するとき
- 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるときは、アンテナを倒してください。
- 洗車時などアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。

オーディオ操作用ステアリングスイッチ

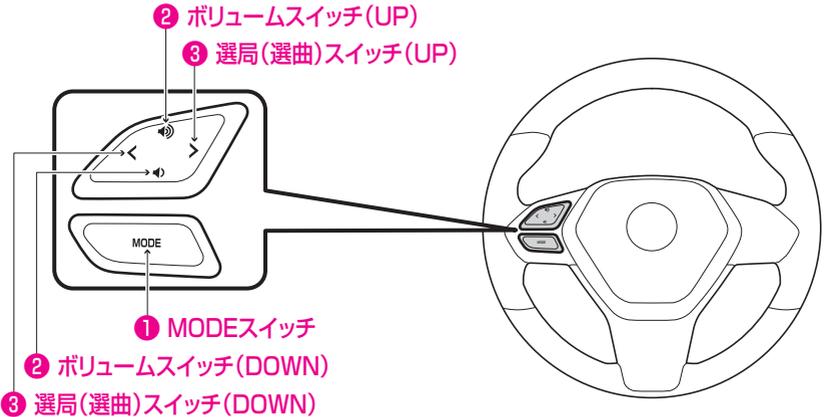
オプション/グレード別装備

エンジンスイッチが“ON”または“ACC”のとき、ハンドルにあるスイッチでオーディオを操作することができます。

タイプI



タイプII



知識

- オーディオ、ナビゲーションシステムにより、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属している各取扱説明書をお読みください。

バックカメラ

オプション/グレード別装備

知識

- ナビゲーションに付属している取扱説明書もあわせてお読みください。

バックカメラは車を後退させるとき、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

▼ 操作を行う前に

警告

- 後退するときは、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- バックカメラのレンズの特性により、映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。
- バックカメラを過信しないでください。一般の車両と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。特に周辺に駐車している車両や障害物などに接触しないように注意してください。
- 映像だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なっていることがあり、映像だけを見て後退すると車両をぶつけたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 次のような状況では使用しないでください。
 - 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき
 - バックドアが完全に閉まっていないとき
 - 坂道など平坦でない道路
- 外気温が低いときは、映像が暗くなったり、薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または見えなくなることがありますので、必ず周囲の安全を直接目視で確認してから運転してください。

⚠ 注意

- バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - バックカメラ周辺にはカメラの視野に影響を及ぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
 - バックカメラ周辺を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃をあたえないでください。バックカメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - バックカメラは取り外したり、分解、改造をしないでください。
 - バックカメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
 - バックカメラ周辺には高圧洗車機で水をかけないでください。
 - バックカメラのカバーは樹脂部品ですので、ワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤を付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - 寒いときに、お湯をかけるなどして急激な温度変化をあたえないでください。
 - バックカメラ周辺をぶつけたときは、バックカメラが故障しているおそれがありますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

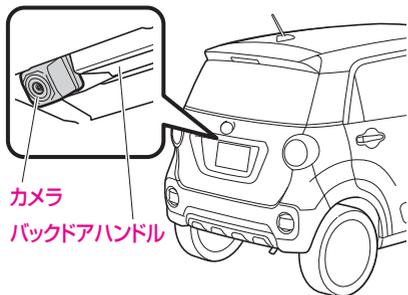
📖 知識

- バックカメラ装着車は、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

バックカメラのレンズが汚れている場合

- バックカメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像を映すことができません。水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは水洗いし、柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

■ バックカメラの位置



バックドアハンドルの横に取り付けられています。

■ バックカメラの使い方

エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーを  レンジにすると、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

- シフトレバーを  レンジ以外にすると、元の画面に戻ります。

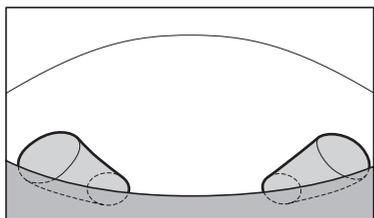
📖 知識

- バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

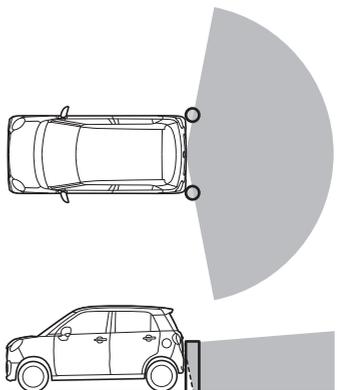
■ 画面に映る範囲

リヤバンパー後端から車両の後方（下図の範囲）が映ります。

■ 映像



■ 映る範囲



知識

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- 次のようなときは、画面が見つらくなることがありますが、異常ではありません。
 - 暗いところ（夜間など）
 - レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

室内装備品

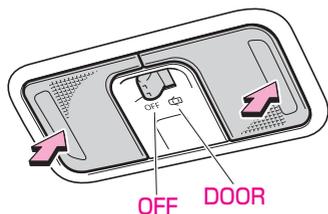
室内照明

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

フロントパーソナルランプ



フロントパーソナルランプのレンズを押すと、スイッチの位置、ドアの開閉に関係なく点灯します。

もう一度押すと消灯します。

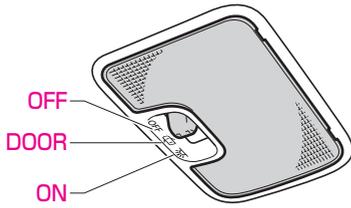
▼ スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。

- レンズを押して点灯しているときは、消灯しません。

▼ スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。

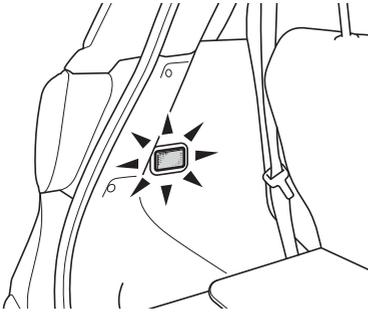
- レンズを押して点灯しているときは、ドア連動機能による消灯はしません。

ルームランプ



- ▼ スイッチが“ON” のとき
ドアの開閉に関係なく点灯します。
- ▼ スイッチが“OFF” のとき
ドアの開閉に関係なく消灯します。
- ▼ スイッチが“DOOR” のとき
ドア連動機能により、点灯・消灯します。

ラゲージルームランプ



ドア連動機能により、点灯・消灯します。

■ ドア連動機能

ドア操作、エンジンスイッチ操作に連動して、室内照明が点灯・消灯する機能です。

- スイッチ付き室内照明は、スイッチが“DOOR”のときに連動します。

▼ エンジンスイッチの切り替え

エンジンスイッチ	室内照明
OFFまたはACC → ON	消灯
ON → ACCまたはOFF	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”のとき、下記の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席 ドアロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯(点灯中は減光後に)
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

📖 知識

- 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーあがり防止機能

バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

▼ ドア連動機能による点灯時

エンジンスイッチが“OFF”または“ACC”で、ドアをあけたまま約10分経過すると、自動的に消灯します。

- 下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
 - すべてのドアを閉めて、再度開ける
 - エンジンスイッチを“ON”にする

▼ 室内照明のスイッチが“ON”のとき

フロントパーソナルランプ

ルームランプ

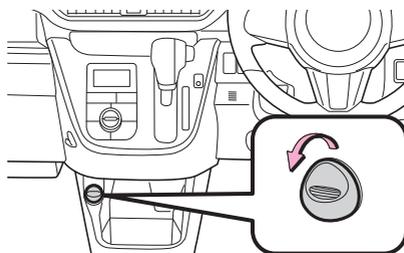
エンジンスイッチが“OFF”で、室内照明のスイッチが“ON”のまま約12分経過すると、自動的に消灯します。

- 下記のいずれかの操作をすると、再度点灯します。
 - キーフリーシステムによる施錠・解錠
 - ドアの開閉
 - エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にする

アクセサリーソケット

電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

- カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。



⚠ 注意

- 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートするおそれがあります。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっている場合でも、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

📖 知識

- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に“OFF”になることがあります。
(eco IDLE (エコアイドル) → 251 ページ)
- 故障を防ぐため、電化製品はトヨタ純正用品をおすすめします。

アームレスト

運転席



▼ 使用方法

前に倒して使用します。

⚠ 警告

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

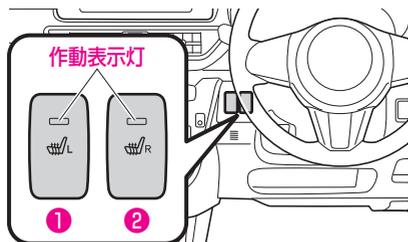
📖 知識

- シートのリクライニング調整やスライド調整を行うと、アームレストも同時に動きます。
- 小物入れとして使用することもできます。

(アームレストボックス→ 296 ページ)

シートヒーター（運転席 / 助手席）

オプション / グレード別装備



エンジンスイッチが“ON”のとき使用できません。

- ① 助手席側
 - ② 運転席側
- スイッチを押すと、シートの背もたれと座面が暖まります。
 - 作動表示灯が点灯します。
 - スイッチをもう一度押すと、作動が停止します。
 - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

- 下記に相当されるかたがご使用になるときは、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
 - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - 皮ふの弱いかた
 - 疲労の激しいかた
 - 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた
- 毛布や座布団など保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常加熱し、低温やけどやシートヒーターの故障につながるおそれがあります。
- シートヒーターを必要以上に使用しないでください。低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常加熱の原因になるおそれがあります。

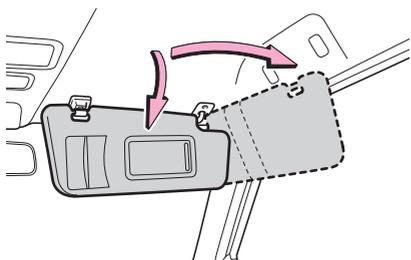
⚠ 注意

- 凸凹のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- 液体をこぼしたときは、速やかに乾いた布で拭き取ってください。
- 使用中に異常が発生したときは、ただちに作動を停止し、トヨタ販売店にご連絡ください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めて長時間使用しないでください。

サンバイザー



直射日光などでまぶしいときに使用します。
側面に移動させて使用することもできます。

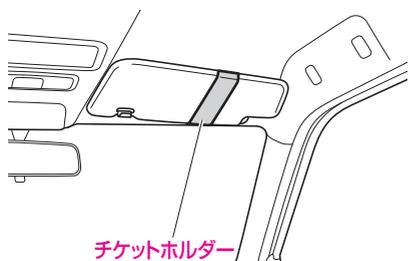
▼ 使用方法

矢印の方向に動かします。

⚠ 警告

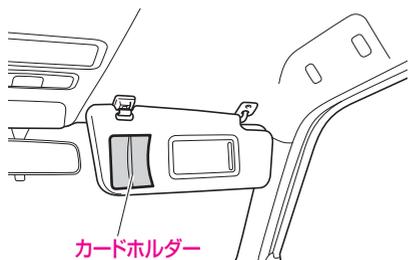
- サンバイザーと天井の間にものをはさまないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケットホルダー



チケット類を収納することができます。

カードホルダー

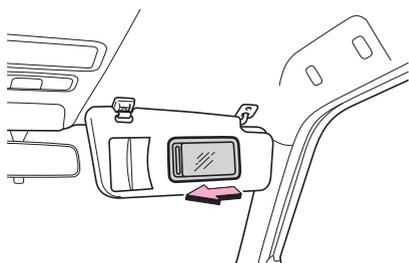


カード類を収納することができます。

⚠ 警告

- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

バニティーミラー



▼ 使用方法

カバーを矢印の方向にスライドさせます。

⚠ 警告

- 走行中は使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

格納式アシストグリップ



引き起こして使用します。

▼ 使用方法

- 矢印の方向に引き起こします。
- 使用後は、自動的に元に戻ります。

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物を格納式アシストグリップにかけないでください。格納式アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

コートフック

後席右のアシストグリップにあります。



⚠ 警告

SRS サイドエアバッグ装着車、SRS カーテンシールドエアバッグ装着車

- コートフックには、ハンガー・重い物・とがった物をかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。
SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが膨らんだときに飛ばされたり、SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をコートフックにかけないでください。コートフックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあり危険です。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにもものはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

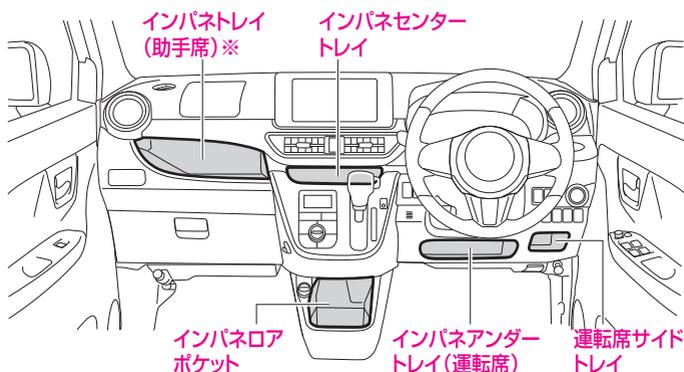
⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。

フタ付き収納装備について

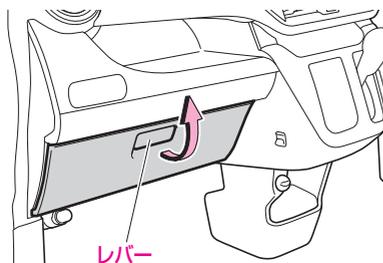
- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

■ インパネトレイ、インパネポケット



※：オプション/グレード別装備

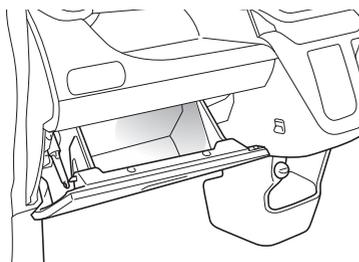
■ グローブボックス



▼ 使用方法

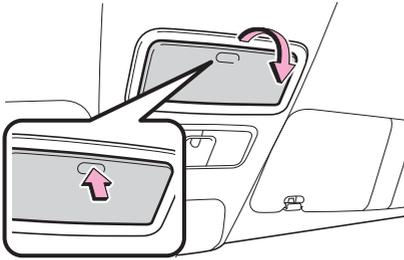
- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

■ グローブボックスランプ



車幅灯が点灯しているときに、グローブボックス内の照明が点灯します。

オーバーヘッドコンソール



▼ 使用方法

- くぼみを押して開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

⚠ 警告

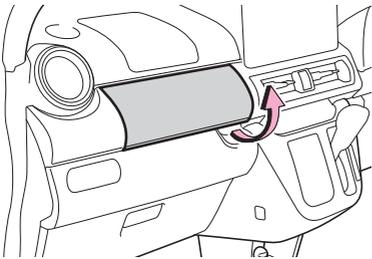
- 固い物や鋭利な物を収納しないでください。
フタを開けたときに、中に入っている物が落下した場合、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 約 300g 以上の物を収納すると破損のおそれがあります。

インパネアッパーボックス (助手席)

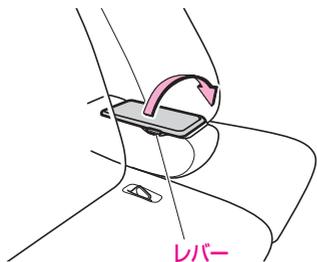
オプション / グレード別装備



▼ 使用方法

- フタを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

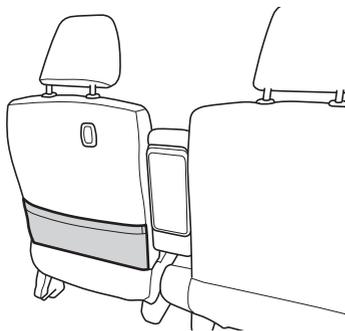
■ アームレストボックス



▼ 使用方法

- アームレストを倒して、レバーを押して開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

■ 助手席シートバックポケット

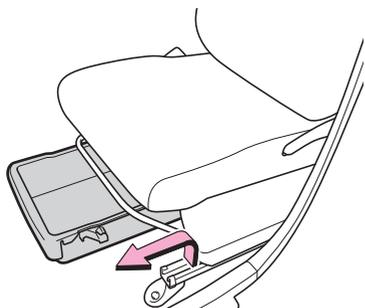


⚠ 注意

助手席シートバックポケットについて

- シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

助手席大型シートアンダートレイ



▼ 使用方法

- トレイを少し上に上げてから引き出して使
用します。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

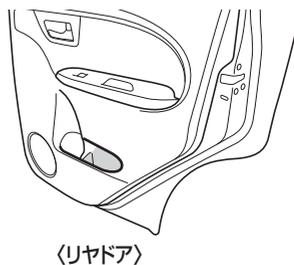
⚠ 警告

- 走行中に引き出し、戻し操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行時はトレイを一番奥まで確実に戻してください。
- 重さが約 2kg 以上ある物を入れると急ブレーキをかけたときなどに飛び出すおそれがあります。

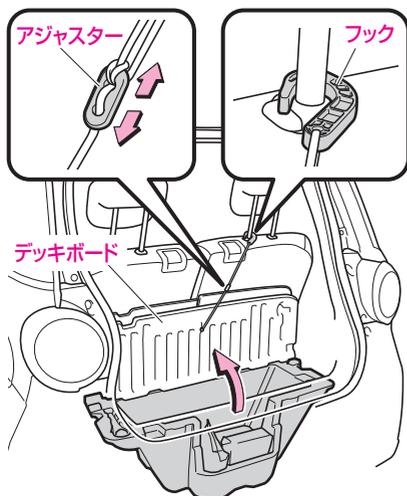
ドアポケット



■ ラゲージアンダーボックス

収納スペースとして利用できます。

- ジャッキ工具などが収納されています。



▼ 使用方法

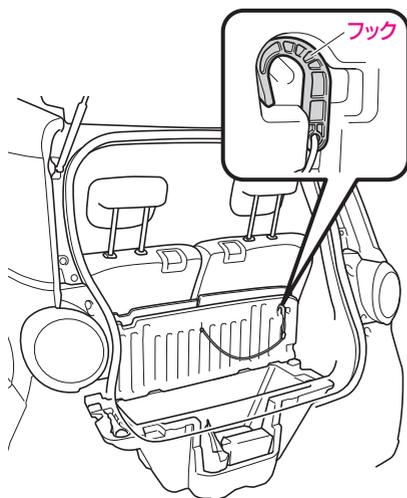
- 1 デッキボードを持ち上げる
- 2 フックをデッキボードからはずし、リヤシートのヘッドレストの支柱にかける

- アジャスターを移動させてひもの長さを調整します。

⚠ 注意

- フックをかけた状態で、リヤシートをスライドさせたり、リクライニング調整をしないでください。デッキボードを破損するおそれがあります。

【ラゲージアンダーボックスのイラストは代表例です。お車の仕様により、形状が異なります】



▼ 元に戻すときは

図のようにフックをデッキボードに収納します。

ドリンクホルダー

⚠ 警告

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

助手席のカップホルダーについて

- 使用しないときは、カップホルダーを必ず格納してください。急ブレーキなどの激しい運転の際に、カップホルダーに体が当たるなど、思わぬけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ペットボトルは、形状によってはしっかり固定されない場合があります。しっかり固定されないままでは走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転のさまたげになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

助手席のカップホルダーについて

- 下記のような異物が入ると、カップホルダーの開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - タバコの灰
 - 芳香剤の液体

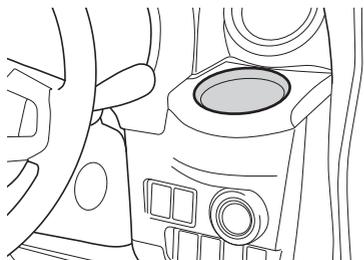
📖 知識

- ペットボトルの大きさや形状によっては収納できないことがあります。

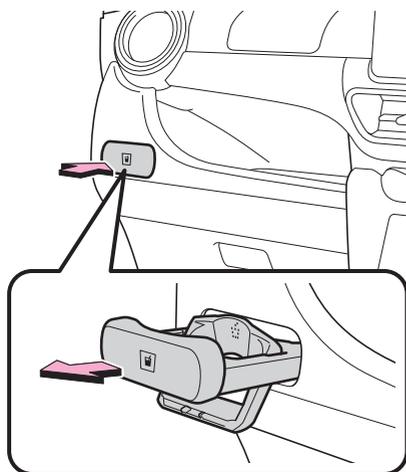
■ カップホルダー

ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

■ 運転席



■ 助手席 (ワンプッシュ式オートオープン)



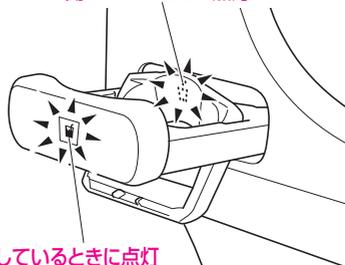
▼ 使用方法

- トレイを押す
- 格納するときは、そのままトレイを押し込む

▼ シンボル照明

オプション/グレード別装備

開いているときに点灯



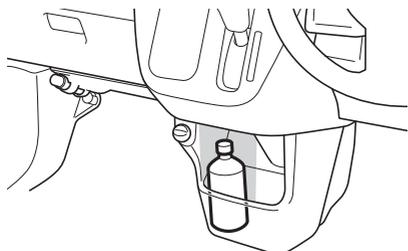
格納しているときに点灯

車幅灯が点灯しているときに、シンボル照明が点灯します。

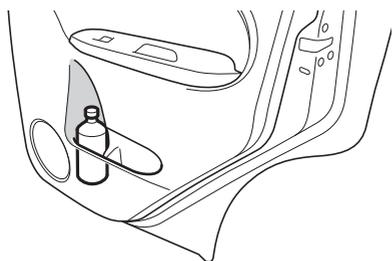
■ ボトルホルダー

ペットボトルなどを置くときに便利です。

■ インパネロアポケット (助手席側)



■ リヤドア

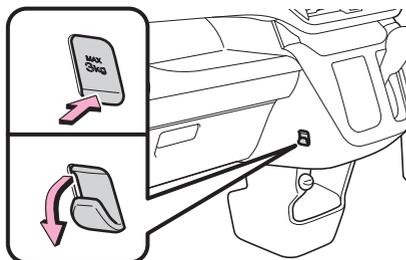


買い物フック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。

インストルメントパネル（助手席側）・助手席シートバックにあります。

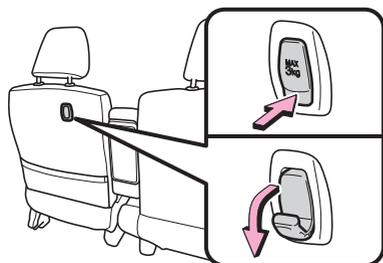
インストルメントパネル（助手席側）



▼ 使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、逆に反転させフックを格納してください。

助手席シートバック



⚠ 注意

- 使用しないときは元に戻しておいてください。

最大荷重量について

- 特に重たい物や、大きな物を買い物フックにかけないでください。フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。
- インストルメントパネル（助手席側）約 3kg
- 助手席シートバック約 3kg

車のお手入れ

日常のお手入れ

ボデー、塗装面の

お手入れ …………… 304

室内のお手入れ …………… 306

簡単な点検・部品の交換

エンジンルーム内の点検 … 308

消耗品の補給、交換 ……… 312

タイヤの点検 …………… 315

ワイパーの交換 …………… 322

エアコンガス、

フィルターの交換 ……… 326

ヒューズの交換 …………… 327

電球（バルブ）交換 ……… 330

キーの電池交換 …………… 343

日常のお手入れ

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデーカバーを付けるように心がけましょう。車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

警告

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効が悪い場合は、ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。周囲の安全に十分注意して効が回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

注意

- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

- 1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う
 - 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。
- 2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ルーフアンテナは取り外し、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元通りに取り付けてください。
- ドアミラーは必ず格納し、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。洗車機によっては、ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分は高圧洗車は避けてください。
 - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。
- フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

バックカメラ装着車

- カメラ、またはカメラ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりカメラが破損したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。
- フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。

📖 知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くったりムラになることがあります。

デザインフィルムトップのお手入れ

オプション / グレード別装備

コーティングを施しているため、ワックスをかける必要はありません。

固形ワックスなどを使用した場合、フィルム表面の凹凸に固形物が残留し、外観を損なうことがあります。デザインフィルムトップ表面の凹凸に固形ワックスなどが入り込んだ場合は、柔らかいブラシ（歯ブラシなど）で取り除いてください。

▼ 洗車の手順

- 1 塗装面と同様に十分に水をかけながら、スポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う
 - 洗剤を使う場合は、研磨剤を含まない中性の洗剤液で水洗いしてください。
 - 自動洗車機、高圧洗車機もお使いいただけます。
- 2 水が乾かないうちに、柔らかい布でふき取る

⚠ 注意

- デザインフィルムトップ貼付け部にルーフキャリアを取り付けしないでください。デザインフィルムトップが破損するおそれがあります。

■ 外装部品・塗装部品のお手入れ

外装部品・塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。

- 付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取った後、多量の水で流してください。

📖 知識

- 傷の補修をする場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ アルミホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミホイールはボデーの洗車と同じ要領で行い、ボデーと同じワックスでワックスがけをしてください。

⚠ 警告

- アルミホイールにワックスがけをする際は、ホイールナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

■ 室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材などの汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。

洗剤後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

警告

- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。

車内に水などをかけないでください

- インstrumentパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

注意

- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。
- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。
- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。
- リヤウインドガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

フロントウインドガラスの内側を清掃するとき（スマートアシストⅢ装着車）

- ステレオカメラにさわらないように注意してください。誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

スーパー UV & IR カットガラス（フロントドア）を清掃するときは

オプション/グレード別装備

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいでください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。
室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

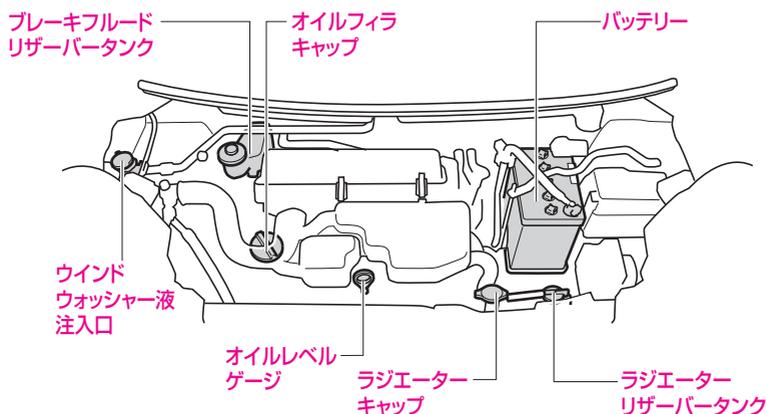
簡単な点検・部品の交換

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

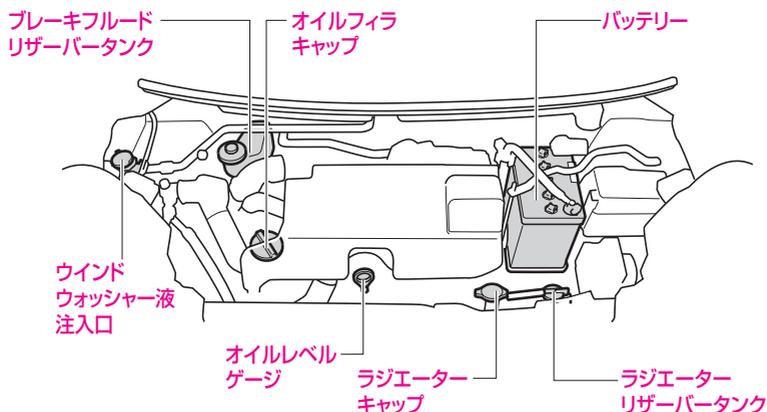
エンジンルーム内の点検

グレードの違い、注装備も記載しています。

ターボ車以外



ターボ車

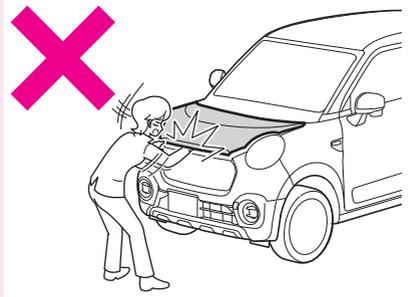


ボンネットの開閉

警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、ボンネットを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボンネットを開めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- ボンネットを開めたあとは、ボンネットが確実にロックしたことを確認してください。ボンネットが確実に閉まっていないと、走行中に突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。
- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

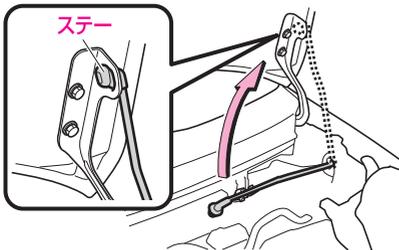
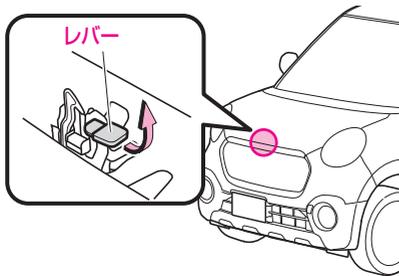
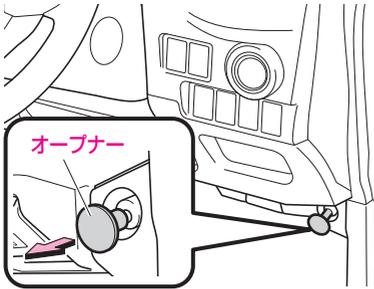
点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

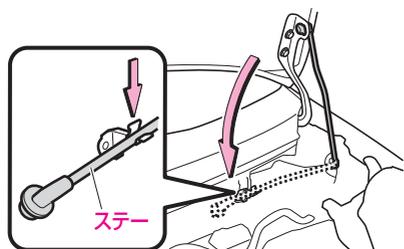
ボンネットの開けかた

⚠ 注意

- ワイパーを起こしたままでボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。



- 1 インストルメントパネル右下のオープナーを手前に引く
 - オープナーを引くと、ボンネット前部が少し浮き上がります。
- 2 ボンネット前部のキャッチフックレバーを矢印の方向に引き上げる
- 3 ボンネットを持ち上げる
- 4 ステーを外し、ボンネットの固定穴に差し込む
- 5 ボンネットが確実に固定されたことを確認する



▼ ボンネットの閉めかた

- 1 ボンネットを片手で支える
- 2 ステーを外して元の位置へ戻す
- 3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるとき、手で強く押さえすぎないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

消耗品の補給、交換

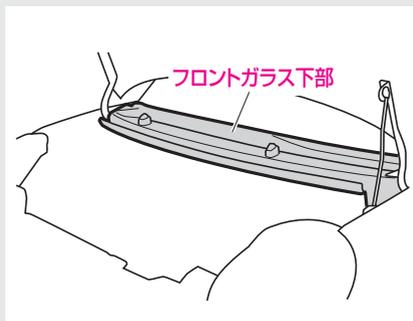
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
 - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
 - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないよう行ってください。オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

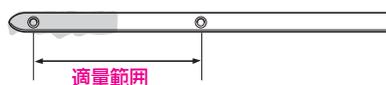
注意

- エンジンルームを点検するときは、フロントガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。



エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。



オイルレベルゲージ

⚠ 注意

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

📖 知識

- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着することがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーターリザーバータンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ウインドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、トヨタ純正ウインドウォッシャー液を補給します。

警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

注意

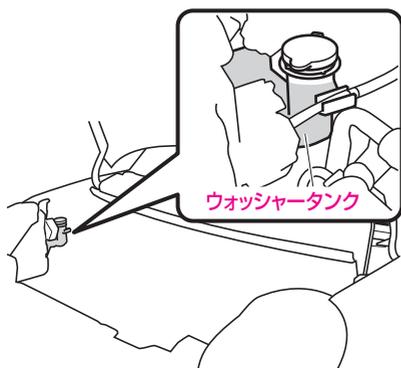
- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

- ウインドウォッシャー液はトヨタ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。
- ウインドウォッシャータンクはフロント、リヤ兼用です。

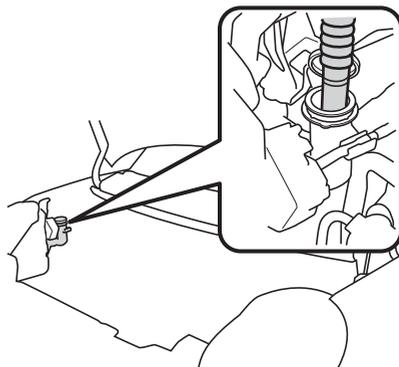
▼ 点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています)

警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト(破裂)するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- タイヤが冷えているときは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているため、約20～30kPa(0.2～0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

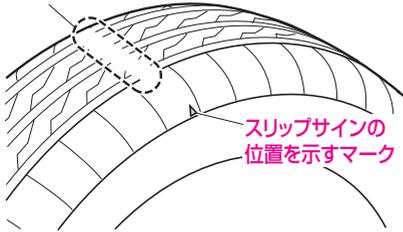
警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。走行中、異常な振動を感じた場合は、トヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能(燃費・車両の安定性・制動距離など)が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

スリップサイン



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

警告

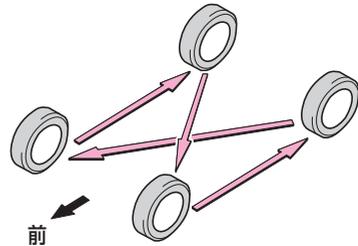
- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーキング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた



図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→317ページ）

知識

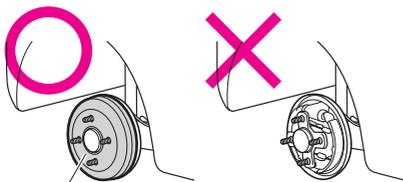
- タイヤパンク応急修理セット装着車では、応急用スペアタイヤが搭載されていないため応急用スペアタイヤを利用するタイヤのローテーションができません。トヨタ販売店にご相談ください。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず思わぬ事故につながるおそれがあり大変危険です。



ブレーキドラム

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ABS が正常に作動しないことがあります。

⚠ 警告

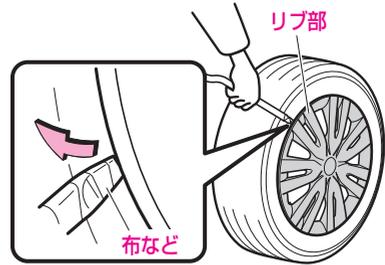
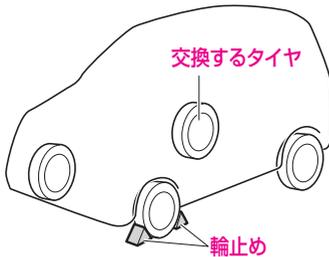
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- アルミホイール装着車は、トヨタ純正アルミホイール専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

- 1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーをPレンジの位置にする
- 2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め*を置く
- 4 フルホイールキャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リップ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフルホイールキャップを外す



知識

- 輪止めは、トヨタ販売店で購入できますので、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めが無い場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3 工具、ジャッキを取り出す

(格納場所→ 356 ページ)

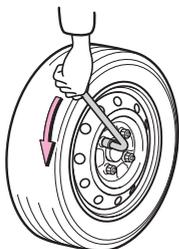
(ジャッキの使いかた→ 358 ページ)

注意

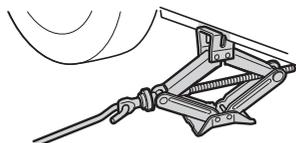
- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボデーなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキハンドルは必ず穴の開いていない部分（リップ部）に差し込んでください。ホイールキャップが割れるおそれがあります。

▼ タイヤの取り外し

- 1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



- 2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる
(ジャッキの使いかた→ 358 ページ)

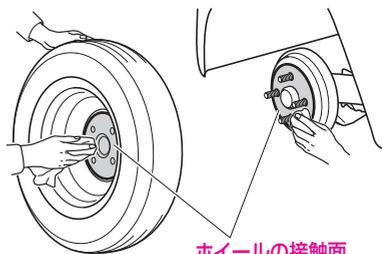


- 3 ホイールナット (4つ) を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

- 1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



ホイールの接触面

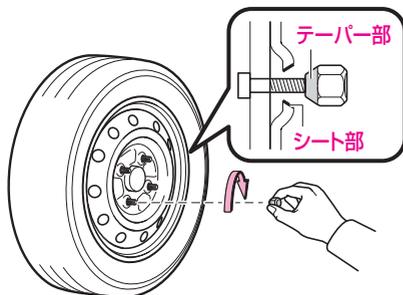
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

- 2 タイヤを取り付ける

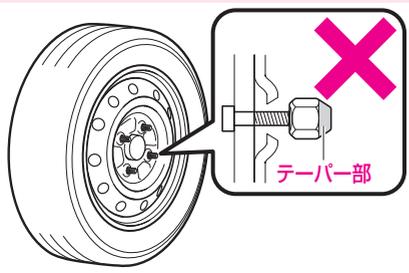
3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締める

- ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまで回します。



警告

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。



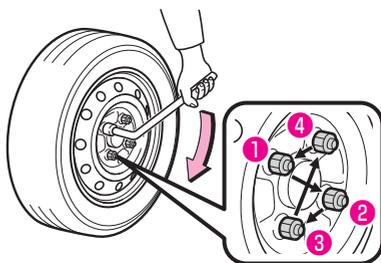
- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に2、3度しっかり締め付ける

- 締付力（レンチ先端にて）：
440～590N {45～60kgf}
- 締付トルク：103N・m
{1,050kgf・cm}

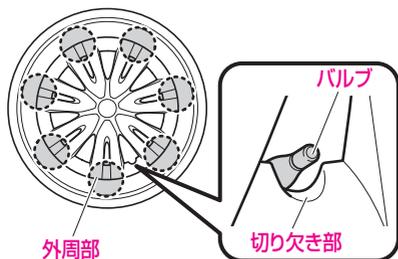


注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 フルホイールキャップ装着車は、フルホイールキャップを取り付ける

- タイヤのバルブとフルホイールキャップの切り欠き部を合わせ、フルホイールキャップの外周部を押して取り付けます。



7 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をトヨタ販売店で受けてください。

ワイパーの交換

警告

- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

注意

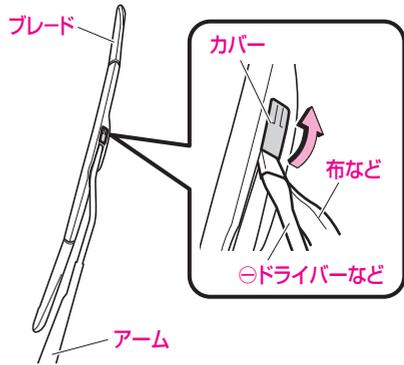
- ワイパーブレード、ラバーはトヨタ純正をおすすめします。トヨタ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- 起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを 작동させてください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

フロントワイパー

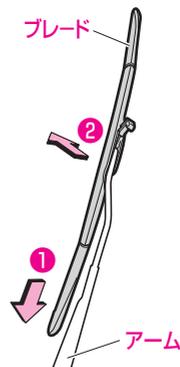
ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

- 1 アームを起こす
- 2 ブレードとカバーの間に \ominus ドライバーなどを差し込んでカバーを起こす



- 3 ブレードをスライドさせて (1)、アームから外す (2)



▼ 取り付けかた

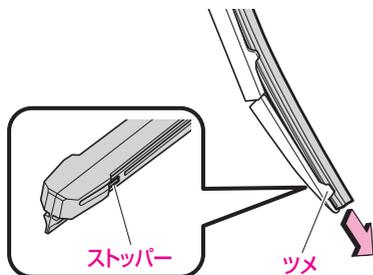
逆の手順で取り付ける

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

- 1 ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引く

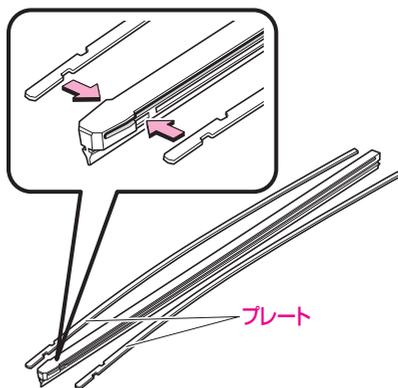


- 2 ラバーをそのままブレードから引き抜く

▼ 取り付けかた

- 1 プレートをラバーから取り外す
- 2 ラバーを交換する
- 3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。



- 4 ラバーはストッパーがない側からブレードに挿入する
- 5 ラバーのストッパーをブレードのツメで確実にとめる

⚠ 注意

- ストッパーが確実にとまっていないと、ウィンドガラスに傷が付くおそれがあります。

📖 知識

アームに取り付けるときは

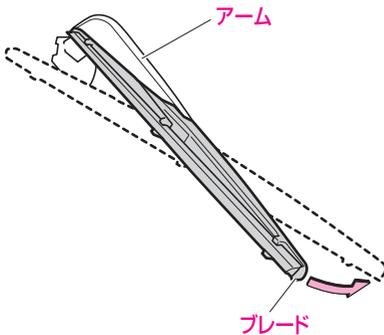
- ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。

リヤワイパー

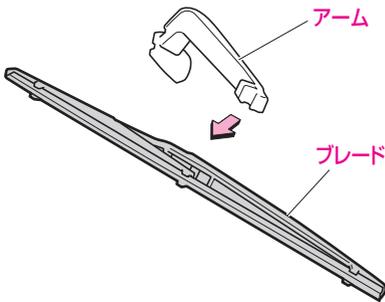
ワイパーブレード

▼ 取り外しかた

- 1 アームを起こす
- 2 ブレードを図の角度まで回す



- 3 ブレードを図の方向に引いて、アームから外す



▼ 取り付けかた

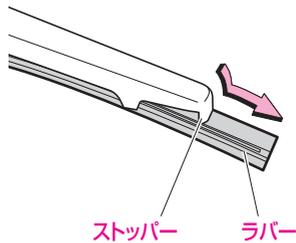
逆の手順で行います。

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

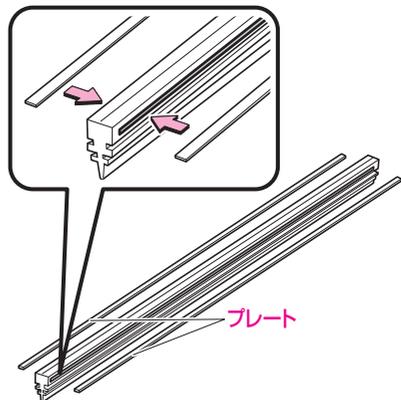
▼ 取り外しかた

- 1 ラバーの先端部を引き、ブレードのストッパーから外す
- 2 ラバーをブレードから引き抜く

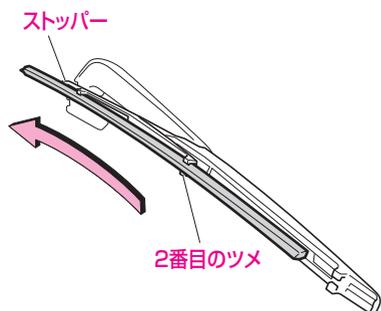


▼ 取り付けかた

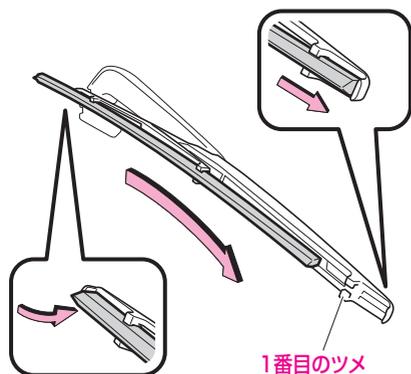
- 1 ラバーからプレートを外す
- 2 ラバーを交換する
- 3 プレートをラバーに差し込む



- 4 ラバーをブレードの2番目のツメからブレードに沿って差し込む
- 5 ラバーをブレードのストッパーから約2cm引き出す



- 6 ブレードの1番目のツメにラバーを通す
- 7 ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して確実に固定する



⚠ 注意

- ブレードのツメをラバーに確実に挿入してください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はトヨタ販売店にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

スーパークリーンエアフィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です)

クリーンエアフィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
(大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です)

注意

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

下記のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

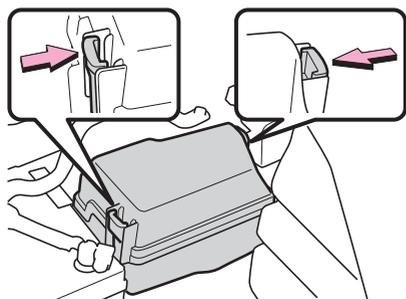
- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

下記の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置がはたらかないとき

ヒューズの位置

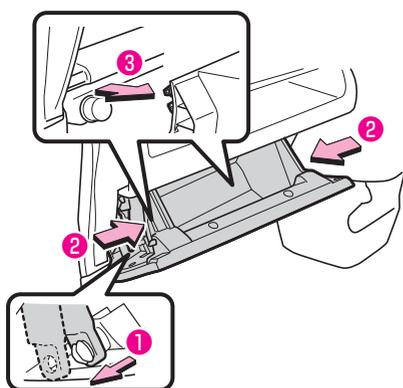
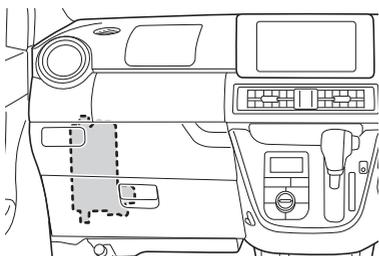
エンジンルーム内



▼ カバーの取り外しかた

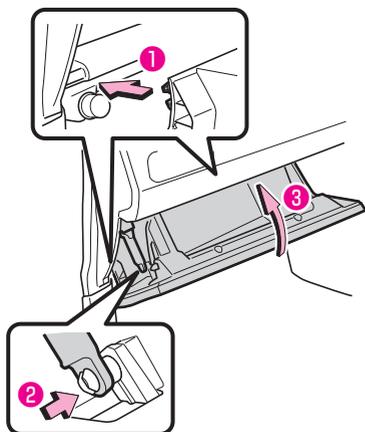
- 1 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 2 カバー横のツメを押しながら取り外す

助手席足元



▼ グローブボックスの取り外しかた

- 1 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 2 ボックスを開け、ダンパーステアを外す (1)
- 3 ボックス上部のツメを外す
 - 側面を左右の順でたわませます (2)。
- 4 下部のツメ (3) を外し、ボックスを取り外す



▼ グローブボックスの取り付けかた

- 1 下部のツメ (1) を取り付ける
- 2 ダンパーステアを取り付ける (2)
- 3 下部のツメがしっかりかん合していることを確認し、ボックスを押し込む (3)

知識

● ツメのかん合が不十分だと、ボックスが開かなくなることがあります。

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスカバーの裏側に表示しています。

▼ 助手席足元

グローブボックスの裏側に表示しています。

📖 知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

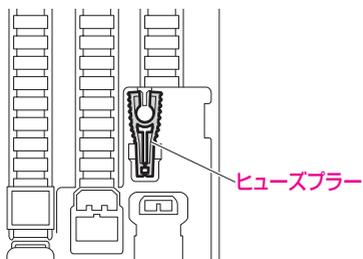
⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

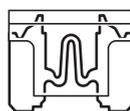
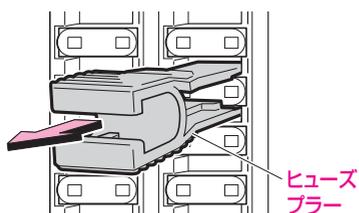
📖 知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

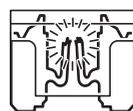
- 1 ヒューズプラーを助手席足元のヒューズボックスから取り出す
- 3 取り外したヒューズを点検する



- 2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す



(正常)



(切れているとき)

▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）交換

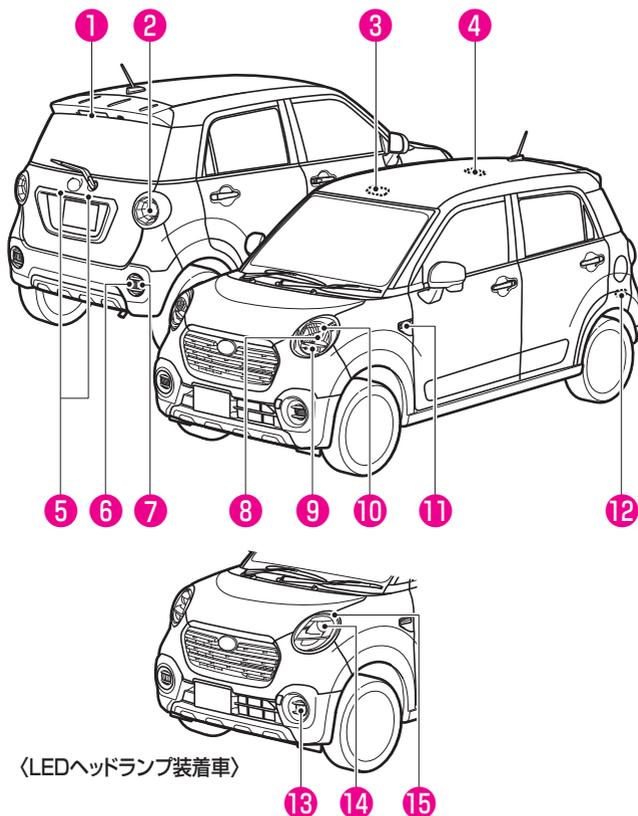
ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

ジョイC

グレードの違い、注文装備も記載しています。



電球(バルブ)		W(ワット)数
①	ハイマウントストップランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	フロントパーソナルランプ	LEDタイプ以外
		LEDタイプ
④	ルームランプ	LEDタイプ以外
		LEDタイプ
⑤	番号灯	5
⑥	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑦	後退灯	16
⑧	車幅灯(ハロゲンヘッドランプ装着車)	5
⑨	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑩	前照灯(Hi/Low)(バルブタイプ:H4) (ハロゲンヘッドランプ装着車)	60/55
⑪	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	※
⑫	ラゲージルームランプ	5
⑬	フォグランプ	LED
⑭	前照灯(Hi/Low) (LEDヘッドランプ装着車)	LED
⑮	車幅灯(LEDヘッドランプ装着車)	LED

※ バルブのみの交換をすることができません。
点検・交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

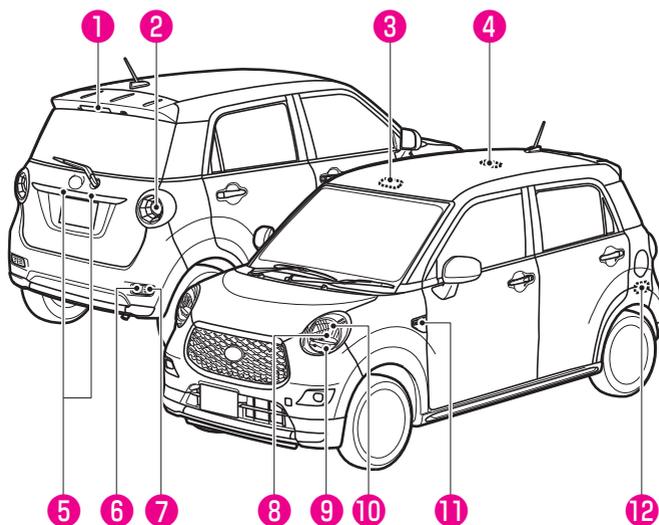
📖 知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプ(フロントパーソナルランプ、ルームランプ除く)は、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

ジョイF、ジョイス

グレードの違い、注文装備も記載しています。



※ジョイスのみ

電球（バルブ）		W(ワット)数
①	ハイマウントストップランプ	LED
②	制動灯 兼 尾灯	LED
③	フロントパーソナルランプ	LEDタイプ以外
		LEDタイプ
④	ルームランプ	LEDタイプ以外
		LEDタイプ
⑤	番号灯	5
⑥	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑦	後退灯	16
⑧	車幅灯(ハロゲンヘッドランプ装着車)	5
⑨	前面方向指示灯 兼 非常点滅灯	21
⑩	前照灯(Hi/Low)(バルブタイプ：H4) (ハロゲンヘッドランプ装着車)	60/55
⑪	側面方向指示灯 兼 非常点滅灯	※
⑫	ラゲージルームランプ	5
⑬	LEDイルミネーション	LED
⑭	フォグラмп	LED
⑮	前照灯(Hi/Low) (LEDヘッドランプ装着車)	LED
⑯	車幅灯(LEDヘッドランプ装着車)	LED

※ バルブのみの交換をすることができません。
点検・交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

📖 知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプ（フロントパーソナルランプ、ルームランプ除く）は、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ハイマウントストップランプ、制動灯 兼 尾灯などは複数の LED で構成されています。もし、LED が1つでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりと破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱いください。
また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

交換作業をするときは

⚠ 注意

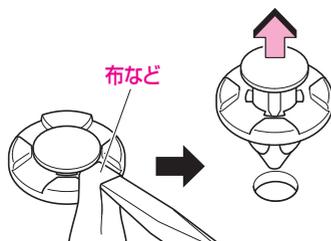
- ㊦ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

フェンダーライナーおよびリヤライナーを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

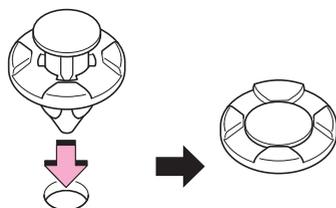
【クリップのイラストは代表例です。取り付けられている箇所により、形状が異なります】

▼ クリップタイプ ㊦

- 1 取り外すときは、㊦ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る

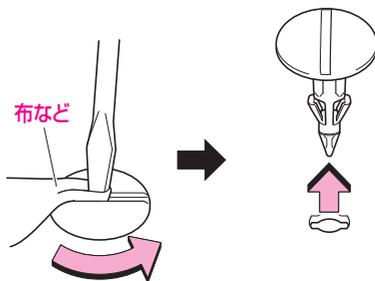


- 2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む

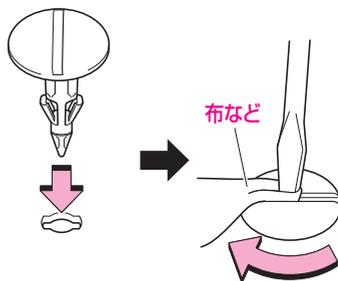


▼ クリップタイプ ㊧

- 1 取り外すときは、ドライバーで矢印の方向へ90°回して取り外す



- 2 取り付けるときは、差し込んでからドライバーで矢印の方向へ90°回して取り付ける

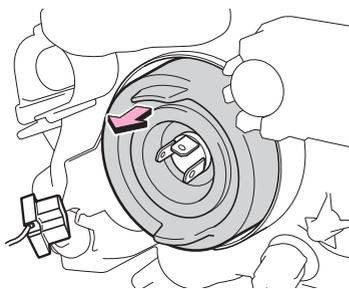


前照灯

ハロゲンヘッドランプ装着車

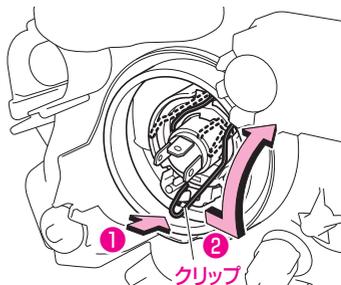
▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→309ページ)
- 2 コネクターを取り外す
- 3 ゴムカバーを取り外す

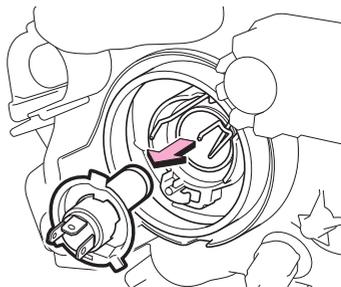


4 クリップをフックから外す

- クリップを押しながら (1) 矢印の方向に寄せて外します (2)。



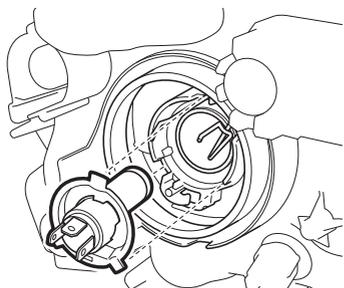
5 バルブを取り外す



▼ 取り付け手順

1 バルブを取り付ける

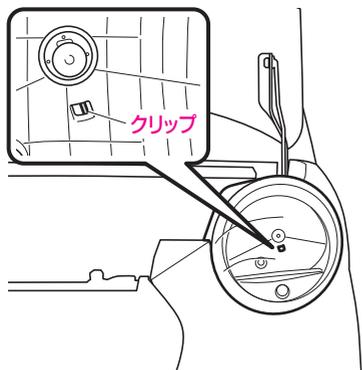
- ヘッドランプ本体の溝にバルブの突起部が合うように、はめ込みます。



2 クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定する

知識

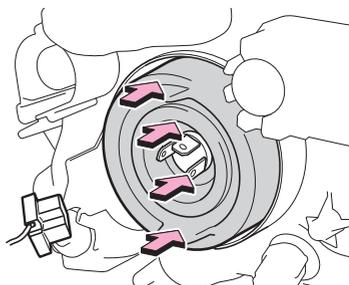
- バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。確実に固定されている場合は、クリップが見えます。



3 ゴムカバーを確実に取り付ける

- ゴムカバーを矢印方向にしっかり押さえます。

4 コネクターを取り付ける

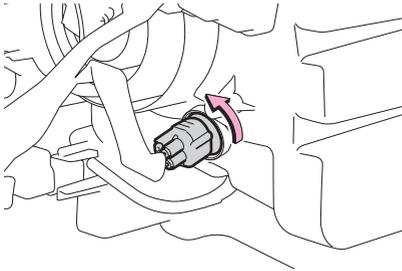


車幅灯

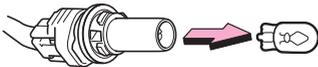
ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

- 1 ボンネットを開ける
(ボンネットの開閉→309ページ)
- 2 ソケットを回して取り外す



- 3 ソケットからバルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

前面方向指示灯 兼 非常点滅灯

⚠ 警告

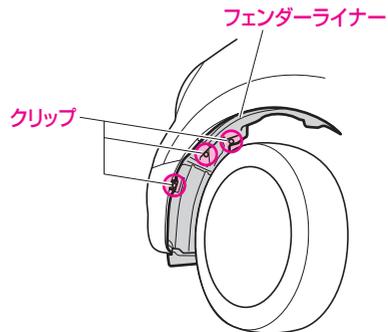
フォグランプ装着車

- フォグランプが点灯しているとき、および消灯した直後はランプ裏側の放熱フィンが高温となっているため、触らないください。やけどをするおそれがあり危険です。



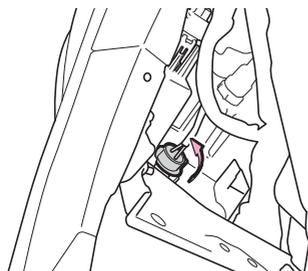
▼ 取り外し手順

- 1 ハンドルを
右側のバルブを交換する場合は左に、
左側のバルブを交換する場合は右に、
いっぱいまで回す
- 2 交換する側のフェンダーライナーの
クリップ (3 個) を取り外す

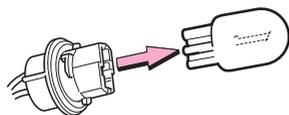


- 3 フェンダーライナーを、手が入る程度に
めくる

4 ソケットを回して取り外す



5 バルブを引き抜く



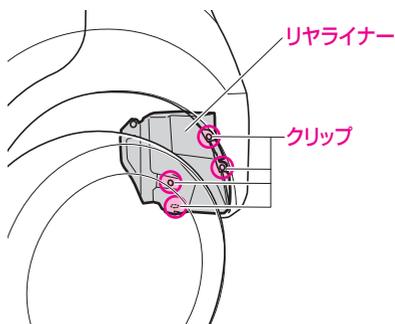
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

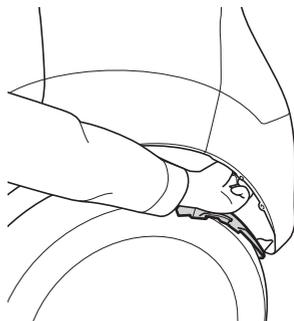
リヤコンビランプ (後面方向指示灯、後退灯)

▼ 取り外し手順

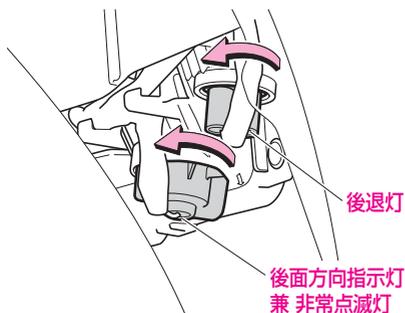
- 1 交換する側のリヤライナーのクリップ(4個)を取り外す



- 2 リヤライナーを手が入る程度にめくる



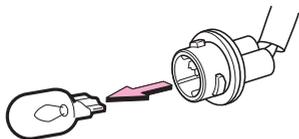
- 3 交換するバルブのソケットを回して取り外す



- 4 ソケットからバルブを取り外す

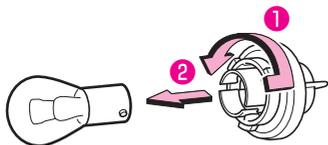
後退灯

- バルブを引き抜きます。



後面方向指示灯

- バルブを押しながら回して (1)、外します (2)。



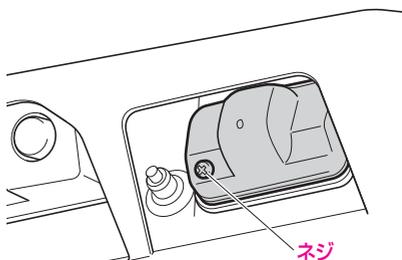
- ▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

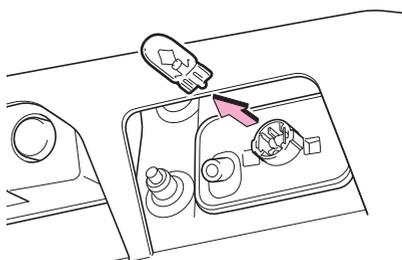
番号灯

- ▼ 取り外し手順

- 1 ネジ (1 本) を取り外し、レンズを取り外す



- 2 バルブを引き抜く



- ▼ 取り付け手順

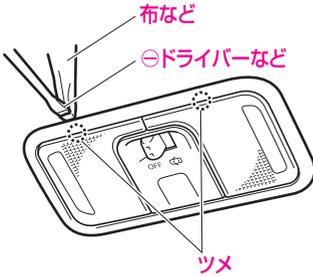
逆の手順で行います。

フロントパーソナルランプ

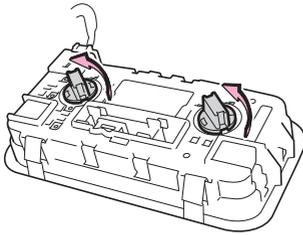
▼ 取り外し手順

LED タイプ以外

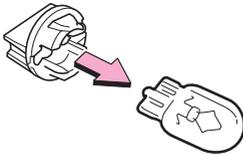
- 1 ①ドライバーなどを差し込み、ツメ（2カ所）を外してランプ本体を取り外す



- 2 交換するバルブのソケットを回して取り外す



- 3 ソケットからバルブを引き抜く

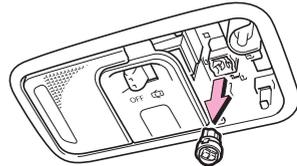


LED タイプ

- 1 ランプのスイッチを押しながら、カバーを取り外す



- 2 バルブを取り外す



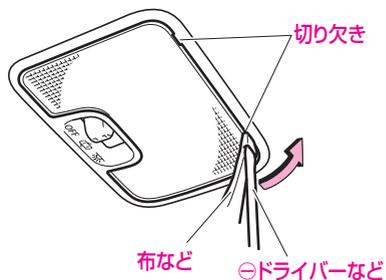
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

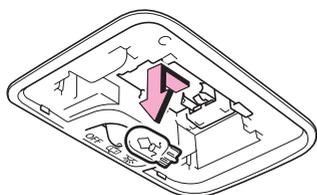
ルームランプ

▼ 取り外し手順

- 1 ㊦ドライバーなどを切り欠きに差し込んで、カバーを取り外す



- 2 バルブを取り外す



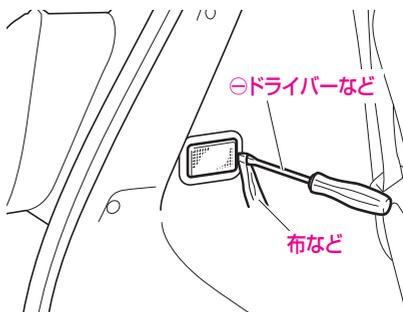
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

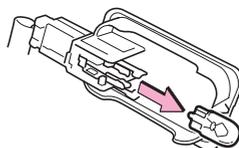
ラゲージルームランプ

▼ 取り外し手順

- 1 ㊦ドライバーなどを差し込み、ランプ本体を取り外す



- 2 バルブを引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

交換方法

警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
 - 濡れた手で電池交換をしない
 - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
 - 油や異物を入れない

知識

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

▼ 用意するもの

- 「CR2032 (3V)」の新しい電池
- 薄刃の⊖ドライバーなど
(くぼみに入る程度の幅のもの)
 - 傷付き防止のため先端に布などを巻いてください。

▼ 交換手順

1 電子カードキーのカバーを外す

- トヨタマーク側を上にして外します。
- 用意した⊖ドライバーなどをくぼみに差し込み、回します。

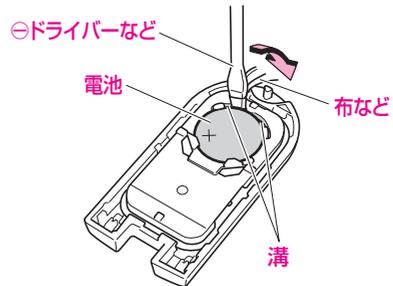


⚠ 注意

- トヨタマーク側を下にしてカバーを外さないでください。電子カードキーのスイッチや電子部品などが落下して破損するおそれがあります。

2 電池を取り出す

- 用意した⊖ドライバーなどを溝に差し込みます。
- カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール(基板)が張り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール(基板)をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

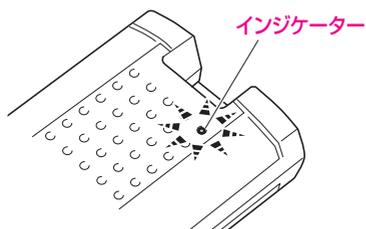


3 新しい電池と交換する

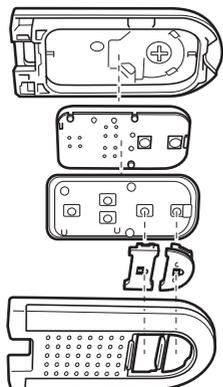
- 電池は⊕極を上側にして取り付けます。

4 カバーを取り付ける

5 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



▼ 電子カードキーの部品がばらけたときは
図を参考に組み付けてください。



⚠ 注意

- 電子部品の基板面に触れないでください。故障の原因になります。

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ …	348
走行前点検と準備 ……………	349
積雪、寒冷時の走行 ……………	350
走行中の点検と注意 ……………	352
走行後の取り扱い ……………	353

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動やキーフリーシステムに支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をトヨタ販売店に依頼してください。

ウインドウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。

寒冷地用ワイパーブレードは、トヨタ販売店で各車指定のブレードをご購入ください。

知識

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- フロントウインドガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロントウインドガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

警告

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリッパしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。チェーン装着車、冬用タイヤ装着車、また4WD車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは2WD車、4WD車ともに必ず前輪に装着します。
- チェーンはタイヤサイズに合った物を使用してください。
 - トヨタ純正品のチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- タイヤチェーンは車のタイヤサイズに合った、トヨタ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。
- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤチェーン装着時は 30km/h 以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさげ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。
- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。
- チェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。
 - VSC
 - TRC
 - DAC
- タイヤチェーンを装着するとホイールキャップやアルミホイールに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップ装着車はホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤの装着**⚠ 警告**

- 冬用タイヤは必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

警告

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

警告

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなる場合があります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

パンク時の対応

タイヤパンク応急修理セットで応急修理をしてください。

(タイヤパンク応急修理セット
→ 362 ページ)

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。

エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなる場合があります。

また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠ 警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがあります。駐車ブレーキをかけずにシフトレバーを  レンジに入れて、輪止め* をしてください。

📖 知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
(ルーフアンテナ→ 278 ページ)

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

📖 知識

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

格納方法

長時間使わないで屋外に放置しておくときは、塗装面の保護とドア周りの凍結を防ぐために、ボデーカバーを使用してください。

⚠ 警告

- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントグリルに段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

いざというときに

工具類

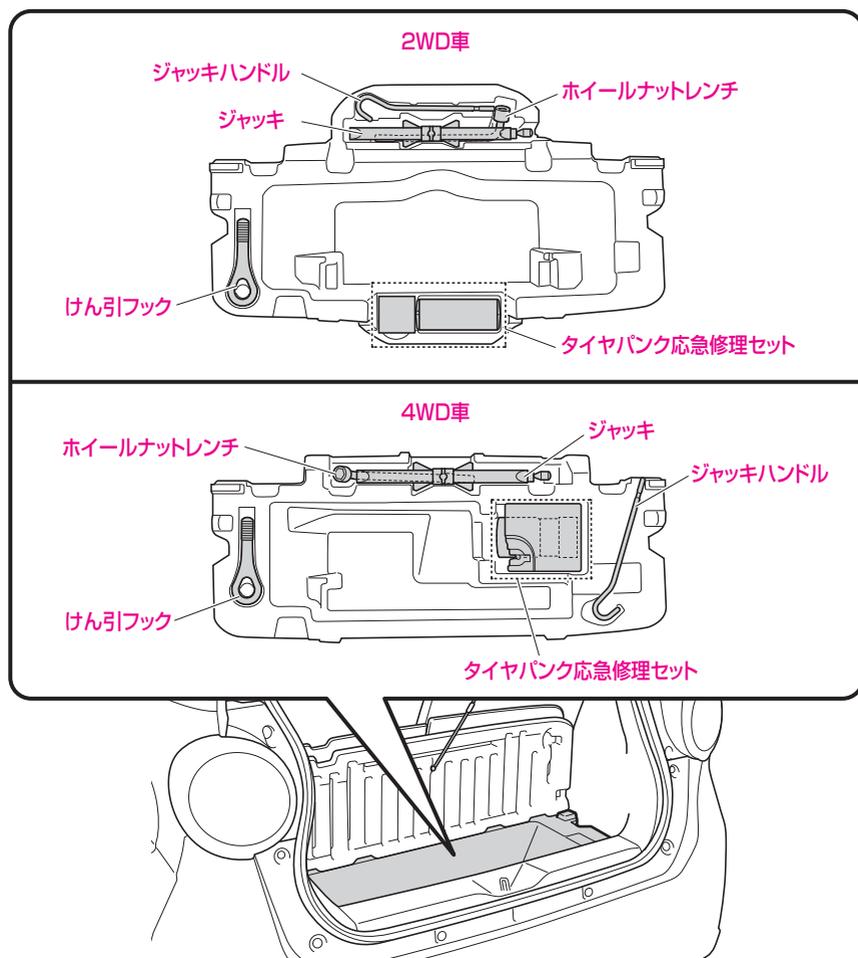
格納場所	356
ジャッキの使いかた	358
タイヤパンク 応急修理セット	362

いざというときの処置

エンジンが かからないとき	371
スタック（立ち往生） したとき	371
故障したとき	372
けん引される時	374
パンクしたとき	377
バッテリーあがりの処置	377
オーバーヒートの処置	381
電子カードキーが 使用できないとき	383
キーを閉じ込めたとき	386
車両を緊急停止するには	387
事故が起きたとき	388

工具類

格納場所

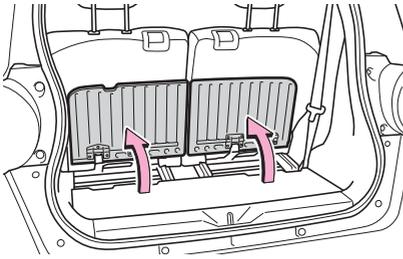


ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは、ラゲージルーム内のラゲージアンダーボックスに収納しています。

(ジャッキの使いかた→ 358 ページ)

(けん引される時→ 374 ページ)

(タイヤパンク応急修理セット→ 362 ページ)

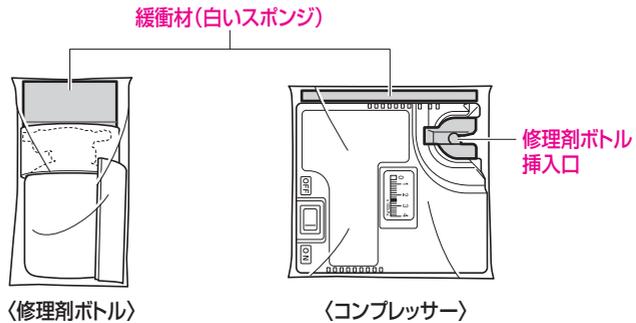


- 工具を取り出すときは、リヤシートを前方いっぱいまでスライドし、車両前側のデッキボードを持ち上げます。

⚠ 警告

- ジャッキ、工具、タイヤパンク応急修理セットは所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

▼ **タイヤパンク応急修理セットについて**
使用するときには、袋から出してください。



⚠ 注意

タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

- 下図のように収納してください。誤った方向で収納すると、ラゲージアンダーボックスに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。
- 緩衝材（白いスポンジ）が入っている場合は、必ず同封して収納してください。
- 修理剤ボトル挿入口が図の向きになるように注意してコンプレッサーを収納してください。

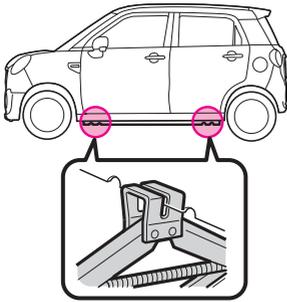


ジャッキの使いかた

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを **P** レンジに入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らかな場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤパンク応急修理およびタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキをセットする位置



取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にセットします。

警告

- 2WD車はリヤサスペンションビームにジャッキをかけないでください。正しくジャッキセット位置にセットしないと、車が損傷したり、けがをするおそれがあります。

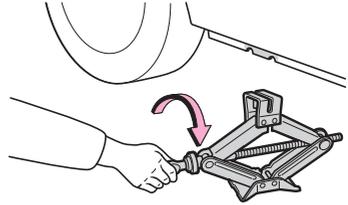


注意

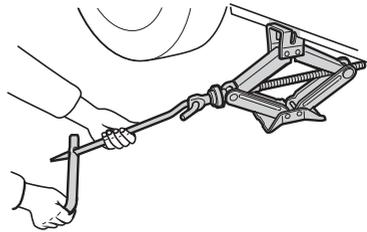
- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順



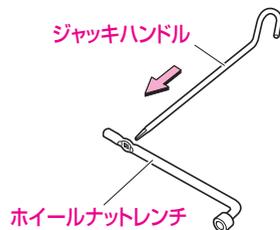
- 1 ジャッキを手で回して、セット位置まで上げる



- 2 ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げる

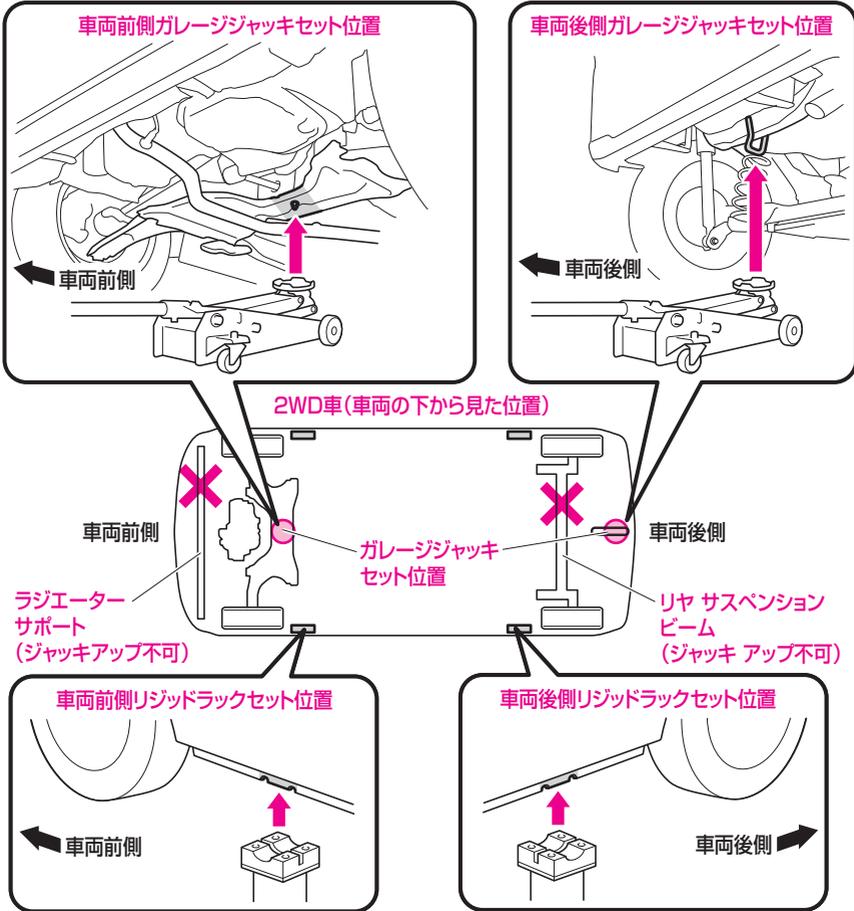
知識

- ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。

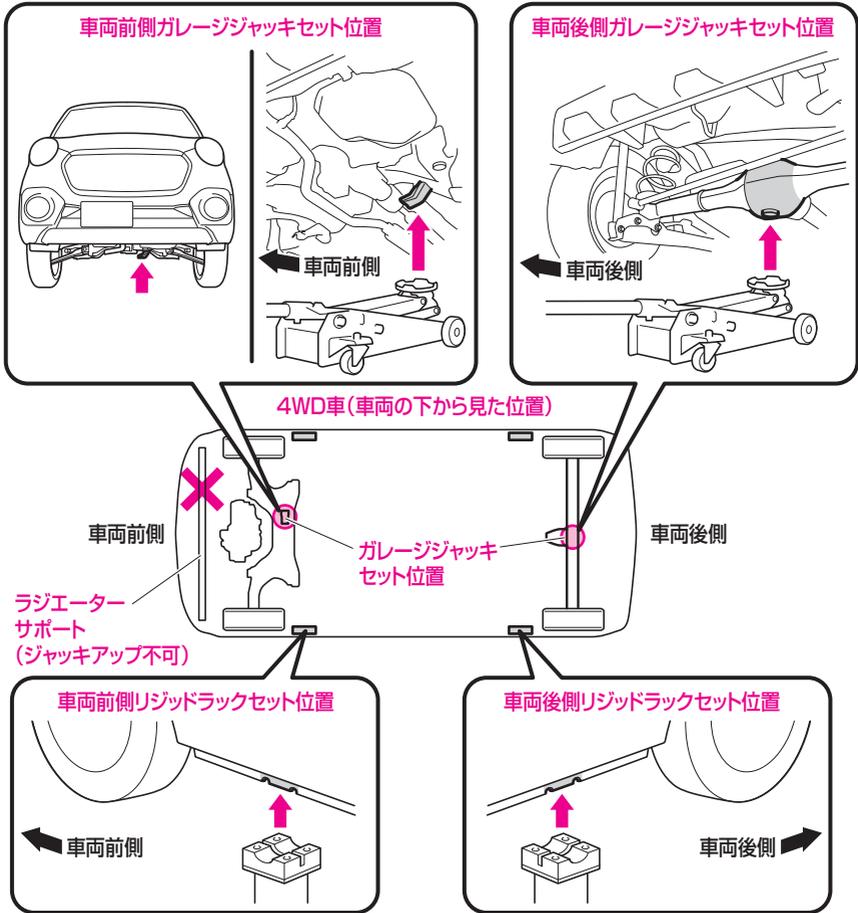


ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合

2WD車



4WD 車

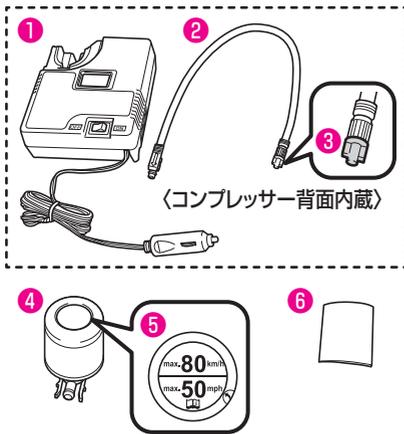


ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置にセットしてください。

警告

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車が損傷したりするおそれがあります。

タイヤパンク応急修理セット



- ① コンプレッサー
- ② ホース
- ③ ホース栓
- ④ 修理剤ボトル
- ⑤ 速度制限シール
- ⑥ 早分かりシート

タイヤパンク応急修理セットは、コンプレッサーで空気とパンク穴をふさぐ修理剤を同時に充填して、軽度なパンクを応急修理することができます。

- タイヤパンク応急修理セット装着車には、応急用スペアタイヤは装着されています。
- タイヤパンク応急修理セットは、応急時のタイヤ修理用です。応急修理後は、すみやかにタイヤの交換、またはトヨタ販売店で、点検、修理を受けてください。

警告

修理剤について

- 飲用すると体に害があります。もし誤って飲用された場合は、できるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いたりした場合には、ただちに水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- タイヤパンク応急修理セットは、指定の場所に格納してください。また、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
(格納場所→ 356 ページ)

注意

- 衣服などに付着した場合はすぐに拭き取ってください。衣服にしみこむと取れなくなるおそれがあります。

コンプレッサーについて

- パンク応急修理専用です。そのほかの目的で使用しないでください。
- DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- コンプレッサーを使用する際、故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
 - 40 分以上連続して使用しない
 - 降雨時など、水がかからないようにする
 - 砂ぼこりなどを吸い込ませない
 - 使用中に、動作が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置する
 - 分解、改造などは絶対にしない
 - 強い衝撃や圧力を加えない

タイヤパンク応急修理セットの点検

いざというとき使用できるようにタイヤパンク応急修理セットの日常点検を実施してください。

- 修理剤の有効期限の確認
- アクセサリーソケット電源の確認
(電化製品などを作動させて点検してください)
- コンプレッサー作動の確認
(コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンを始動します)

タイヤパンク応急修理セットが使用できない状況

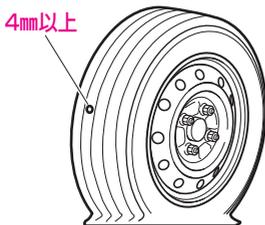
下記のような場合は、タイヤパンク応急修理セットによる応急修理ができません。

トヨタ販売店または JAF* などにご連絡ください。

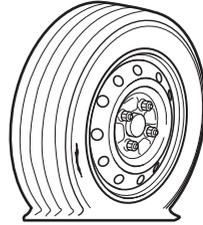
- 修理剤の有効期限が切れている



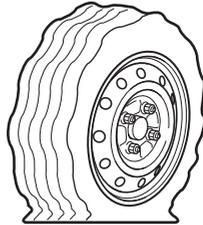
- 約 4mm以上の切り傷や刺し傷がある



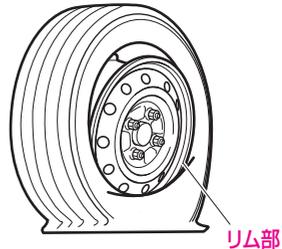
- タイヤサイド部が損傷を受けている



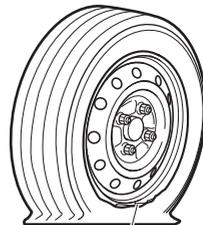
- ほとんど空気の抜けた状態で走行した



- タイヤがリムの外側に完全に外れている



- リム部が破損している



- タイヤが 2 本以上パンクしている
(修理剤はタイヤ 1 本分です)

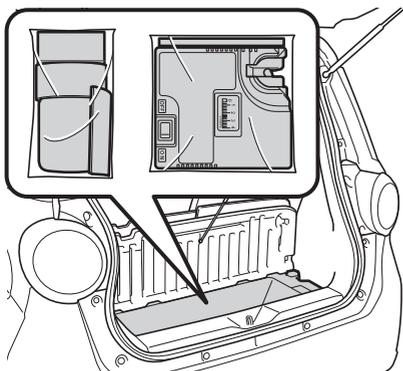
タイヤの応急修理方法

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理を行うことができます。

⚠ 注意

- タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かずにそのまま応急修理してください。

▼ タイヤパンク応急修理セットの格納場所



▼ 応急修理のしかた

⚠ 注意

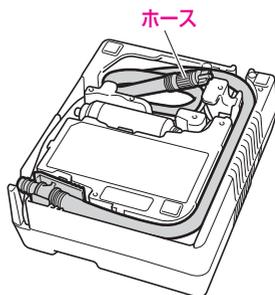
- 路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる地面が硬くて平らな場所に移動してください。その際は非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。

1 修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

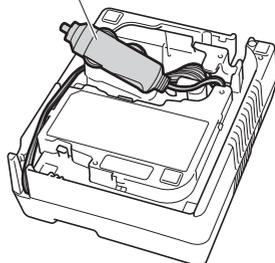
⚠ 注意

- 緩衝材（白いスポンジ）が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください)

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す



電源プラグ

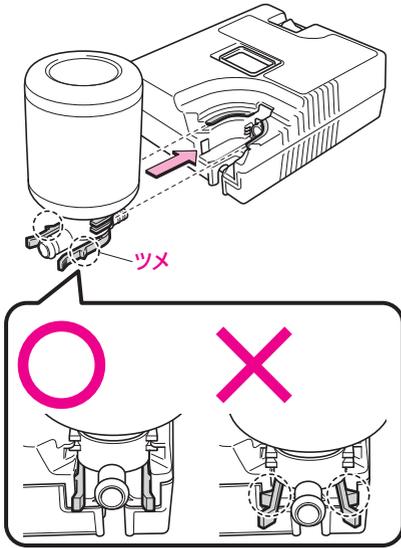


3 修理剤ボトルをよく振る

- 修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

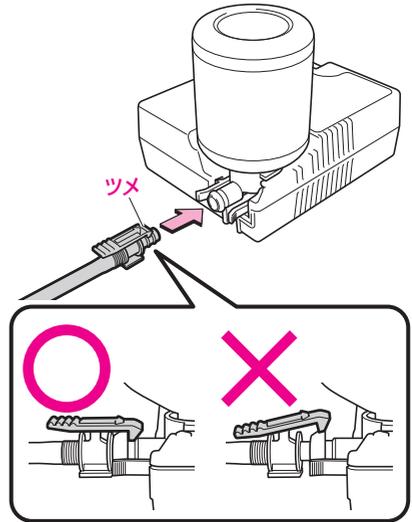
4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する

- ボトルのツメが固定されるまで、しっかりと押し込んでください。



5 修理剤ボトルにホースを差し込む

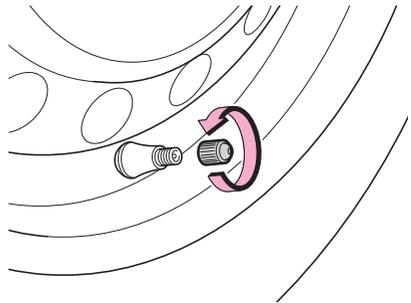
- ホースのツメが固定されるまでしっかりと差し込んでください。



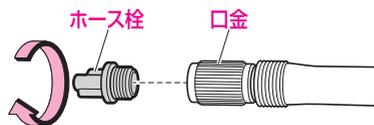
⚠ 注意

- 接続部が確実に固定されていることを確認してください。

6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

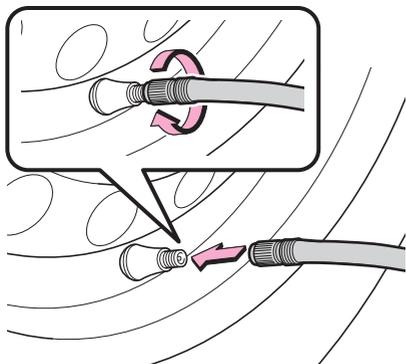


7 ホースの口金からホース栓を取り外す

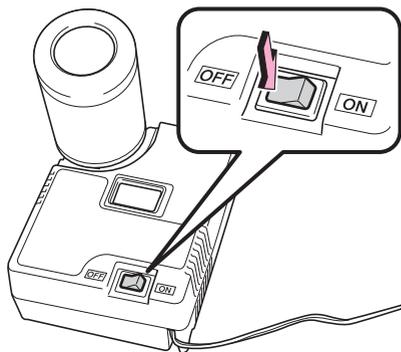


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

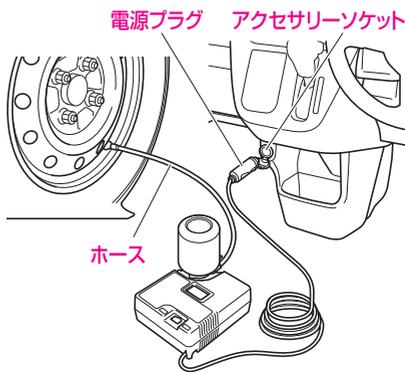
- ホースの口金を回して最後までしっかりとねじ込みます。



9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する



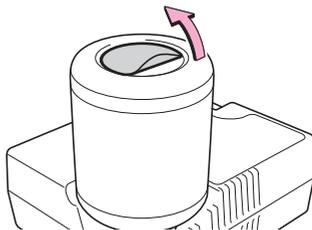
10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む



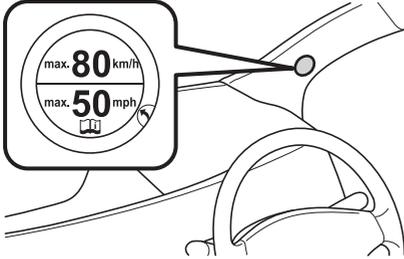
⚠ 注意

- 手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。

11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



⚠ 警告

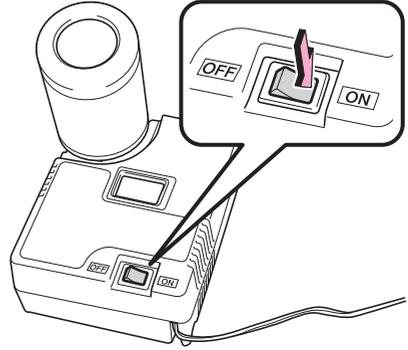
- 速度制限シールは、ハンドルのパッド部などエアバッグ展開面に貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けるおそれがあります。また、メーターやウインドガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

13 タイヤの指定空気圧を確認する

- 指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。

14 エンジンを開始する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する



⚠ 注意

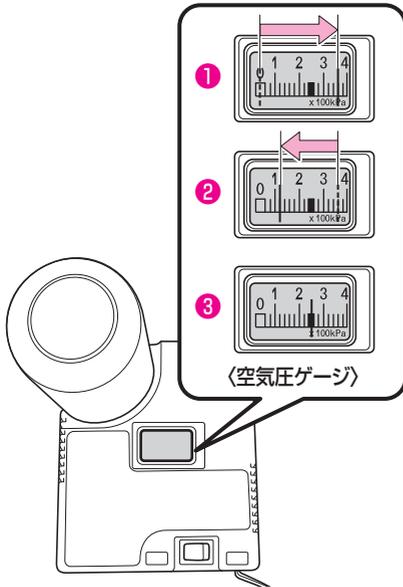
- コンプレッサーは 40 分以上連続して使用しないでください。モーターが過熱し損傷するおそれがあります。

📖 知識

- 5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で 2～3 回以上回し、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。
(ジャッキの使いかた→ 358 ページ)

16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。
- ② 1分程度（低温の場合は5分程度）で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。



● 次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。トヨタ販売店、またはJAFなどにご連絡ください。

- 修理剤が5分以内に充填できない
- 25分以内に指定空気圧まで上がらない

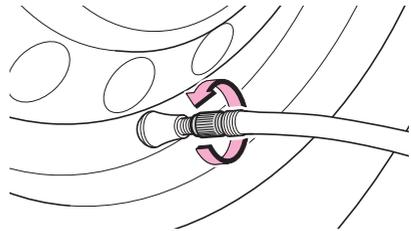
知識

● トヨタ販売店、または JAF ロードサービスについては別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

▼ 空気を入れすぎてしまったときは

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

● タイヤの空気を抜くときに、充填した修理剤が飛散するおそれがあります。修理剤が目に入らないように注意してください。

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

知識

- ホースの口金を取り外すときに修理剤がもれることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

注意

- コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

- 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合は、手順 6 ~ 23 を繰り返して行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▼ 空気圧が 130kPa 以下に低下していたら

- タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、トヨタ販売店、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、すみやかにトヨタ販売店まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

応急修理後の処置

修理剤を使用したタイヤは、すみやかに交換、修理を行ってください。交換、修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

注意

- 修理業者等にタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤバンク応急修理セットを使用したことを知らせてください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しい物と交換してください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“OFF”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずにお近くのトヨタ販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。（けん引される時→ 374 ページ）

いざというときに いざというときの処置

知識

- TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC を停止してください。
(VSC & TRC OFF スイッチ→ 200 ページ)

▼ 脱出手順

- 1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーを **R** レンジに入れ、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにする
- 4 エンジンを始動する
- 5 シフトレバーを **R** または **N** レンジに入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏む

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押しもらってください。

⚠ 注意

- 車を押す場合、シフトレバーは **N** レンジに入れてください。

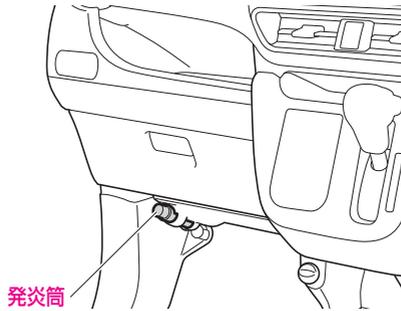
知識

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒



発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの左下に設置されています。

⚠ 警告

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けてとやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用しないでください。引火してとやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- トンネル内では使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

📖 知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、トヨタ販売店、または JAF などに依頼し、車両積載車で 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

(別冊の「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網、JAF ロードサービスを参考にしてください)

警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD 車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の警告、注意にしたがってください。

警告

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

注意

- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにトヨタ販売店にご連絡ください。
 - ・エンジンはかかるが車が動かない
 - ・異常な音をする

▼ けん引を行う前に

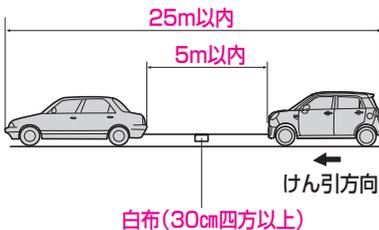
⚠ 警告

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあり危険です。
 - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
 - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ON”にし、シフトレバーは **N** レンジにしてください。
 - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、トヨタ販売店にご確認ください。駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h 以下、けん引距離は 50km 以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- エンジンスイッチが故障したときは、ハンドルロックが解除できないため、ロープによるけん引はできません。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法



- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

- けん引フックは、ラゲージアンダーボックスに格納しています。

(格納場所→356ページ)

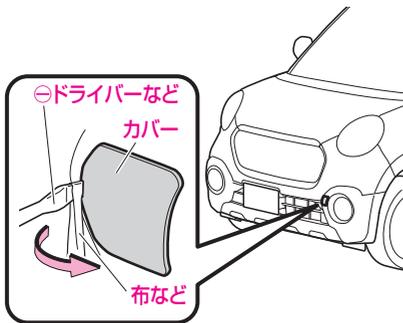
▼けん引フックの取り付けかた

1 カバーを外す

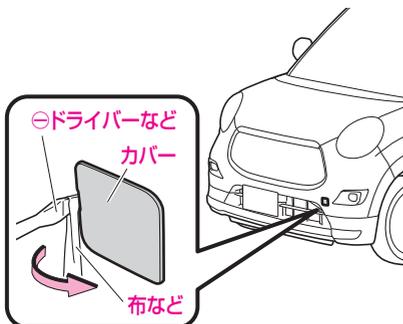
- 薄刃の⊖ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。

(傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください)

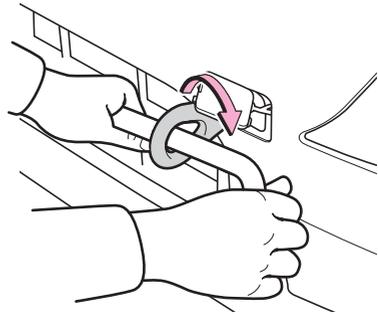
ジョイC



ジョイF、ジョイス



2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する



知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

パンクしたとき

警告

- 高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。
- パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

（タイヤパンク応急修理セット→ 362 ページ）

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない
- 電子カードキーでドアが解錠しない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

警告

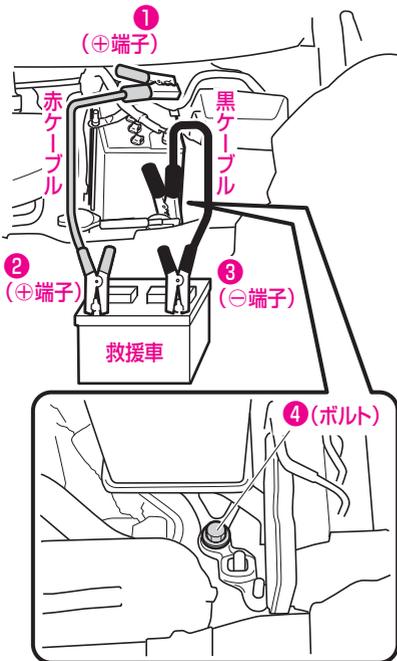
- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスに引火、爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕端子をボデー金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

▼ 処置の手順

- 1 バッテリーの ⊕ 端子のカバーを外す
- 2 赤ブースターケーブルを以下の順に接続する
 - ① バッテリーあがり車の ⊕ 端子
 - ② 救援車の ⊕ 端子
- 3 黒ブースターケーブルを以下の順に接続する
 - ③ 救援車の ⊖ 端子
 - ④ 未塗装の金属部
(図に示すような固定された部分)



- 4 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転を少し高めにして、約 5 分間バッテリーあがり車のバッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてからバッテリーあがり車のエンジンを始動する
- 6 バッテリーあがり車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

📖 知識

バッテリーあがりを防ぐために

- 下記のことをお守りください。
 - エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
 - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- バッテリーを交換するときは、この車専用の eco IDLE 専用バッテリーに交換してください。専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化や eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなる原因となります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

(eco IDLE 専用バッテリー→ 263 ページ)

📖 知識

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。
- バッテリーを交換したとき、新しいバッテリーは、バッテリーを設置するトレイの車両後方側に設置してください。

オーバーヒートの処置

下記の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- ボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

車を安全な場所に止め、以下の処置をしてください。



警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 処置の手順

- 1 ボンネットから蒸気が出ているとき
 - エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しボンネットを開け、風通しを良くします。
- 2 ボンネットから蒸気が出ていないとき
 - エンジンをかけたままボンネットを開け、風通しを良くします。
- 3 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする
 - 下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてトヨタ販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
 - ファンベルトが切れているとき
- 4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める

- 5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する
- 6 冷却水が不足しているときは、補給する
 - 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れしないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

📖 知識

オーバーヒートを防ぐために

- 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンスノート」参照）

電子カードキーが使用できないとき

電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合は、一時的な対処として、電子カードキーとエマージェンシーキーを使用してドアの施錠、解錠、およびエンジンをかけることができます。

警告

- 電池の消耗などにより、電子カードキーが使用できない場合でも、発信機は電波を発信していますので、植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用されている方は、車外発信機・車内発信機から約 22 cm以内に近付かないようにしてください。

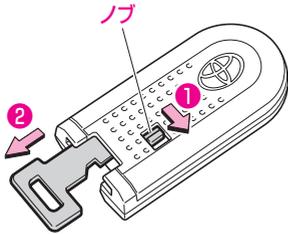
(発信機→79 ページ)

知識

- ここで説明しているエンジンのかけかたは一時的な対処です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

(キーの電池交換→343 ページ)

エマージェンシーキーの 取り出しかた



電子カードキーのノブを (1) の方向にスライドさせたまま、エマージェンシーキーを (2) の方向に引いて取り出します。

- 使用後は、エマージェンシーキーを必ず電子カードキーに格納しておいてください。

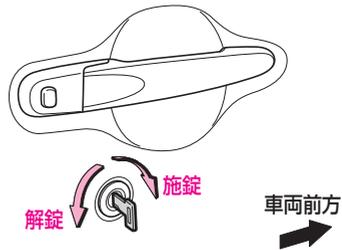
ドアの施錠、解錠

知識

セキュリティアラームがセットされている場合

- キーを差して解錠しドアを開けると、セキュリティアラームの警報が作動します。アラームが作動した場合は、ただちに次項「エンジンのかけかた」の手順 1～3 にしたがって、キーを認識させてください。警報が停止します。
(セキュリティアラーム→68 ページ)
(エンジンのかけかた→385 ページ)

操作方法



キーを確実に差し込み、

施錠：車両前方に回す

解錠：車両後方に回す

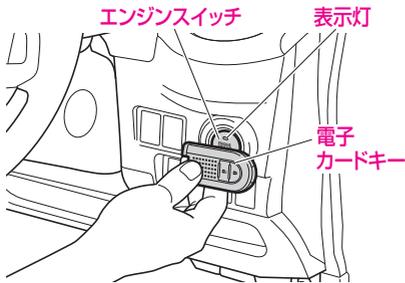
施錠・解錠すると、すべてのドアが施錠・解錠されます。

知識

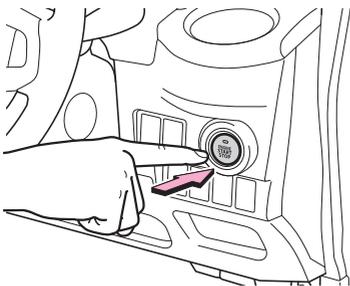
- キーは挿入口に確実に差し込んでください。
- キー挿入口は助手席側ドアには設定していません。

エンジンのかけかた

- 1 シフトレバーが②レンジの位置で、ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、キーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - 電子カードキーの中心をスイッチの中心に接触させます。



- 3 キーが認識されて、エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯する
- 4 表示灯が点灯している間にスイッチを押すと、エンジンが始動する



▼ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止方法と同様に、シフトレバーを②レンジに入れて、スイッチを押します。

📖 知識

- 下記の状態になると、エンジンスイッチを押してもエンジンの始動はできません。もう一度ははじめからやり直してください。
 - キーの認識後、表示灯が消灯した
 - エンジンスイッチを“OFF”にした
- 手順通りに操作をしてもエンジンが始動できないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

▼ エンジンスイッチモードの切り替え

電子カードキーをエンジンスイッチに接触させたまま、エンジンスイッチを押します。

スイッチを押すごとに

「OFF → ACC → ON → OFF」の順に切り替わります。

■ ハンドルロックを解除するには

エンジンの始動操作をしたときに、エンジンスイッチの表示灯が緑色に高速点滅したときは、ハンドルロックが解除されていないため、エンジンの始動ができません。

ハンドルを左右に動かしながら、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■ キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。

別冊の「メンテナンスノート」巻末の JAF ロードサービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

保管していた電子カードキーとキーナンバープレートを最寄りのトヨタ販売店にお持ちください。

📖 知識

- 電子カードキー使用時は特にキーを閉じ込めやすくなります。ドアを施錠する際は、必ず電子カードキーを携帯していることを確認するか、リモコン操作で施錠を行ってください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。

緊急停止方法

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを **N** レンジに入れる

- ▼ シフトレバーが **N** レンジに入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

- ▼ シフトレバーが **N** レンジに入らない場合

- 4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 5 エンジンを停止する

- スイッチを 3 秒以上押し続けるか、3 回以上連打して、エンジンを停止します。



3秒以上押し、または3連打する

- 6 車を安全な道路脇に停める

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

- 1 ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
- 2 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
- 3 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。
- 4 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
- 5 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

サービスデータ

項 目		サービスデータ	
点火プラグ	エンジン型式	NGK	デンソー
	プラグ型式		
	KF型(ターボ車以外)	ILKR6F11 (イリジウムプラグ)	SXU20HPR11 (イリジウムプラグ)
	KF型(ターボ車)	ILKR7D8 (イリジウムプラグ)	SXU22HPR8 (イリジウムプラグ)
ファンベルト	たわみ量(mm) 押力98N{10kgf}時	7.9~9.7(点検時)  点検位置	
アイドル回転数(rpm)		800	
ブレーキ ペダル	遊び(mm)	0.5~3.0	
	床板とのすき間(mm) (踏力294N{30kgf}時)	78.5以上	
駐車ブレーキ	踏みしろ (踏力245N{25kgf}時)	5~7ノッチ	
バッテリー		M-42	
フューエル タンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)	30	
ウォッシャー タンク	容量(ℓ)	1.5	

項	目		サービスデータ
エンジン オイル	使用オイル と交換時期	ターボ車以外	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ純正モーターオイルSAE0W-20 (API分類SN/RC, ILSAC規格GF-5) ・トヨタ純正モーターオイルSAE5W-30 (API分類SN/RC, ILSAC規格GF-5) ・アミックス EXTRA 0W-20*¹ ・アミックス EXTRA 5W-30 6か月ごとまたは、 10,000kmごと(5,000kmごと* ²)の どちらか早い方
		ターボ車	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ純正モーターオイルSAE5W-30 (API分類SN/RC, ILSAC規格GF-5) ・アミックス EXTRA 5W-30*¹ 6か月ごとまたは、 5,000kmごと(2,500kmごと* ²)の どちらか早い方
	交換量(ℓ)	オイル交換時	約2.7
		オイルと オイルフィルター (オイルクリーナー) 交換時	約2.9
オイルフィルター (オイルクリーナー)	交換時期	10,000kmごと(5,000kmごと* ²)	
トランスミッション オイル	交換時期	50,000kmごと	
	使用オイル	トヨタ純正CVTフルードFE* ¹ またはTC	
	交換量(ℓ)	ターボ車以外	約2.4(ドレン)、約5.7(全容量)
ターボ車		約2.5(ドレン)、約5.8(全容量)	

*1 新車時に充填されているオイルです。

*2 シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

オートマチック車のトランスミッションオイルについて

- トヨタ純正オイル (トヨタ純正 CVT フルード -FE または TC) 以外を使用すると、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。
オイルの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

項 目		サービスデータ
トランスファ オイル	交換時期	100,000kmごと
	使用オイル	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX SAE85W-90 (API分類GL-5)
	交換量(ℓ)	約0.57
リヤ デファレンシャル オイル	交換時期	30,000kmまたは2年(初回は3年)
	使用オイル	アミックスオートフルードD-Ⅲ
	交換量(ℓ)	約0.73
ブレーキオイル	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用オイル	トヨタ純正ブレーキフルード2500H-A
エアクリーナー エレメント	交換時期	40,000kmごと(20,000kmごと*)
冷却水 (除クリザーバー タンク)	交換時期	2年ごと(初回は3年)
	使用液	トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
	規定濃度(%)	50(全車寒冷地仕様)
	交換量(ℓ)	ジョイCの 4WDのターボ車
上記以外		約3.4

* シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧 (空車時：kPa{kgf/cm ² })				タイヤの溝の 深さ(mm)	タイヤローテーション 時期
	前 輪		後 輪			
	一般	高速	一般	高速		
155/65R14	240{2.4}				1.6以上	5,000kmごと
165/65R14						
165/55R15						
165/60R15						
165/50R16						

指定のタイヤサイズは、車種・グレードなどにより異なります。
 運転席側ドア開口部に貼り付けしてあるラベルで確認してください。

さくいん

ア		イ	
アームレスト	288	イージースタートサポート	172
アームレストボックス	296	EPS（電動パワーステアリング）	
アイドリング回転数	390	警告灯	132
アイドリングストップ時間	146	EBD	193
アイドリングストップシステム	251	イグニッション（エンジン）	
アイドリングストップ積算時間	147	スイッチ	179
アウター（ドア）ミラー	116	イグニッションキー	74
アクセサリソケット	287	ISO FIX 対応チャイルドシート	
アシストグリップ	291	固定バー&トップテザーアンカー	52
足踏み式駐車ブレーキ	184	イモビライザー機能	67
アンダートレイ	297	インジケーターランプ（表示灯）	134
アンダーボックス	298	インナーハンドル	98
アンチロックブレーキシステム		インナー（ルーム）ミラー	115
（ABS）	193	インパネアッパーボックス	
アンテナ	278	（助手席）	295
		インパネアンダートレイ	
		（運転席）	294
		インパネセンタートレイ	294
		インパネロアポケット	294
		インパネトレイ（助手席）	294

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ …	166
ウインカー（方向指示）表示灯 ……	134
ウインドウォッシャー液の補給 ……	314
ウインドガラス （パワーウインド） ……	99
ウインドシールドディアイサー スイッチ ……	277
ウインドデフォッガースイッチ ……	276
ウォーニングランプ（警告灯） ……	122
ウォッシャースイッチ ……	163
ウォッシャータンクの容量 ……	390
上向き表示灯 ……	135
運転席 SRS エアバッグ ……	55
運転席サイドトレイ ……	294
運転席・助手席シートベルト 締め忘れ警告灯 ……	127
運転席シートリフター ……	107

エ

エアクリーナーエレメントの データ ……	392
エアコン ……	266
エアコンガス ……	326
エアバッグ ……	55
エアフィルター ……	326
A/T（オートマチック）車 ……	170
ABS ……	193
ABS 警告灯 ……	130
eco IDLE（エコアイドル） ……	251
eco IDLE OFF スイッチ ……	261
eco IDLE OFF 表示灯 ……	260
eco IDLE 表示灯 ……	259
エコ発電制御 ……	264

eco リーフゲージ ……	153
eco リーフゲージの 表示 / 非表示設定 ……	147
SRS エアバッグ ……	55
SRS エアバッグ警告灯 ……	130
SRS エアバッグコンピューター ……	65
SRS カーテンシールドエアバッグ …	55
SRS サイドエアバッグ ……	55
エマージェンシーキー ……	74
エマージェンシーストップ シグナル ……	250
LED イルミネーション ……	161
LED ヘッドランプ警告灯 ……	131
LLC（冷却水）のデータ ……	392
エンジンオイルのデータ ……	391
エンジンオイルレベルゲージ ……	313
エンジン回転計（タコメーター） …	143
エンジンがかからないとき ……	371
エンジンキー ……	74
エンジン警告灯 ……	123
エンジンスイッチ ……	179
エンジンフード（ボンネット） ……	309
エンジンルーム ……	308

オ

オイルの交換量	391
オイルフィルターのデータ	391
オイルプレッシャー（油圧） 警告灯	123
応急修理セット	362
オートエアコン	266
オートハイビーム	156
オートハイビーム警告灯（黄色）	246
オートハイビーム作動灯（緑色）	244
オート（パワー）ウインド	99
オートマチックシフト インジケーター	137
オートマチック車	170
オートマチック トランスミッション警告灯	126
オートライト機能	154
オーバーヒートの処置	381
オープナー ・フューエルリッド	104
・ボンネット	309
お子さま専用シート	40
オドメーター（積算距離計）	145
オルタネーター（ファン）ベルトの 点検基準値	390
温度調節センサー	275

カ

カーテンシールドエアバッグ	55
カードホルダー	290
外気温	151
買い物フック	302
鍵（キー）	74
格納式アシストグリップ	291
カップホルダー	299
間欠ワイパー（ワイパー・ ウォッシャースイッチ）	163

キ

キー	74
キー（エンジン）スイッチ	179
キー閉じ込み防止機能	93
キーの電池交換	343
キーフリー警告灯	87
キーフリーシステム	78
キーフリーシステムの警告	82
キーを閉じ込めたとき	386
機能停止コード （スマートアシストⅢ）	247
給油口（フューエルリッド）	104
緊急停止するには	387

ク

空気圧のデータ	393
空調	266
クーラー（エアコン）	266
クーラント（冷却水）のデータ	392
区間距離計（トリップメーター）	145
曇り取り	
・フロント	267
・リヤ	276
クラクション（ホーン）スイッチ	166
クリーナー（オイルフィルター）の データ	391
クリーンエアフィルター	326
グリップサポート	196
グローブボックス	294

ケ

警告器（ホーン）スイッチ	166
計器（メーター）	142
警告灯	122
警告ブザー	
・アイドリングストップシステム 警告ブザー	258
・エンジン冷却水温警告ブザー	126
・キーフリーシステム警告ブザー	82
・シートベルト締め忘れ警告ブザー （運転席・助手席）	127
・スマートアシストⅢの ブザー音	248
・駐車ブレーキ警告ブザー	124
・電動動力ステアリング システム警告ブザー	132
・燃料残量警告ブザー	129
・ブレーキ警告ブザー	125
・ライト消し忘れ警告ブザー	160
警報（セキュリティアラーム）の 停止方法	71
けん引されるときの	374

コ

工具	356
高水温警告灯	126
後席（リヤシート）	109
航続可能距離	150
コートフック	292
故障したとき	372
固定バー	52
誤発進抑制制御機能 （前方・後方）	225
小物入れ	
・アームレストボックス	296
・オーバーヘッドコンソール	295
・インパネアッパーボックス	295
・グローブボックス	294
・シートアンダートレイ	297
・シートバックポケット	296
・ドアポケット	297
・ラゲージアンダーボックス	298
コンビネーションメーター	142

サ

サービスデータ	390
サイドアンダーミラー	118
サイドエアバッグ	55
サイド（ドア）ミラー	116
サイドトレイ	294
3点式ELRシートベルト	35
サンバイザー	290

シ

シート	
・フロント	107
・リヤ	109
シートアレンジ	114
シートヒーター （運転席 / 助手席）	289
シートベルト	35
シートベルト締め忘れ警告灯 （運転席・助手席）	127
シートリフター	107
事故が起きたとき	388
室内照明	284
シフトインジケーター	137
シフトレバー	185
シフトロック解除ボタン	187
シフトロック機構	187
車載工具	356
車線逸脱警報 OFF 表示灯	244
車線逸脱警報機能	234
車線逸脱警報作動灯	243
ジャッキの使いかた	358
車両盗難防止（イモビライザー） 機能	67
車両を緊急停止するには	387
集中（パワー）ドアロック	91
充電警告灯	124
使用オイル	391
照度調整	148
衝突回避支援ブレーキ機能 （対車両・対歩行者）	214
衝突警報機能 （対車両・対歩行者）	214
照明	284

助手席 SRS エアバッグ	55
助手席大型シートアンダートレイ …	297
助手席シートバックポケット	296
助手席シートベルト締め忘れ 警告灯	127
ショッピングフック	302

ス

水温警告灯	126
水温表示灯	135
スタック（立ち往生）したとき	371
ステアリングスイッチ	
・オーディオ	279
・D assist 切り替えスイッチ …	191
ステアリングホイール （チルトステアリング）	119
ステレオカメラ	210
スノー（タイヤ）チェーン	350
スパーク（点火）プラグの型式	390
スピードメーター	143
スマートアシスト OFF スイッチ	249
スマートアシスト OFF 表示灯	243
スマートアシスト機能停止コード …	247
スマートアシスト “故障” 表示	245
スマートアシスト作動灯	242
スマートアシストⅢ	207
スマートアシスト “停止” 表示	246
スライド調整	
・フロントシート	107
・リヤシート	109
スリップインジケータ	199

セ

積算距離計（オドメーター）	145
セキュリティアラーム	68
セキュリティアラーム作動の 停止方法	71
セキュリティインジケーター	136
セレクト（シフト）レバー	185
先行車発進お知らせ機能	238
洗車	304
前照灯（ヘッドランプ）の 切り替え	155
前席（フロントシート）	107

ソ

速度計（スピードメーター）	143
ソナー	213

タ

ターボ車	170
ターンシグナルインジケーター （方向指示表示灯）	134
ターンシグナル（方向指示） スイッチ	166
タイヤ交換	317
タイヤチェーン	350
タイヤの点検	315
タイヤのデータ	393
タイヤのローテーション	316
タイヤパンク応急修理セット	362
タコメーター	143
暖房（エアコン）	266

チ

チェーン	350
チェックエンジン警告灯	123
チェンジ（シフト）レバー	185
チケットホルダー	290
チャージ（充電）警告灯	124
チャイルドシート	40
チャイルドシート固定バー	52
チャイルドシートの選びかた	42
チャイルドシートの固定のしかた	48
チャイルドシートの種類	41
チャイルドセーフティ	94
駐車ブレーキ	184
駐車ブレーキの点検基準値	390
駐車ブレーキ未解除警告灯	124
チルトステアリング	119

ツ

ツール（工具）	356
---------	-----

デ

ディアイサースイッチ	277
D assist 切り替えスイッチ	191
TRC	196
TRC OFF 表示灯	199
DAC	201
DAC スイッチ	202
DAC 表示灯	204
低水温表示灯	135
ディスクホイール (タイヤ) の 交換	317
ディスクホイール (タイヤ) の データ	393
テールインジケーター	135
テザーアンカー	52
デザインフィルムトップ	305
デッキ (ラゲージ) アンダー ボックス	298
デッキ (ラゲージ) ルームランプ	285
デファレンシャルオイルの データ	392
デフォッガースイッチ	276
デフロスター (曇り取り)	
・フロント	267
・リヤ	276
デュアル SRS エアバッグ	55
点火プラグの型式	390
電球の交換	330
点検整備項目 (サービスデータ)	390
電子カードキー	74
電子カードキーが 使用できないとき	383
電池の交換	343
電動格納式 (ドア) ミラー	116

電動格納式ヒータードアミラー	118
電動パワーステアリング警告灯	132
電力回生制御	264

ト

ドア	88
ドア (パワー) ウインド	99
ドアポケット	297
ドアミラー	116
ドア運動機能	286
時計	152
トップテザーアンカー	52
トランスファオイルのデータ	392
トランスミッションオイルの データ	391
トリップメーター (区間距離計)	145
ドリンクホルダー	299

ナ

内気センサー 275

ニ

日射センサー 275

ネ

燃費（平均燃費） 149

燃料カットシステム 371

燃料給油口（フューエルリッド） … 104

燃料計 144

燃料残量警告灯 129

燃料（フューエル）タンクの容量 … 390

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ 184

パーキング（駐車）ブレーキの
点検基準値 390

パーキング（駐車）ブレーキ
未解除警告灯 124

ハイビーム（ヘッドランプ上向き）
表示灯 135

ハザードインジケーター
（非常点滅表示灯） 134

ハザード（非常点滅灯）スイッチ … 167

挟み込み防止機構 100

発炎筒 373

バックカメラ 280

バックドア 95

バック（ルーム）ミラー 115

パッシング
（ヘッドランプの切り替え） 155

バッテリー 263

バッテリーあがりの処置 377

バッテリーあがり防止機能 286

バッテリーの型式 390

発電制御 264

パドルシフト 188

バニティーミラー 291

バルブ（電球）の交換 330

パワーウインド 99

パワーステアリング警告灯 132

パワードアロック 91

パワーモード 191

パワーモードインジケーター 192

パンク応急修理セット 362

パンクしたとき 377

半ドア警告灯 128

ハンドル（チルトステアリング） … 119

ヒ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	195
ヒーター (エアコン)	266
ヒートッドミラー	118
被害軽減ブレーキアシスト	215
非常点滅灯スイッチ	167
非常点滅表示灯	134
ヒューズボックス	327
表示灯	134
ヒルスタートシステム	262
ヒルホールドシステム	205

フ

ファンベルトの点検基準値	390
VSC	195
VSC&TRC OFF スイッチ	200
VSC&TRC 警告灯	198
VSC OFF 表示灯	199
Vフレックスフルタイム 4WD	171
フィルターのデータ	
・オイルフィルター	391
・クリーンエアフィルター	326
フォースリミッター機構付 シートベルト	37
フォグランプスイッチ	163
フォグランプ表示灯	135
プッシュボタンスタートスイッチ ..	179
フット (足踏み式駐車) ブレーキ ..	184
不凍液 (冷却水) のデータ	392
フューエルウォーニング (燃料残量警告灯)	129
フューエルタンクの容量	390

フューエル (燃料) カットシステム	371
フューエルメーター (燃料計)	144
フューエルリッド	104
冬用タイヤ	351
プラグの型式	390
プリテンショナー&フォースリミッター 機構付シートベルト	37
ブレーキ (ABS)	193
ブレーキオイルのデータ	392
ブレーキオーバーライドシステム ..	170
ブレーキオーバーライドシステム 表示灯	141
ブレーキ警告灯	125
ブレーキペダルの点検基準値	390
ブレード (ワイパー) の交換	322
フロントアームレスト	288
フロントアームレストボックス	296
フロントシート	107
フロントシートベルト	35
フロントドア	88
フロントパーソナルランプ	284
フロントフォグランプスイッチ	163
フロントワイパー・ウォッシャー スイッチ	163

へ

平均燃費	149
ヘッドランプ上向き表示灯	135
ヘッドランプの切り替え	155
ヘッドランプマニュアル レベリングスイッチ	162
ヘッドレスト	112
ベルトの点検基準値	390

ほ

ホイール（タイヤ）の交換	317
ホイール（タイヤ）のデータ	393
防眩ルームミラー	115
方向指示スイッチ	166
方向指示表示灯	134
ホーンスイッチ	166
補給口（フューエルリッド）	104
ポジション表示 （シフトインジケーター）	137
ボトルホルダー	299
ボンネット	309

ま

前倒し	111
マスターウォーニング	133
窓ガラス（パワーウインド）	99
マルチインフォメーション ディスプレイ	145

み

ミラー	
・ドアミラー	116
・ルームミラー	115

め

メーター	142
メンテナンスデータ （サービスデータ）	390

こ

油圧警告灯	123
-------	-----

こ

4WD 車	171
-------	-----

ら

ライト消し忘れ警告ブザー	160
ライト自動消灯機能	160
ライトスイッチ	154
ラゲージアンダーボックス	298
ラゲージルームランプ	285
ラジエーター液（冷却水）の データ	392
ラバー（ワイパー）の交換	322

リ

リクエストスイッチ	89
リクライニング調整	
・フロントシート	107
・リヤシート	109
リバース連動リヤワイパー	165
リフター	107
リモコンスイッチ	90
リヤウインドデフォッガー	
スイッチ	276
リヤシート	109
リヤシートベルト	35
リヤデファレンシャルオイルの	
データ	392
リヤドア	88
リヤワイパー・ウォッシャー	
スイッチ	165

ル

ルーフアンテナ	278
ルームミラー	115
ルームランプ	285

レ

冷却水のデータ	392
冷房（エアコン）	266
レベリングスイッチ	162

ロ

ローテーション	316
---------	-----

ワ

ワイパー・ウォッシャースイッチ	163
ワイパーの交換	322
W数（電球）	330
ワンプッシュ式オートオープン	
カップホルダー	299

3

3点式ELRシートベルト	35
--------------	----

4

4WD車	171
------	-----

A		I	
ABS	193	ISO FIX 対応チャイルドシート	
ABS 警告灯	130	固定バー&トップテザーアンカー	52
A/C (エアコン)	266	L	
A/T (オートマチック) 車	170	LED イルミネーション	161
D		LED ヘッドランプ警告灯	131
D assist 切り替えスイッチ	191	LLC (冷却水) のデータ	392
DAC	201	S	
DAC スイッチ	202	SRS エアバッグ	55
DAC 表示灯	204	SRS エアバッグ警告灯	130
E		SRS エアバッグコンピューター	65
EBD	193	T	
eco IDLE OFF スイッチ	261	TRC	196
eco IDLE OFF 表示灯	260	TRC OFF 表示灯	199
eco IDLE (エコアイドル)	251	V	
eco IDLE 表示灯	259	VSC	195
eco リーフゲージ	153	VSC OFF 表示灯	199
eco リーフゲージの		VSC&TRC OFF スイッチ	200
表示 / 非表示設定	147	VSC&TRC 警告灯	198
EPS (電動パワーステアリング)		V (ファン) ベルトの点検基準値	390
警告灯	132	V フレックスフルタイム 4WD	171
		W	
		W 数 (電球)	330

-
- “スマートアシスト” “eco IDLE” “キーフリーシステム” “アミックス” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M B2451
01999-B2451
KB-2018年10月29日
2018年2月23日 初版
2018年11月5日 3版
ピクシス ジョイ